## 〔病態制御学講座〕

## （1）解剖学分野

### 1. 研究の概要

これまでと同様，肉眼臨床解剖学的研究と，骨とカルシウム代謝器官の実験形態学的研究をメインとして，以下の研究を展開した。

1）ヒト血管系・筋系・末梢神経系の肉眼解剖学的解析：解剖実習遺体を用い，血管系・筋系・末梢神経系の変異出現パターンのデータ解析を行った。

2）肉眼臨床解剖学の教育システムおよび教材の開発：医学部学生に対する効果的な解剖学教育（臨床上特に必要とされる解剖学）を行うための方法および教材の模索・開発を行った。平成 18 年度および 19 年度の岐阜大学活性化経費（教育）に採択され，学生が立体的に理解するのが困難である部位の模型作製，肉眼解剖実習の手順等を解説するビデオの作製を行った。

3）老年性骨粗鬆症モデルマウス（SAMP6）を用いた，漢方薬が骨の微細構造に及ぼす影響の形態学的研究。

4）ヒト大腿骨頸部の形態学的解析。

5）ヒト用対海綿骨の形態学的解析。

### 2. 名簿

准教授：　早川大輔　　Daisuke Hayakawa

講師：　東　華岳　　Kagaku Azuma

### 3. 研究成果の発表

著書（和文）

1）早川大輔．森山慶子，塩崎　維編．人体のしくみがよくわかる！Q&A（PART 2「内分泌・筋・骨・感覚器・生殖器・その他の Q&A）：プチナース　第 16 巻，東京：照林社；2007 年：30－41.

2）早川大輔．後藤英司，木村一雄，小西真人編．構造と機能：循環器系　コア・カリキュラムテキスト，東京：文光堂；2008 年：20－32，36－37.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

なし

総説（欧文）

なし

原著（和文）

1）川尻　傑，周　向栄，陳　華岳，原　武史，藤田廣志，横山龍二郎，桐生拓司，星　博昭．3 次元造影 CT 画像における平面分割を用いた心臓構造の認識と肺血管分類への応用，信学技報　2006 年；MI2005-135：109－112.

2）小島慎平，周　向栄，原　武史，藤田廣志，陳　華岳，横山龍二郎，星　博昭．人体の解剖学的構造認識のための体幹部 X 線 CT 画像における骨格構造の自動解析，信学技報　2006 年；MI2006-77：43－48.

3）江村正一，奥村年彦，陳　華岳．ニホンザル舌乳頭の結合織芯の観察，形態・機能　2007 年；5 巻：69－73.

4）林　達郎，周　向栄，陳　華岳，原　武史，藤田広志，横山龍二郎，桐生拓司，兼松雅之，星　博昭．X 線 CT 像における椎体間の骨密度値の相関性の研究，電子情報通信学会技術研究報告　2007 年；107 巻：53－57.

5）神谷直希，周　向栄，陳　華岳，原　武史，藤田広志，横山龍二郎，兼松雅之，星　博昭．体幹部 X 線 CT 画像における骨格の位置情報を用いた側腹筋と大腰筋の自動認識，電子情報通信学会技術研究報告 2007 年；107 巻：23－27.

6）林　達郎，周　向栄，陳　華岳，原　武史，藤田広志，横山龍二郎，桐生拓司，星　博昭．X 線 CT 像における脊椎椎体部の骨密度の調査，医用生体工学　2007 年；45 巻：256－266.

7）林　達郎，周　向栄，陳　華岳，原　武史，藤田広志，横山龍二郎，兼松雅之，星　博昭．X 線 CT 像における人体の椎体海綿骨の骨密度の不均質性に関する研究，信学技報　2008 年；MI2007-143：435－438.

8）江村正一，奥村年彦，陳　華岳．タヌキおよびハクビシン舌乳頭の結合織芯の走査型電子顕微鏡による観察，形態・機能　2008 年；6 巻：75－81.

9) 二宮啓彰，周　向栄，陳　華岳，原　武史，藤田広志，横山龍二郎，兼松雅之，星　博昭．X 線 CT 画像における胸郭下口の自動抽出と横隔膜の自動推定への応用，信学技報　2008 年；MI2007-85：107－110.
10) 韓　明旭，林　達郎，周　向栄，陳　華岳，原　武史，藤田広志，横山龍二郎，兼松雅之，星　博昭．体幹部X線 CT 画像における解剖学的位置情報に基づく下肢骨の自動認識，信学技報　2008 年；MI2008-14：75－80.
11) 神谷直希，周　向栄，陳　華岳，原　武史，藤田広志，横山龍二郎，兼松雅之，星　博昭．体幹部 X 線 CT 画像における横隔膜の位置情報を用いた大腰筋自動認識法の改良，信学技報　2008 年；MI2008-13：71－74.
12) 林　達郎，周　向栄，陳　華岳，原　武史，藤田広志，横山龍二郎，兼松雅之，星　博昭．X 線 CT 像における気管・気管支の形状情報の計測，医用画像情報学会雑誌　2008 年；25 巻：18－21.
13) 林　達郎，周　向栄，陳　華岳，原　武史，藤田広志，横山龍二郎，兼松雅之，星　博昭．X 線 CT 画像からの椎体海綿骨部における骨密度の分布の解析，信学技報　2008 年；MI2008-26：35－40.
14) 周　向栄，Song Wang，Pahal Dalal，Mike McLaughlin，陳　華岳，原　武史，藤田広志，横山龍二郎，兼松雅之，星　博昭．3 次元の面図形の位置合わせによる横隔膜の形状モデルの構築，信学技報　2008 年；MI2008-34：73－78.
15) 江村正一，奥村年彦，陳　華岳．スズメの舌乳頭とその結合織芯の走査型電子顕微鏡による観察，形態・機能　2008 年；7 巻：7－12.
16) 江村正一，奥村年彦，陳　華岳．オオタカの舌乳頭とその結合織芯の走査型電子顕微鏡による観察，解剖誌　2008 年；83 巻：77－80.
17) 神谷直希，周　向栄，陳　華岳，原　武史，藤田広志，横山龍二郎，兼松雅之，星　博昭．骨格と骨格筋の解剖学的位置関係に基づく体幹部 X 線 CT 画像からの骨格筋の自動抽出，電子情報通信学会論文誌 2008 年；J91-D：1918－1922.
18) 林　達郎，周　向栄，陳　華岳，原　武史，藤田 広志，横山龍二郎，兼松雅之，星　博昭．X 線 CT 画像からの人体の椎体海綿骨部における低骨密度領域の分布に関する研究，生体医工学　2008 年；46 巻：451－457.

原著（欧文）

1) Chen H, Shoumura S, Emura S. Bilateral thoracic ducts with coexistent persistent left superior vena cava. Clin Anat. 2006;19:350-353. IF 0.702
2) Chen H, Emura S, Shoumura S. Ultrastructure of the water-clear cell in the parathyroid gland of SAMP6 mice. Tissue Cell. 2006;38:187-192. IF 1.132
3) Taguchi H, Chen H, Yano R, Shoumura S. Comparative effects of milk and soymilk on bone loss in adult ovariectomized osteoporosis rat. Okajimas Folia Anat Jpn. 2006;83:53-59.
4) Chen H, Yao XF, Emura S, Shoumura S. Morphological changes of skeletal muscle, tendon and periosteum in the senescence-accelerated mouse (SAMP6): a murine model for senile osteoporosis. Tissue Cell. 2006;38:325-335. IF 1.132
5) Yao XF, Chen H, Ohtake N, Shoumura S. The morphological alterations in the growth plate cartilage of ovariectomized mice. Medical Mol. Morphol. 2006;39:193-197.
6) Emura S, Okumura T, Chen H, Shoumura S. Morphology of the lingual papillae in the raccoon dog and fox. Okajimas Folia Anat. Jpn. 2006;83:73-76.
7) Yao XF, Chen H, Emura S, Otake N, Shoumura S. Effects of hPTH (1-34) and Gosga-jinki-gan on the trabecular bone microarchitecture in ovariectomized rat tibia. Okajimas Folia Anat. Jpn. 2007;83:107-114.
8) Otake N, Chen H, Yao XF, Shoumura S. Morphologic study of the lateral and medial collateral Ligaments of the human knee. Okajimas Folia Anat Jpn. 2007;83:115-122.
9) Abe C, Tanaka K, Awazu C, Chen H, Morita H. Plastic alteration of vestibulo-cardiovascular reflex induced by 2 weeks of 3-G load in conscious rats. Exp Brain Res. 2007;181:639-646.
10) Zhou X, Ninomiya H, Hara T, Fujita H, Yokoyama R, Chen H, Kiryu T, Hoshi H. Automated estimation of the upper surface of the diaphragm in 3-D CT images. IEEE Transactions on Biomedical Engineering. 2008;55:351-353. IF 2.302
11) Chen H, Okumura T, Emura S, Shoumura S. Scanning electron microscopic study of the human auditory ossicles. Ann Anat. 2008;190:53-58. IF 0.672
12) Chen H, Shoumura S, Emura S, Bunai Y. Regional variations of vertebral trabecular bone microstructure with age and gender. Osteoporos Int. 2008;19:1473-1483. IF 3.718
13) Chen H, Zhou X, Washimi Y, Shoumura S. Three-dimensional microstructure of the bone in a hamster model of senile osteoporosis. Bone. 2008;43:494-500. IF 3.829
14) Emura S, Okumura T, Chen H. Scanning electron microscopic study of the tongue in the peregrine falcon and common kestrel. Okajimas Folia Anat Jpn. 2008;85:11-15.
15) Emura S, Okumura T, Chen H. Morphology of the lingual papillae and their connective tissue cores in the cape hyrax. Okajimas Folia Anat Jpn. 2008;85:29-34.
16) Zhou X, Han M, Hara T, Fujita H, Sugisaki K, Chen H, Lee G, Yokoyama R,Kanematsu M, Hoshi H. Automated segmentation of mammary gland regions in non-contrast X-ray CT images. Comput Med Imaging Graph. 2008;32:699-709. IF 0.909

17) Aoki H, Hara A, Motohashi T, Chen H, Kunisada T. Iris as a recipient tissue for pigment cells: organized in vivo differentiation of melanocytes and pigmented epithelium derived from embryonic stem cells in vitro. Dev Dyn. 2008;237:2394-2404. IF 3.169

18) Emura S, Chen H. Scanning electron microscopic study of the Tongue in the Owl (*Strix uralensis*). Anat Histol Embryol. 2008;37:475-478. IF 0.593

## 4. 研究費獲得状況

### 1）競争的資金

1) 研究代表者：早川大輔；平成 18 年度岐阜大学活性化経費(教育)：人体構造コース(マクロ編)(ビデオの作製等)；平成 18 年度；430 千円

2) 研究代表者：早川大輔；平成 19 年度岐阜大学活性化経費(教育)：人体構造コース(マクロ編)(ビデオの作製等)；平成 19 年度；355 千円

### 2）受託研究

なし

### 3）共同研究

なし

## 5. 発明・特許出願状況

なし

## 6. 学会活動

### 1）学会役員

東　華岳：

1) 日本臨床分子形態学会評議員(～現在)

2) 日本顕微鏡学会関西支部幹事(平成 20 年 4 月～現在)

### 2）学会開催

なし

### 3）学術雑誌

なし

## 7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

東　華岳：

1) Convention of the pharmaceutical society of Korea (2008.10, Soul,「Herbal medicines in the prevention and treatment of osteoporosis.」演者)

## 8. 学術賞等の受賞状況

1) 林　達郎，周　向栄，原　武史，藤田広志，横山龍二郎，桐生拓司，陳　華岳，星　博昭：電子情報通信学会平成 19 年度学術奨励賞(平成 20 年度)

## 9. 社会活動

東　華岳：

1) 岐阜県准看護師試験委員(～現在)

## 10. 報告書

なし

## 11. 報道

1) 磯野日出夫，正村静子，東　華岳：アマドコロに美肌効果　マウス実験で確認：毎日新聞(2006 年 10 月 19 日)

2) 岐阜大学大学院医学系研究科の東華岳講師らの研究グループ：ユリ科のアマドコロに美容効果マウ

ス実験で確認：日本農業新聞(2007 年 9 月 21 日)

## 12. 自己評価

評価

学内外における管理・運営等に関する業務にとられる時間が増加した中で，教育の比重が極めて大きい分野である。平成 19 年度より教員は 2 名となり，大学院生および研究生といった研究スタッフも新たに迎えていない。このような厳しい現状の中，業績の不足は否めない。教育に軸足をおいた研究に，一層の努力が必要と思われる。

現状の問題点及びその対応策

深刻なマンパワー不足を抱えているが，決定的な解決策はない。また，肉眼解剖学的研究は，多くの時間と労力を要する割に，得られる結果が少なく，成果が目立たない。全国的・全世界的に，肉眼解剖学を専門とする解剖学者は減少の一途を辿り，その存続が危ぶまれている。しかし，臨床医のみならずコメディカル領域の医療従事者にとってその必要性・重要性は言うまでもない。こうした人的不足と現実のニーズとの乖離が最大の問題であると考えるが，具体的な解決策は見出されない。

臨床解剖学教育およびその研究に関し，平成 19 年度に発足した「医学教育ユニット（解剖系）」の活動は未だ本格的な軌道に乗っていないが，徐々にその活動を活性化していく準備を進めている。

今後の展望

肉眼解剖学および臨床解剖学の教育・研究に携わる解剖学者が著しく減少している昨今，これらの領域に興味を持つ人材を多く確保し，育成することが急務である。他大学の解剖学分野等あるいはコメディカル系専門学校等との密接な連携による共同研究も必要と思われる。また，学内において『臨床解剖学研究会』のようなものを立ち上げるなどして，臨床系分野との連携を一層密にし，共同研究を進めていく可能性を探りたい。さらには，模型やコンピュータグラフィックス，各種画像解剖学的手法を駆使し，シミュレーション医学教材をも含めた総合医学的な臨床解剖学教育のシステムを開発・実践したい。

## （2）分子病態学分野

### 1. 研究の概要

当教室では，ヒト Aurora 遺伝子の 3 種を世界に先駆けてクローニングし，その細胞生物学的な機能を明らかにしようと研究を進めて来た。Aurora A は中心体に局在してその成熟や分離に関与して細胞分裂の導入を促進して紡錘体形成に極めて重要な役割を果たす。Aurora B は染色体のセントロメアに局在して細胞分裂初期の事象としてのヒストン H3 のリン酸化や染色体の凝縮に関わり，分裂後期以降は収縮輪の形成や紡錘体の脱重合に重要な役割を果たす。Aurora C は，基本的に Aurora B と同様の役割を果たす。種々のがん細胞やがん組織で Aurora キナーゼファミリータンパク質が高発現していることも知られ，無秩序な細胞増殖へと繋がると考えられている。我々は Aurora A や Aurora B のプロモーター領域をクローニングし，その発現調節に関わるタンパク質性転写因子である Ets ファミリー，特に骨肉腫に関与する EWS-Fli1 による転写調節を解析した。

RNA 干渉による遺伝子ノックダウンの手法は，タンパク質の機能を解析する上で極めて有用な手段である。中心体キナーゼ Aurora A の siRNA によるノックダウンにより細胞死（apoptosis）がもたらされるが，他の中心体タンパク質とのダブルノックダウンやがん抑制遺伝子 p53 との関連について解析している。

看護学科・武藤吉徳教授は，我々と同じく中心体に興味をもっておられ，共同研究を行っている。武藤教授は，中心体の中でも中心小体に局在して coiled-coil や leucine zipper 構造をもつ新規ヒト CLERC 遺伝子をクローニングした。その遺伝子導入による過剰発現や，siRNA 導入によるノックダウンが細胞分裂の異常をもたらすことを明らかにした。

細胞内の選択的なタンパク質分解にユビキチン-プロテアソーム系が重要な役割を果たしている。当教室では N 末伸長型ユビキチン付加酵素（ubiquitin-conjugating enzyme, E2）の UBE2E2 や UBE2E3 の遺伝子をクローニングし，その細胞生物学的な機能を明らかにしようと研究を進めて来た。酵母 two-hybrid system を用いて UBE2E2 の結合パートナーとしてユビキチンリガーゼ（ubiquitin ligase, E3）の RNF8 をクローニングしてその機能を解析しようとしている。2007 年末に 4 つのグループから RNF8 が，放射線による DNA2 本鎖切断に際してヒストン H2A や H2AX をユビキチン化して，損傷部位に修復タンパク質を集めるために重要な役割を果たしていることが報告された。紫外線や各種薬剤などによる DNA 傷害における RNF8 の役割や，その下流のシグナル系について解析している。

### 2. 名簿

| | | |
|---|---|---|
| 教授： | 岡野幸雄 | Yukio Okano |
| 助教： | 木村正志 | Masashi Kimura |
| 助教： | 吉岡　孝 | Takashi Yoshioka |

### 3. 研究成果の発表

著書（和文）

1） 中島　茂，岡野幸雄．一瀬白帝，鈴木宏治編著．図説 分子病態学－Ⅱ分子病態学基礎知識　細胞内シグナル伝達－ 第 4 版，東京：中外医学社；2008 年：46－49.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

なし

総説（欧文）

なし

原著（和文）

なし

原著（欧文）

1） Kuwata H, Yoshioka T, Muto Y, Kuwata K, Okano Y. Structural and functional characterization of NP25, a single CH domain protein. Acta Schol Med Univ Gifu. 2006;54:1-7.

2） Plans V, Scheper J, Soler M, Loukili N, Okano Y, Thomson TM. The RING finger protein RNF8 recruitsUBC13 for Lysine 63-based self polyubiquitylation. J Cell Biochem. 2006;97:572-582.　IF 3.381

3) Kimura M, Okano Y. Human Misato regulates mitochondrial distribution and morphology. Exp Cell Res. 2007;313:1393-1404. IF 3.695
4) Yoshimura K, Muto Y, Shimizu M, Matsushima-Nishiwaki R, Okuno M, Takano Y, Tsurumi H, Kojima S, Okano Y, Moriwaki H. Phosphorylated retinoid X receptor α loses its heterodimeric activity with retinoic acid receptor β. Cancer Sci. 2007;98:1868-1874. IF 3.165
5) Banno Y, Nemoto S, Murakami M, Kimura M, Ueno Y, Ohguchi K, Hara A, Okano Y, Kitade Y, Onozuka M, Murata T, Nozawa Y. Depolarization－induced differentiation of PC12 cells is mediated by phospholipase D2 through the transcription factor CREB pathway. J Neurochem. 2008;104:1372-1386. IF 4.451
6) Muto Y, Yoshioka T, Kimura M, Matsunami M, Saya H, Okano Y. An evolutionarily conserved leucine-rich repeat protein CLERC is a centrosomal protein required for spindle pole integrity. Cell Cycle. 2008;7:2738-2748. IF 3.314
7) Wakahara K, Ohno T, Kimura M, Masuda T, Nozawa S, Dohjima T, Yamamoto T, Nagano A, Kawai G, Matsuhashi A, Saitoh M, Takigami I, Okano Y, Shimizu K. EWS-Fli1 up-regulates expression of the aurora a and aurora B kinases. Mol Cancer Res. 2008;6:1937-1945. IF 4.317

## 4. 研究費獲得状況

### 1）競争的資金

1） 研究代表者：岡野幸雄，研究分担者：武藤吉徳，吉岡　孝；文部科学省化学研究費補助金基盤研究(C)(2)：レチノイド X 受容体と RING タンパク質の相互作用とそのユビキチン化・転写への効果；平成 16－17 年度；3,700 千円(1,900：1,800 千円)
2） 研究代表者：森脇久隆，研究分担者：岡野幸雄，田中卓二，小嶋聡一，西口修平，清水雅仁；文部科学省科学研究費補助金特定領域研究：核内受容体蛋白を標的とした肝癌化学予防に関する研究；平成 17－21 年度；82,300 千円(16,300：16,300：16,300：16,300：17,100 千円)
3）研究代表者：木村正志，研究分担者：岡野幸雄；岐阜大学活性化経費(研究)：オーロラキナーゼの細胞分裂における発がんの関連の解析；平成 19 年度；1,130 千円

### 2）受託研究

なし

### 3）共同研究

なし

## 5. 発明・特許出願状況

なし

## 6. 学会活動

### 1）学会役員

岡野　幸雄：
1） 日本生化学会評議員(～現在)
2） 平成 19 年度日本生化学会中部支部・支部長(平成 19 年 9 月～20 年 8 月)

### 2）学会開催

岡野幸雄：
1） 第 72 回日本生化学会中部支部例会(平成 20 年 5 月，シンポジウム「細胞周期制御の最前線」，岐阜)

### 3）学術雑誌

なし

## 7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

岡野幸雄：
1） 第 72 回日本生化学会中部支部例会(平成 20 年 5 月，岐阜，シンポジウム「細胞周期制御の最前線」座長)

## 8. 学術賞等の受賞状況

なし

## 9. 社会活動

なし

## 10. 報告書

1） 岡野幸雄，武藤吉徳，吉岡孝：レチノイドX受容体とRINGタンパク質の相互作用とそのユビキチン化・転写への効果：平成16年度－17年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(2)　研究成果報告書：1－53(2006年4月)

## 11. 報道

なし

## 12. 自己評価

評価

平成20年5月に岐阜で日本生化学会中部支部例会・シンポジウムを開催できたのは，細胞周期制御の領域での著明なシンポジストにご講演いただけたことに加えて，教室員一同及び学内に留まらず学外の関係各位にもご協力いただいた賜物と感謝している。手作りの小さな学会という印象ではあったが，岐阜での開催にも拘わらず学内外からの協力により50題を越える一般演題が集まり，参加者には楽しんでいただけたことと確信している。教室員一同が力を合わせて研究の推進や教室の発展に努めることの重要性を実感できた。

現状の問題点及びその対応策

資金面及び人的資源面で苦戦しているが，大学院生の獲得などを目指して学部学生との接触の機会を増やす努力が必要である。基礎・社会医学系教室へ配属される初期体験実習IIの期間が2008年度から6週間に増えることや，MD. PhD.コースの試みが始まろうとしており，基礎系教員が学生獲得にさらに努力する必要がある。

今後の展望

Auroraは細胞周期の制御に重要なキナーゼであり，その研究は著しい発展を示している。ユビキチン-プロテアソーム系は，細胞周期の制御のみならず種々の生物現象に関連している。RNF8はDNA修復に重要なタンパク質であることも明らかとなった。研究テーマとしては細胞増殖やがんのキーワードに繋がる研究分野である。個々のメンバーがもてる力を十分に発揮して，それぞれの研究を僅かずつでも進める地道な努力を重ねて行きたい。

## （3）高度先進外科学分野

### 1. 研究の概要

冠動脈バイパス術におけるグラフト選択は重要な課題であり，長期予後を決定する。内胸動脈は既に長期開存が良好であることが証明されているが，その使用には数の制限，年齢による制限がある。一方静脈グラフトの長期開存率は不良であるが，未だに有用なグラフトである。その静脈グラフトの長期開存の改善のために，内皮増殖，中膜増殖を抑制できれば画期的な研究になる。教室では動物バイパスモデルを作製し，抗癌剤，抗生物質の投与が，内膜増殖を抑制することを証明した。今後臨床応用への発展を図る。また冠動脈あるいは下肢動脈における血管新生医療は今後も重要なテーマである。教室では大網の VEGF に着目し，心筋梗塞モデルを作製し，G-CSF 全身投与と大網ラッピングによる血管新生の相乗効果を証明した。

消化器外科では，障害肝の治療や術後肝再生に関する研究を中心に進めている。障害肝の治療は，NASH 肝硬変に対し h-HGF を遺伝子導入することにより肝線維化の抑制が可能であることを確認した。術後肝再生に関する研究は，肝移植時の肝静脈再建不良で問題となるうっ血による肝再生不良部分を G-CSF で改善できることを示した。また，大量肝切除前に行う門脈塞栓術を二段階に分けて行うことにより，より大きな肝再生が得られることを明らかにした。現在 NFκB 阻害剤による NASH 肝の虚血耐容能改善，LPS 感作による術後肝不全予防，大建中湯による大量肝切除後肝再生改善，PGI2 による閉塞性大腸炎の治療，抗菌ペプチドによる体内人工物感染の治療を研究中である。

肺葉切除後の肺動脈血管床減少による右心負荷はしばしば遭遇する合併症である。動物での肺葉切除モデルを作製し，G-CSF を用いた肺切除後の肺再生促進効果を検討した結果，右心不可の軽減，右室心筋重量増加の抑制ができ，肺動脈新生の証明ができた。今後も増加する COPD 合併肺切除などに対しての治療戦略上，重要な研究であり，今後は肺胞新生に関しても研究を続ける。

以上，臨床上の課題に対して基礎実験を行いつつ，心臓血管外科，呼吸器外科，消化器外科の領域で臨床応用を目指した研究を行っている。

### 2. 名簿

| | | |
|---|---|---|
| 教授： | 竹村博文 | Hirofumi Takemura |
| 教授(併任)： | 山田卓也 | Takuya Yamada |
| 講師： | 岩田　尚 | Hisashi Iwata |
| 講師： | 島袋勝也 | Katsuya Shimabukuro |
| 臨床講師： | 白橋幸洋 | Koyo Shirahashi |
| 臨床講師： | 吉田直優 | Naomasa Yoshida |
| 臨床講師： | 水野吉雅 | Yoshimasa Mizuno |
| 臨床講師： | 關野考史 | Takafumi Sekino |
| 医員： | 石田成吏洋 | Narihiro Ishida |
| 医員： | 木村真樹 | Masaki Kimura |
| 医員： | 松友将純 | Masasumi Matsutomo |
| 医員： | 名知　祥 | Syo Nachi |
| 医員： | 加藤喜彦 | Yoshihiko Katou |

### 3. 研究成果の発表

著書（和文）

1） 前原正明，坂田隆造，島本光臣，高原善治，竹村博文．狭小弁輪に対する大動脈弁置換術―予定討論―：胸部外科において何が標準術式となりうるか：日本胸部外科学会卒後教育委員会編．東京：特定非営利法人日本胸部外科学会；2007 年：52－70.

2） 竹村博文．外科疾患を見逃すな！こんな患者どうする？‐胸が痛い！‐：宮地良樹編集主幹，郡 義明，上田裕一．服部隆一編．臨床研修プラクティス，東京：文光堂；2007 年：14－20.

3） 竹村博文．冠血行再建術‐術前・術中・術後管理‐：龍野勝彦，重松　宏，幕内晴朗，四津良平．安藤秀雄編．心臓血管外科テキスト，東京：中外医学社；2007 年：236－242.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1） 岩田　尚，竹村博文．肺癌‐術前診断における FDG-PET の有用性‐，臨床雑誌「外科」2006 年；68 巻：

661－666.

2) 岩田　尚，白橋幸洋，松本真介，松井雅史，竹村博文．外科の常識・非常識 - 人には聞けない素朴な疑問 42 - 開胸手術は後側方切開が標準か，臨床外科　2007 年；62 巻：822－823.

3) 熊田恵介，吉田隆浩，豊田泉，小倉真治，山田卓也，村上啓雄，福田充宏．地方における救急医療体制の現状と問題点　今，何が必要急務であるか，へき地・離島救急医療研究会誌　2008 年；9 巻：75－78.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

1) 宮原利行，飯田辰美，水谷憲威，安村幹央，山田卓也，竹村博文．3 度の開腹手術により救命した劇症型アメーバ性大腸炎の 1 例，日本臨床外科学会雑誌　2006 年；67 巻：122－126.

2) 宮原利行，飯田辰美，水谷憲威，安村幹央，山田卓也，竹村博文．超音波内視鏡下吸引細胞診が有効であった非機能性膵島細胞腫の 1 例，日本臨床外科学会雑誌　2006 年；67 巻：429－433.

3) 宮原利行，飯田辰美，後藤全宏，水谷憲威，安村幹央，棚橋俊介，山田卓也，竹村博文．鼠径ヘルニアが関与したと考えられる針金による回腸穿孔の 1 例，日本腹部救急医学会雑誌　2006 年；26 巻：455－458.

4) 松尾　浩，山田卓也，關野考史，吉田直優，木山　茂，岩田　尚，白橋幸洋，竹村博文．Hand-assisted laparoscopic surgery(HALS)下に脾臓摘出術を行った脾炎症性偽腫瘍の 1 例，日本内視鏡外科学会雑誌 2006 年；11 巻：185－189.

5) 岩下拓司，安田一朗，中井　実，大島靖広，白木　亮，森脇久隆，松尾　浩，關野考史，山田卓也，廣瀬善信．主膵管狭窄をきたした膵内分泌腫瘍の 1 例，肝胆膵治療研究会誌　2006 年；4 巻：63－68.

6) 木村真樹，山田卓也，關野誠史郎，木山　茂，名知　祥，關野考史，阪本研一，竹村博文．術後 4 年間無再発生存中である石灰化胃癌の 1 例，日本外科系連合学会誌　2006 年；31 巻：841－844.

7) 宮原利行，木山　茂，松尾　浩，關野考史，山田卓也，竹村博文．α-fetoprotein 産生結腸癌の 1 例，日本臨床外科学会雑誌　2006 年；67 巻：149－153.

8) 木村真樹，山田卓也，木山　茂，關野考史，松尾　浩，竹村博文．膵内副脾に合併した類上皮腫の 2 例，日本臨床外科学会雑誌　2006 年；67 巻：196－200.

9) 山田卓也，關野考史，松尾　浩，井原　頌，木村真樹，木山　茂，竹村博文．初回手術大量出血後，二期的に切除した骨盤発生 Solitary fibrous tumor の 1 例，日本腹部救急医学会雑誌　2006 年；26 巻：889－892.

10) 關野考史，山田卓也，吉田直優，宮原利行，木山　茂，竹村博文．急性骨髄単球性白血病治療中に発生した肝膿瘍に対し，腹腔鏡下膿瘍開窓術を施行した 1 例，日本外科系連合学会誌　2006 年；31 巻：975－978.

11) 木村真樹，山田卓也，木山　茂，關野考史，竹村博文．ERCP 後膵炎の後に肝左葉切除術を施行し術後膵膿瘍を発生した肝内胆管癌の 1 例，日本外科系連合学会誌　2006 年；31 巻：979-982.

12) 早川麻理子，村瀬佳代子，山田卓也，岩田　尚，竹村博文．小児 NST における栄養士の役割 - 栄養障害患児に対する周術期栄養管理 -，小児外科　2007 年；39 巻：823－827.

13) 島袋勝也，宮内忠雅，福本行臣，初音俊樹，村上栄司，石田成吏洋，真鍋秀明，竹村博文．造影 CT を用いた側副血行路発達の評価 - 閉塞性動脈硬化症(ASO)に塩酸サルポグレラートを使用した症例での検討 -，Angiology Frontier　2007 年；6 巻：66－69.

14) 宮内忠雅，島袋勝也，今泉松久，福本行臣，竹村博文．冠状動脈バイパス術における近位側遮断試験による術中グラフト評価，日本冠疾患学会雑誌　2007 年；13 巻：195－200.

15) 松本真介，岩田　尚，白橋幸洋，廣瀬善信，水野吉雅，松井雅史，竹村博文．FDG-PET で異なる所見を示した肺硬化性血管腫の 2 例，日本呼吸器外科学会雑誌　2007 年；21 巻：86－91.

16) 宮内忠雅，島袋勝也，村上栄司，福本行臣，石田成吏洋，初音俊樹，真鍋秀明，竹村博文．完全房室ブロック，心不全を契機に診断された成人大動脈縮窄症の 1 手術例，日本心臓血管外科学会雑誌　2008 年；37 巻：247－251.

17) 村上栄司，島袋勝也，宮内忠雅，竹村博文，松橋延壽，豊田　泉，白井邦博，土井智章，小倉真治．外傷性胸部大動脈損傷 9 例の検討，日本外傷学会雑誌　2008 年；22 巻：322－325.

18) 村上栄司，加藤久晶，竹村博文，島袋勝也，宮内忠雅，滝谷博志，松橋延壽，豊田　泉，小倉真治．十分な初期治療の得られなかった鈍的心損傷の 4 救命例，日本外傷学会雑誌　2008 年；22 巻：326－329.

原著（欧文）

1) Iwata H, Itokazu M, Shirahashi K, Matsumoto S, Mizuta K, Takemura H. Sterilization using antibiotic-impregnated porous hydroxyapatite block for osteomyelitis of rib and sternum：A case report. J Jpn Coll Surg. 2007;32:150-152.

2) Shimabukuro K, Miyauchi T, Takemura H. Rupture of left common iliac artery aneurysm. J Vasc Surg. 2007;45:1083.　IF 3.311

3) Takemura H, Fukumoto Y, Miyauchi T, Shimabukuro K, Imaizumi M, Ishida N. Easy technique for mounting the heartstring system into the sheath. Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2007;15:444-445.

4) Iwata H, Kiryu T, Shirahashi K, Matsumoto S, Matsui M, Takemura H. Right lower lobectomy after right upper lobectomy for multiple metastases in lung cancer of the right lower lobe: benefit of middle lobe preservation. J Thorac Cardiovasc Surg. 2007;134:1078-1080.　IF 3.560

5) Yoshida N, Iwata H, Yamada T , Sekino T, Matsuo H, Shirahashi K, Miyahara T, Kiyama S, Takemura

H. Improvement of the survival rate after rat massive hepatectomy due to the reduction of apoptosis by caspase inhibitor. J Gastroenterol Hepatol. 2007;22:2015-2021. IF 1.785

6) Mizuno Y, Iwata H, Matsumoto S, Shirahashi K, Maui T, Takemura H. Three pulmonary resections for metastatic lung cancer from hepatocellular carcinoma. J Hepatobiliary Pancreat Surg. 2007;14:582-585. IF 1.182

7) Marui T, Iwata H, Shirahashi K, Matsumoto S, Mizuno Y, Matsui M, Takemura H. Histologic damage of lung allografts according to magnitude of acute rejection in the re-isotransplant model. J Heart Lung Transplant. 2008;27:642-648. IF 2.830

8) Kato H, Kanematsu M, Kiryu T, Iwata H, Shirahashi K, Matsumoto S, Hirose Y, Matsutomo H, Sasaoka I. Nonfunctional mediastinal parathyroid cyst: imaging finding in two cases. Clin Imaging. 2008;32:310-313.

9) Kiyama S, Yamada T, Iwata H, Sekino T, Matsuo H, Yoshida N, Miyahara T, Matsuno Y, Kimura M, Matsumoto K, Nakamura T, Takemura H. Reduction of fibrosis in a rat model of non-alcoholic steatohepatitis cirrhosis by human HGF gene transfection using electroporation. J Gastroenterol Hepatol. 2008;23:471-476. IF 1.785

## 4. 研究費獲得状況

### 1）競争的資金

1) 研究代表者：山田卓也，研究分担者：關野考史，松尾　浩；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)：インピーダンス CT を用いたセンチネルリンパ節検出法の確立に関する研究；平成 15－18 年度；3,800 千円(2,900：200：300：400 千円)

2) 研究代表者：岩田　尚，研究分担者：竹村博文，白橋幸洋，松本真介；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)：ドナー肺への自己骨髄細胞癒合による肺再生に関する実験的検討；平成 18－19 年度；3,600 千円(3,100：500 千円)

3) 研究代表者：白橋幸洋，研究分担者：竹村博文，岩田　尚，松本真介；科学研究費補助金萌芽研究：COPD に対する intrathoracic balloon pumping の開発；平成 18－19 年度；3,300 千円(2,300：1,000 千円)

4) 研究代表者：今泉松久；科学研究費補助金若手研究(B)：ボツリヌストキシンによる動脈グラフト攣縮予防と拡張効果に関する実験的検討；平成 18－19 年度；3,500 千円(2,900：600 千円)

5) 研究代表者：宮内忠雅；科学研究費補助金若手研究(B)：冠動脈バイパス手術における心筋誘電特性による適正バイパス手術の決定に関する研究；平成 19－20 年度；3,300 千円(3,200：100 千円)

6) 研究代表者：竹村博文，研究分担者：島袋勝也，宮内忠雅；科学研究費補助金萌芽研究：薬剤徐放ゲルシートを用いたアドリアマイシンによる血管吻合部新生内膜肥厚抑制の検討；平成 20－21 年度；3,400 千円(3,000：400 千円)

7) 研究代表者：山田卓也，研究分担者：岩田　尚，關野考史，木村真樹；科学研究費補助金基盤研究(C)：術前化学療法後脂肪性肝炎に対する抗ヒト TNFα モノクロナール抗体療法の開発；平成 20－22 年度；3,800 千円(3,400：300：100 千円)

8) 研究代表者：松本真介；科学研究費補助金若手研究(B)：肺切除術前の常圧低酸素トレーニングの有用性の検証；平成 20－21 年度；3,400 千円(2,900：500 千円)

9) 研究代表者：石田成吏洋；科学研究費補助金若手研究(B)：慢性虚血性心疾患における再生医療を併施した外科的血行再建術の実験的検討；平成 20－21 年度；3,300 千円(2,500：800 千円)

### 2）受託研究

1) 竹村博文：低侵襲微細手術支援・教育訓練システムの開発～CMC 触覚センサとその応用～；平成 16－20 年度；(6,937：6,937：2,531：4,273：3,786 千円(一般管理費除く))：財団法人岐阜県研究開発財団

2) 竹村博文，山田卓也，關野考史，松尾　浩：エルプラット注射用 100mg 使用成績調査；平成 17－18 年度；150,150 円：株式会社ヤクルト本社

3) 竹村博文，今泉松久：カーペンターエドワーズ牛心のう膜生体弁　狭小クリニカルスタディ；平成 17－18 年度；163,800 円：エドワーズライフサイエンス株式会社

4) 竹村博文，今泉松久：シリコンコート人工肺の臨床効果と耐久性(使用成績調査)；平成 17－18 年度；300,300 円：泉工医科工業株式会社

5) 竹村博文，島袋勝也：模型人工肺ハイライト 7000 の特定使用成績調査；平成 19－20 年度；675,675 円：株式会社トライテック

6) 山田卓也：アバスチン点滴静注用 100mg/4mL，同 400mg/16mL 特定使用成績調査；平成 19－20

年度；225,225 円：中外製薬株式会社

7） 山田卓也，關野考史，吉田直優，木村真樹，杉本琢哉：ゼローダ®錠 300 特定使用成績調査「DukesC 結腸癌における術後補助化学療法」；平成 20－21 年度；225,225 円：中外製薬株式会社

8） 山田卓也，岩田　尚，島袋勝也，(他 8 名)：献血ベニロン-I 使用成績調査(低又は無ガンマグロブリン血症，重症感染症における抗生物質との併用，特発性血小板減少性紫斑病，川崎病の急性期)；平成 20－22 年度；300,300 円：帝人ファーマ株式会社

### 3）共同研究

なし

## 5. 発明・特許出願状況

なし

## 6. 学会活動

### 1）学会役員

竹村博文：

1） 日本外科学会評議員(～現在)
2） 日本血管外科学会評議員(～現在)
3） 日本冠動脈外科学会評議員(～現在)
4） 日本甲状腺外科学会評議員(～現在)
5） 日本心臓血管外科学会評議員(平成 18 年 2 月～現在)
6） 日本胸部外科学会評議員(平成 18 年 4 月～現在)
7） 日本冠疾患学会評議員(平成 18 年 12 月～現在)
8） 日本循環器学会評議員(平成 20 年 4 月～現在)
9） 日本循環器学会東海支部評議員(～現在)
10） 関西胸部外科学会評議員(～現在)
11） 東海外科学会評議員(～現在)
12） 日本 Off-pump CABG 研究会幹事(～現在)
13） 日本外科学会岐阜県医療安全管理責任者(平成 19 年 2 月～現在)
14） 日本外科学会中部地区地域安全管理運営委員会委員(平成 19 年 2 月～現在)

山田卓也：

1） 日本外科学会代議員(平成 18 年 2 月～平成 20 年 2 月)
2） 日本肝胆膵外科学会評議員(～現在)
3） 日本胃癌学会評議員(～現在)
4） 東海外科学会評議員(～現在)

岩田　尚：

1） 日本胸部外科学会評議員(平成 18 年 4 月～現在)
2） 関西胸部外科学会評議員(平成 19 年 6 月～現在)
3） 東海外科学会評議員(～現在)
4） 日本臓器移植ネットワーク中日本支部運営委員(～現在)

島袋勝也：

1） 日本血管外科学会東海・北陸地方会世話人(平成 20 年 3 月～現在)

### 2）学会開催

竹村博文：

1） 第 85 回東海心臓外科懇話会(平成 18 年 9 月，岐阜)

### 3）学術雑誌

なし

7．学会招待講演，招待シンポジスト，座長

竹村博文：

1） 52nd Annual Conference IACTS(2006.02, Bangalore，招待講演「Total arch replacement utilizing home-made branched graft for the cerebral aiming for no cerebral circulatory arrest」演者)
2） 第 70 回記念日本循環器学会総会・学術集会(平成 18 年 3 月，愛知，特別セッション「CABG&Mild MR の Strategy」座長)
3） 平成 18 年春季岐阜外科懇話会(平成 18 年 4 月，岐阜，特別講演「形成外科の現状について」座長)
4） 日医生涯教育協力講座 セミナー脳・心血管疾患講座(平成 18 年 4 月，岐阜，パネルディスカッション「冠動脈疾患治療のポイント～症例を中心に～　3．狭心症と CABG」演者)
5） 第 206 回岐阜外科集談会岐阜県医師会外科医部会特別講演会(平成 18 年 4 月，岐阜，特別講演「外科学のこれから」司会)
6） The 14th Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular Surgery(平成 18 年 6 月，大阪，フォーラム「CABG 9」座長)
7） 第 10 回岐阜シンポジウム(平成 18 年 7 月，岐阜，「心臓外科におけるロボット手術の現況と将来」演者)
8） 第 85 回東海心臓外科懇話会(平成 18 年 9 月，岐阜，特別講演「超低侵襲心臓手術」座長)
9） CCT2006 Surgical(平成 18 年 9 月，神戸，ディナーカンファレンス「心臓血管外科領域で低侵襲はどこまで可能か？　グラフト採取」演者)
10） 第 4 回尾張生活習慣病研究会(平成 18 年 11 月，愛知，特別講演「心臓外科の現状と未来」演者)
11） 第 31 回 CNP 研究会(平成 18 年 12 月，愛知，教育講演「栄養管理に必要な心臓血管外科の知識」演者)
12） 2 外・本巣の会(平成 19 年 1 月，岐阜，特別講演「心臓手術の低侵襲化を目指して」演者)
13） 第 35 回日本血管外科学会総会(平成 19 年 5 月，名古屋，会長要望演題「超高齢者(80 歳以上)の大動脈瘤に対する治療方針と術後の QOL」座長)
14） 第 4 回胸部外科フォーラム(平成 19 年 6 月，岐阜，特別講演「大動脈基部置換術の Up to Date」座長)
15） Fighting Vascular Events in Gifu 2007(平成 19 年 6 月，岐阜，特別講演「病態からみた閉塞性動脈硬化症の治療－最新のガイドライン TASKⅡをふまえて－」座長)
16） 第 32 回日本外科系連合学会学術集会(平成 19 年 6 月，東京，パネルディスカッション「当科における maze 手術症例の検討」演者)
17） 第 114 回日本循環器学会北陸地方会(平成 19 年 7 月，金沢，教育講演「岐阜における心臓外科の現状と試み－OPCAB，僧房弁形成，弓部置換－」演者)
18） 第 2 回 GIFU Surgical Metabolic Club(平成 19 年 7 月，岐阜，特別講演「外科術後の栄養管理」司会)
19） 第 12 回日本冠動脈外科学会学術大会(平成 19 年 7 月，東京，インターナショナルシンポジウム「DES 時代の理想の術式とは？」演者)
20） 平成 19 年度岐阜県医師会労災指定医部会春季総会(平成 19 年 7 月，講演「失敗に学ぶ」座長)
21） 第 209 回岐阜外科集談会(平成 19 年 10 月，岐阜，特別講演「上部消化器癌治療の最前線」司会)
22） 第 21 回日本冠疾患学会学術集会(平成 19 年 12 月，京都，外科ビデオシンポジウム「CABG における私の工夫－開胸器，内視鏡 RA 採取，右開胸回避と IABP 使用による OPCAB 率の増加－」演者)
23） 第 22 回心臓血管外科ウィンターセミナー(平成 20 年 1 月，福島，ビデオフォーラム「冠動脈バイパス術における，こまごまとした工夫」演者)
24） 第 19 回下呂医師会学術講演会(平成 20 年 3 月，岐阜，特別講演「高齢化社会における心臓血管外科の役割」演者)
25） 第 13 回岐阜胸部疾患治療研究会(平成 20 年 3 月，岐阜，特別講演「EGFR-TKI 治療の最適化を目指して」座長)
26） Veritas Cor Cirurugie　～ディベートキャラバン in Nagoya～(平成 20 年 4 月，名古屋，セッション「虚血性 MR に対する心拍動下弁輪形成術」演者)
27） 第 36 回日本血管外科学会学術集会(平成 20 年 4 月，東京，ランチョンセミナー「周術期管理における新たな心筋保護戦略～短時間作用型 β 遮断薬の使い方は・・・？」座長)
28） 東海不整脈外科講演会(平成 20 年 4 月，名古屋，講演「心房細動外科治療 - MAZE 手術原点の再確認と Device 手術」「Surgical Management of Atrial Fibrillation - 外科的心房細動の治療」座長)
29） 第 49 回福井循環器同好会学術研究会(平成 20 年 5 月，福井，特別講演「今日の冠動脈バイパス術 -

グラフト選択からロボットまで‐」演者)
30) 第 51 回関西胸部外科学会学術集会(平成 20 年 6 月，富山，ランチョンセミナー「開心術後の不整脈(心房細動)に対する治療戦略-硬膜外麻酔とβ遮断薬の使用‐」座長)
31) 第 210 回岐阜外科集談会(平成 20 年 7 月，岐阜，特別講演「上部消化管悪性疾患に対する内視鏡下手術の最前線」司会)
32) 第 75 回岐阜循環器疾患研究会(平成 20 年 7 月，岐阜，特別講演「心房細動の外科治療」座長)
33) 第 10 回日本 OFF-PUMP CABG 研究会(平成 20 年 7 月, 東京, スペシャルシンポジウム「Technique in CABG-Indication of OPCAB-」演者)
34) 第 61 回日本胸部外科学会定期学術集会(平成 20 年 10 月，福岡，ランチョンセミナー「Transit time ultrasound flow meter と Doppler 法によるグラフト評価」演者)
35) 第 6 回北陸循環障害研究会(平成 20 年 11 月，金沢，特別講演「大血管抹消血管循環不全に対する外科治療」演者)
36) 第 211 回岐阜外科集談会(平成 20 年 11 月，岐阜，特別講演「直腸癌に対する腹腔鏡下手術の進歩」司会)
37) ATCVS stage5(平成 20 年 11 月，沖縄，「Wet lab workshop in CABG, arrhythmia & valve」Task Force)
38) ISMICS2008 Winter Workshop(平成 20 年 11 月，沖縄，シンポジウム「What is the optimal CABG in DES era-Bliateral internal thoracic ateries and endoscopically-harvested radial artery as the optimal graft selection for CABG‐」演者)
39) ISMICS2008 Winter Workshop(平成 20 年 11 月, 沖縄, Invited Lecture「The analysis of 125 cases of robotic heart surgery」座長)
40) ISMICS2008 Winter Workshop(平成 20 年 11 月，沖縄，Morning Seminar 座長)
41) 第 7 回心臓血管外科手術手技セミナー(平成 20 年 11 月，東京，特別講演「ヴァーチャルビデオライブ：僧帽弁手術‐「あなたならどうする？」」座長)
42) 第 9 回計測自動制御学会(平成 20 年 12 月，岐阜，基調講演「岐阜・大垣地区ロボティック先端医療クラスターにおける研究概要」演者)

山田卓也：
1) 第 106 回日本外科学会(平成 18 年 3 月，東京，シンポジウム「冠動脈バイパス術・癌切除 1 期的手術の成績と術中回収血使用の是非について」演者)
2) International College of Surgeons 17th Joint Congress of Asia & Pacific Federations & 53rd Annual Congress of the Japan Section(平成 19 年 6 月，京都，シンポジウム「Our strategy for the patients of both coronary artery disease and malignant neoplasm, and the feasibility of intraoperative autotransfusion.」演者)
3) 第 44 回日本腹部救急医学会総会(平成 20 年 3 月，横浜，パネルディスカッション「腹部大動脈瘤破裂に対するチーム医療戦略‐特に腸管虚血壊死について‐」演者)
4) 第 108 回日本外科学会(平成 20 年 5 月，長崎，サージカルフォーラム「胃(遺伝子診断)」座長)
5) 消化器癌化学療法シンポジウム‐チーム医療‐(平成 20 年 5 月，岐阜，講演「外来化学療法の実際‐京都大学での取り組み‐」座長)
6) 第 35 回 CNP 研究会「臨床栄養技能スキルアップセミナー」(日本臨床栄養療法研究会)(平成 20 年 12 月，愛知，講演「栄養管理に必要な消化器外科の知識」演者)

岩田　尚：
1) 第 50 回関西胸部外科学会学術集会(平成 19 年 6 月，大阪，ビデオシンポジウム「High vision 先端軟性鏡を用いた拡大胸腺摘除術」演者)
2) 7 月岐阜外科懇談会(平成 19 年 7 月，岐阜，特別講演「低侵襲を目指した呼吸器外科手術」演者)
3) 第 6 回岐阜県禁煙推進セミナー(平成 19 年 11 月，岐阜，Lecture「術前後における禁煙の状況について」演者)
4) 6th Technical Seminar for Thoracic Surgery(平成 19 年 11 月，岐阜，講義「当科で施行している胸腔鏡手術において注意していること　特にステープラーの使用時において」演者)
5) The 19th International Conference of Society for Medcal Innovation and Technology(平成 19 年 11 月, 宮城, TUBERO/SMIT Joint Symposium「Thoracoscopic thymectomy using high vision flexible thoraco-videoscope」演者)

6) 第 33 回 CNP 研究会「臨床栄養技能スキルアップセミナー」(日本臨床栄養療法研究会)(平成 19 年 12 月，愛知，講演「栄養管理に必要な胸部外科知識」演者)
7) 第 51 回関西胸部外科学会学術集会(平成 20 年 6 月，富山，ビデオシンポジウム「気管支断端瘻に対する消化器外科との強調手術」演者)
8) 第 51 回関西胸部外科学会学術集会(平成 20 年 6 月，富山，シンポジウム「胸腔鏡下肺葉切除術の血管処理の工夫 - High vision 拡大視野での組織剥離と stapler 操作 - 」演者)
9) 第 16 回呼吸器外科胸腔鏡セミナー(平成 20 年 7 月，静岡，講演「当科で施行している胸腔鏡下肺葉切除術で注意していること 特にステープラー使用時において」演者)
10) Professional Education Seminar Ⅰ「VATS-Lobectomy」(平成 20 年 9 月，福島，講演「胸腔鏡下肺葉切除における安全なステープラー操作」演者)
11) 第 17 回呼吸器外科胸腔鏡セミナー(平成 20 年 10 月，福島，講演「胸腔鏡下肺葉切除術を安全に行う上で注意していること」演者)
12) 岐阜肺がん市民セミナー(平成 20 年 10 月，岐阜，講演「肺癌～患者さんにやさしい手術を目指して～」演者)
13) ISMICS2008 Winter Workshop(平成 20 年 11 月，沖縄，シンポジウム「Safe stapler procedure for the pulmonary artery and vein in video-assisted thoracoscopic lobectomy」演者)
14) ISMICS2008 Winter Workshop(平成 20 年 11 月，沖縄，イブニングセミナー「Hybid VATS lobectomy & Segmentectomy by the close vision through high vision flexible thoracoscope」演者)

關野考史：
1) 第 109 回日本消化器病学会東海支部例会(平成 20 年 11 月，名古屋，シンポジウム「早期大腸癌に対する内視鏡的切除術後の追加外科治療 - 腹腔鏡下手術を中心に - 」演者)

宮内忠雅：
1) Fighting Vascular Events in Gifu 2007(平成 19 年 6 月，岐阜，講演「下肢閉塞性動脈硬化症に対する当科における外科的治療戦略」演者)
2) 第 74 回岐阜循環器疾患研究会(平成 20 年 2 月，岐阜，教育講演「冠動脈バイパス術における血流量および血流速度による術中グラフト評価」演者)

白橋幸洋：
1) ISMICS2008 Winter Workshop(平成 20 年 11 月，沖縄，シンポジウム「Identification of intersegmental plane with physiological function of oxygen absorption in the lung segmental resection」演者)

杉本琢哉：
1) 岐阜大建中湯フォーラム(平成 20 年 3 月，岐阜，教育講演「大建中湯による肝再生促進効果の検討」演者)

## 8. 学術賞等の受賞状況

なし

## 9. 社会活動

竹村博文：
1) 岐阜県医師会労災指定医部会顧問(～現在)
2) 岐阜県身体障害者相談所更生医療判断医(～現在)
3) 岐阜県医師会外科医部会部会長(平成 18 年 4 月～現在)
4) 岐阜県社会福祉審議会委員(平成 18 年 11 月～現在)
5) 岐阜市社会福祉審議会委員(平成 18 年 11 月～現在)
6) 知的クラスター創成事業　岐阜・大垣地域における知的クラスター本部研究統括(平成 19 年 4 月～現在)

## 10. 報告書

1) 山田卓也，關野考史，松尾　浩：インピーダンス CT を用いたセンチネルリンパ節検出法の確立に

関する研究：平成 15 年度－18 年度科学研究費補助金研究成果報告書(2007 年 3 月)
2) 岩田　尚，竹村博文，白橋幸洋，松本真介：ドナー肺への自己骨髄細胞癒合による肺再生に関する実験的検討：平成 18 年度－19 年度科学研究費補助金研究成果報告書(2008 年 3 月)

## 11. 報道

1) 竹村博文：「紙上診察室」明け方のこむら返り薬でも改善せず　下肢の腫れなどチェックを：中日新聞(2006 年 8 月 25 日)
2) 山田卓也：「大腸癌化学療法の現状と今後」‐岐阜地区における大腸癌化学療法の普及と定着‐：MEDICAMENT NEWS(2007 年 9 月 15 日)
3) 山田卓也：地域医療医学センター　外科救急系分野　教授就任挨拶：岐阜県病院時報第 45 号(2008 年 3 月 31 日)
4) 山田卓也：「研究室から 大学はいま」肝臓がん手術，再生を考慮：岐阜新聞(2008 年 7 月 22 日)
5) 竹村博文：心拍に合わせ内視鏡連動　心臓止めず安全に手術　早大・岐阜大支援ロボ開発　患者の傷口小さく：日本経済新聞(2008 年 8 月 4 日)
6) 竹村博文：心臓バイパス手術・胎児治療･･･医療ロボ実用化へ着々　審査体制など国も支援：日経産業新聞(2008 年 8 月 19 日)

## 12. 自己評価

評価

多くの大学院生が入学して，研究面で大きな成果があった。動脈バイパスにおける静脈グラフトの内膜抑制，肝大量切除後のアポトーシス抑制による肝再生促進と生存率の改善，NASH モデルにおける HGF による肝線維化抑制，肺移植における急性期免疫抑制による遠隔期免疫抑制への効果等の学位論文が完成した。またうっ血肝切除後の肝再生，肺切除後の肺再生の研究もまとまった。それらの研究を支える外部資金獲得も前期に比し増加した。これらの成果は国内外の学会で発表され，評価された。

現状の問題点及びその対応策

基礎研究を進めるには，大学院生の確保が重要であるが，新研修医制度が開始してからの大学院入学が減少しているのは否めない。社会人大学院制度を活用しながら，人員の確保に努める。研究員補助員の人件費等の問題があり，研究材料を外注に回さざるを得ず，研究費の膨大化も課題である。学内の人材共同利用も検討していかなければならない。

今後の展望

動物実験施設は充実しており，研究のやりやすい環境は整っている。今後も心臓血管，消化器，呼吸器すべての臓器の再生医療を主軸に研究を行う。translational research に軸をおいて臨床応用への道を模索する。

## （4）整形外科学分野

### 1. 研究の概要

1）軟骨プロテオグリカン代謝におけるカルパインの役割と解明
ヒトの軟骨細胞において，カルパインによって切断されたプロテオグリカン分解産物の存在を証明し，カルパインがプロテオグリカン代謝において重要な役割をはたしていることを明らかにした。

2）リウマチ滑膜細胞におけるカルパインの役割の解明
siRNA を用いてカルパインの発現を抑制することにより，リウマチ滑膜細胞の増殖および滑膜炎が抑制できることを証明した。

3）ユーイング肉腫遺伝子がオーロラキナーゼの転写にはたす役割の解明
ユーイング肉腫に特異的に発現する融合遺伝子 EWS/Fli1 が，細胞有糸分裂期調節キナーゼであるオーロラキナーゼのプロモーターに直接結合し，その転写を促進することが，ユーイング肉腫の発生に深く関与していることを明らかにした。

4）EWS/Fli1 の細胞内シグナル伝達因子を介したアポトーシスの解析
EWS/Fli1 が各種細胞増殖シグナル伝達因子の発現を調節していることを明らかにした。さらにそれらの因子を抑制することにより，アポトーシスを誘導し得ることを証明した。

5）ユーイング肉腫の分子標的治療の研究
ユーイング肉腫遺伝子 EWS/Fli1，細胞増殖シグナル伝達因子，血管内皮増殖因子（VEGF），オーロラキナーゼ等を標的とし，それらに対する siRNA や各種阻害剤を用いて，将来の分子標的治療を目指した研究を進めている。

6）骨軟部腫瘍における遺伝子解析
滑膜肉腫や明細胞肉腫に特異的に発現する遺伝子の機能を，特に転写調節の観点から解析している。また遺伝子改変マウスの樹立を試みている。

7）歯髄細胞を用いた偽関節治療の研究
歯髄細胞を偽関節部位に移植することにより，治癒の促進を図る研究を進めている。

8）脊髄損傷の治療に関する研究
脊髄損傷のモデルラットにおいてピロロキノリンキノン（PQQ）が損傷部の iNOS の発現を抑制し，機能回復に有効であることを明らかにした。

9）コンドロイチン硫酸の骨格形成関与に関する研究
コンドロイチン硫酸合成酵素の機能解析。コンドロイチン硫酸合成酵素遺伝子改変マウスを用いたコンドロイチン硫酸の骨格形成への関与の解明。

10）椎間板組織におけるカルパインの局在の検証
ウシ及びヒトの椎間板組織において，カルパインの局在の検証を行った。椎間板変性とカルパインの発現が関連していることが明らかとなった。

11）椎間板細胞外基質代謝におけるカルパインの役割と解明
ウシ及びヒトの椎間板細胞を用い，炎症・椎間板変性という局面においてカルパインが椎間板基質分解にいかに関与するかについて研究をすすめている。

12）ヒト腰椎荷重負荷における椎間板・椎間関節の形態変化に関する研究
ヒト腰椎の立位荷重状態をシミュレートする装置を使用し，CT 撮影によって得られた腰椎画像を 3 次元解析し，椎間板・椎間関節の 3 次元的形態変化を解析している。

13）腰椎装具の体幹位置覚，スポーツパフォーマンスに与える影響の検討
腰椎装具がもつ体幹位置覚向上効果がスポーツパフォーマンス（ゴルフ，ウォーキング等）にいかなる影響を与えるかを 3 次元動作解析にて検証している。

14）腰椎変性側彎症に対する後方椎体間固定術による変形矯正の 3 次元解析
腰椎変性側彎症に対するブーメラン型スペーサーを用いた後方椎体間固定術による変形矯正が椎間板角，椎間関節形態に与える効果を 3 次元画像解析により検証している。

15）ヒト頸椎の屈曲伸展動態における硬膜管・頸部脊髄の 3 次元的動態解析
脊髄造影検査後のファンクショナル CT を用い，ヒト頸椎の屈曲伸展動態における硬膜管・頸部脊髄の 3 次元的動態解析を各種病態との関連にて検証している。

16）腰椎変性側彎症に対する後方椎体間固定術による変形矯正の 3 次元解析
腰椎変性側彎症に対するブーメラン型スペーサーを用いた後方椎体間固定術による変形矯正が椎間板角，椎間関節形態に与える効果を 3 次元画像解析により検証している。

17）頸椎除圧手術（前方除圧，後方除圧）が硬膜管・頸部脊髄に与える形態変化の検討

頸椎前方除圧術，頚椎後方除圧術の 2 術式が硬膜管・頸部脊髄に与える形態変化の相違について ultrasonography を用いて，臨床成績と関連させて検討している。

18）MRI と脊髄造影後 CT の硬膜管・脊髄・馬尾神経形態評価の相違に関する研究
脊椎脊髄疾患に対する画像診断における 2 つの代表的手法である MRI と脊髄造影後 CT について，硬膜管・脊髄・馬尾神経形態評価の質的・量的相違を明らかにした。

19）ヒト脊髄液における還元型・酸化型アルブミンの動態の研究
ヒト脳脊髄液における還元型・酸化型アルブミンの存在比率について，年齢，疾患等の因子を含めて検証を行っている。

## 2. 名簿

| | | |
|---|---|---|
| 教授： | 清水克時 | Katsuji Shimizu |
| 教授(併任)： | 西本　裕 | Yutaka Nishimoto |
| 准教授： | 大野貴敏 | Takatoshi Ohno |
| 講師： | 細江英夫 | Hideo Hosoe |
| 講師： | 大野義幸 | Yoshiyuki Ohno |
| 臨床講師： | 伊藤芳毅 | Yoshiki Itoh |
| 臨床講師： | 青木隆明 | Takaaki Aoki |
| 臨床講師： | 大島康司 | Koji Oshima |
| 医員： | 田中健一郎 | Kenichiro Tanaka |
| 医員： | 森　敦幸 | Nobuyuki Mori |
| 医員： | 清水孝志 | Takashi Shimizu |
| 医員： | 寺林伸夫 | Nobuo Terabayashi |
| 医員： | 山口良大 | Yoshihiro Yamaguchi |
| 医員： | 竹内健太郎 | Kentaro Takeuchi |
| 医員： | 山岸宏江 | Hiroe Yamagishi |

## 3. 研究成果の発表

著書（和文）

1）細江英夫．腰部脊柱管狭窄症の治療：清水克時編．これだけは知っておきたい 足腰の痛みの自己管理，大阪：医薬ジャーナル；2006 年：22－37.
2）細江英夫，清水克時．脊柱側弯症：菊地臣一ら編．整形外科専門医をめざすための　経験すべき外傷・疾患 97，東京：メジカルビュー社；2006 年：127－133.
3）細江英夫．腰椎の固定術(PLF、PLIF)：守屋秀繁ら編．整形外科診療実践ガイド，東京：文光堂；2006 年：225－226.
4）林　典雄．青木隆明監修．機能解剖学的触診技術 上下肢，東京：メジカルビュー社；2006 年.
5）西本 裕，大野貴敏．2 章「骨腫瘍各論」 類骨骨腫 骨芽細胞腫：吉川秀樹編．最新整形外科学体系第 20 巻「骨・軟部腫瘍および関連疾患」，東京：中山書店；2007 年：201－205.
6）西本 裕，大野貴敏．2 章「骨腫瘍各論」 非骨化性線維腫(線維性骨皮質欠損)：吉川秀樹編．最新整形外科学体系第 20 巻「骨・軟部腫瘍および関連疾患」，東京：中山書店；2007 年：233－236.
7）細江英夫．腰部脊柱管狭窄症の治療：清水克時編．ポケット版　これだけは知っておきたい　足腰の痛みの自己管理，大阪：医薬ジャーナル；2007 年：38－66.
8）細江英夫．胸椎外傷　上位胸椎前方直達手術：馬場久敏編．0S NOW INSTRUCTION No.4，東京：メジカルビュー社；2007 年：103－106.
9）清水克時．腰椎変性すべり症－私のインフォームドコンセント：トラブルにならない整形外科インフォームドコンセント，東京：金原出版；2007 年：212－213.
10）中村正生，清水克時．腰部脊椎脊柱管狭窄症－診断と治療－：老年医学 update2007－08，東京：メジカルビュー社；2007 年：14－24.
11）細江英夫．転移性脊椎腫瘍：清水克時編．腰痛 知る診る治す，東京：メジカルビュー社；2008 年：105－115.
12）青木隆明．腰痛の運動療法：清水克時編．腰痛 知る診る治す，東京：メジカルビュー社；2008 年：130－155.

著書（欧文）

1）Shimizu K, Miyamoto K. Inflammatory Diseases of the Spine: Juvenile Rheumatoid Arthritis. In: Surgery of the Pediatric Spine. New York: Thieme;2007:375-380.

総説（和文）

1）清水克時．特集 手の痛みの診断と治療 序，痛みと臨床　2006 年；6 巻：1.

2) 金森康夫，清水克時．腰痛 急性腰痛と慢性腰痛，臨床と研究　2006 年；83 巻：12－15.
3) 清水克時．シンポジウム 腰部脊柱管狭窄症－最近の進歩－ 緒言，臨床整形外科　2006 年；41 巻：852.
4) 清水克時．日本脊椎脊髄病学会と北米脊椎関連学会との交流 －Spine Across the Sea 報告－，脊椎脊髄ジャーナル　2006 年；19 巻：1174－1175.
5) 清水克時．岐阜美濃自転車生活，整形外科　2006 年；57 巻：1798.
6) 清水克時．一般内科医が知っておきたい腰痛の診断治療，岐阜市医師会だより　2007 年；39 巻：25－27.
7) 福田章二，清水克時．脊椎骨髄炎の診断と治療，骨・関節・靭帯　2007 年；20 巻：455－461.
8) 清水克時．脊椎内視鏡下手術」－基本手技から技術認定まで，整形外科　2007 年；58 巻：1656.
9) 清水克時．腰の痛み(腰部脊柱管狭窄症)を防ぐ，クック＆ライフ　2007 年；433 巻：8－9.
10) 里見和彦，石名田洋一，望月一男，伊藤芳毅，川上紀明．ICD 改定と整形外科医療，臨床整形外科　2008 年；43 巻：581－589.
11) 前原秀亮，清水克時．カルパインと変性性関節症，別冊整形外科〈変性性関節症－最近の知識〉　2008 年；53 巻：38－41.
12) 松本守雄，千葉一裕，戸山芳昭，竹下克志，星地亜都司，中村耕三，有水　淳，藤林俊介，平林　茂，平野　徹，岩崎幹季，金岡恒治，川口善治，井尻幸成，前田　建，松山幸弘，三上靖夫，村上英樹，永島英樹，永田見生，中原進之介，野原　裕，岡　史朗，阪本桂造，猿橋康雄，笹生　豊，清水克時，田口敏彦，高橋　誠，田中靖久，谷　俊一，徳橋泰明，内田研造，山本謙吾，山崎正志，横山　徹，吉田宗人，西脇祐司．胸椎後縦靱帯骨化症に対する手術成績に影響を与える因子の検討－他施設後ろ向き研究－　誌上シンポジウム　胸椎後縦靱帯骨化症の治療－最近の進歩，臨床整形外科　2008 年；43 巻：531－538.
13) 清水克時．頚椎症，OPLL の手術治療，東海・中部接骨学会誌　2008 年；89 号：19.

総説（欧文）
なし

原著（和文）
1) 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，金森康夫．頚椎後縦靱帯骨化症に対する新しい軸椎部後方除圧法，脊椎・脊髄神経手術手技　2006 年；8 巻：79－82.
2) 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，金森康夫，小原明．腰椎変性すべり症に対する経椎間孔腰椎椎体間固定術(cantilever－TLIF)の経験，中部整形外科災害外科学会雑誌　2006 年；49 巻：31－32.
3) 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，西本博文．骨粗鬆症性骨折に対する脊椎短縮術の術後経過，中部整形外科災害外科学会雑誌　2006 年；49 巻：967－968.
4) 細江英夫．特集：比較で分かる腰椎 2 大疾患－腰部脊柱管狭窄症と腰椎椎間板ヘルニア 手術療法－，整形外科看護　2006 年；11 巻：24－26.
5) 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，西本博文．頚椎後縦靱帯骨化症に対する術式選択，日本脊椎脊髄病学会雑誌　2006 年；17 巻：525.
6) 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，金森康夫，宮本　敬，小原　明．腰椎変性すべり症に対する経椎間孔腰椎椎体間固定術(cantilever－TLIF)－PLIF との比較－，日本整形外科学会雑誌　2006 年；80 巻：S285.
7) 田中領，大野貴敏，大野義幸，清水克時，西本裕，廣瀬善信，松永研吾．末節骨骨腫瘍の 1 例，東海骨軟部腫瘍　2006 年；18 巻：43－44.
8) 鈴木直樹，金森康夫，杉山誠一，細江英夫，清水克時．上位腰椎椎間板ヘルニア後方摘出術後に前方固定を要した 1 例，東海脊椎外科　2006 年；20 巻：5－9.
9) 鈴木直樹，金森康夫，杉山誠一，細江英夫，清水克時．腰椎変性側弯に前方固定を行った 2 症例，東海脊椎外科　2006 年；20 巻：102－108.
10) 清水克時，細江英夫，杉山誠一，若林　英，野々村諭香．Informed Consent の実際，日本整形外科学会雑誌　2006 年；80 巻：33－34.
11) 増田剛宏，清水克時．感染性脊椎炎に対する脊椎インスツルメンテーション手術，Orthopaedics　2006 年；19 巻：25－32.
12) 野澤　聡，清水克時．スポーツ選手における腰椎分離症に対する手術療法－segmental wire fixation 法－，Orthopaedics　2006 年；19 巻：15－21.
13) 伏見一成，清水克時．変形性関節症軟骨におけるカルパインの発現，岐阜県医師会医学雑誌　2006 年；19 巻：81－84.
14) 松本　和，伊藤芳毅，糸数万正，武内章二，清水克時．陳旧性剥離骨片により生じた膝蓋骨亜脱臼の 1 例，整形外科　2006 年；57 巻：1623－1625.
15) 松本　和，伊藤芳毅，福田　雅，糸数万正，清水克時．Smith－Petersen 進入法が有用であった人工股関節再置換術の 2 例，Hip Joint 別刷　2006 年；32 巻：411－414.
16) 瀧上伊織，松本　和．大腿骨転子部骨折に対する PFNA(proximal femoral nail antirotation)の使用経験，Hip Joint 別刷　2006 年；32 巻：234－236.
17) 青木隆明，寺島宏明，糸数万正，清水克時，丹羽政美，小野塚實．腰部脊柱管狭窄症患者の経口 PGE1 誘導体製剤投与におけるトレッドミル評価，新薬と臨床　2006 年；55 巻：74－76.
18) 大野義幸，平川明弘，清水克時．手関節結核の手術治療の経験，日本骨・関節感染症学会雑誌 2006 年；20 巻：29－31.
19) 大野義幸，平川明弘，清水克時．末節骨が露出した指尖部皮膚欠損に対する遊離皮弁移植の経験，日本手の外科学会雑誌　2006 年；23 巻：209－212.

20) 大島康司，三宅智，清水克時，大野貴敏，西本裕．骨原発血管肉腫の一剖検例，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：463－464.
21) 福田章二，大野貴敏，西本裕，清水克時．足背に発生した石灰化を伴った巨大な血管平滑筋腫の一例，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：515－516.
22) 永野昭仁，大野貴敏，西本裕，山田一成，清水克時．骨外性骨肉腫の 1 剖検例，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：525－526.
23) 大野貴敏，大島康司，清水克時，西本裕．人工骨を用いた良性骨腫瘍の術後成績，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：627－628.
24) 横田治，大野貴敏，大野義幸，清水克時，西本裕，廣瀬善信，松永研吾．大腿軟部腫瘍の 1 例，東海骨軟部腫瘍　2007 年；19 巻：1－2.
25) 大島康司，斉藤満，大野義幸，清水克時，大野貴敏，西本裕，高見秀一郎，松永研吾，廣瀬善信．左殿部腫瘍の 1 例，東海骨軟部腫瘍　2007 年；19 巻：37－38.
26) 川﨑晴久，栄枝裕文，岩村真事，篠崎昌人，木村宏樹，西本裕，伊藤聡．バーチャルリアリティを応用した手指リハビリテーション支援システムの研究，VR 医学　2007 年；5 巻：32－39.
27) 大野義幸，平川明弘，清水克時．抑制帯により発生した手に限局した阻血性拘縮の 1 例，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：861－862.
28) 森義弘，大野義幸，青木隆明．手指伸筋腱移行術後における早期運動療法の経験，岐阜作業療法　2007 年；10 巻：36－37.
29) 内屋純，大野義幸，青木隆明．手関節完全切断再接着後の 1 症例，岐阜作業療法　2007 年；10 巻：38－39.
30) 伊藤芳毅ほか．THA 高位脱臼股　脱臼性股関節症に対する転子下短縮骨切り併用人工股関節置換術の短期成績，日本人工関節学会誌 2007 年；37 巻：90－91.
31) 鈴木彩，糸数万正，伊藤芳毅ほか．高齢者(75 歳以上)における人工股関節再置換術の成績，日本人工関節学会誌　2007 年；37 巻：370－371.
32) 森敦幸，糸数万正，伊藤芳毅ほか．RA 膝に対する人工関節置換術　関節リウマチ患者におけるセメントレス人工膝関節全置換術の中期成績，日本人工関節学会誌　2007 年；37 巻：60－61.
33) 齊藤満，糸数万正，伊藤芳毅ほか．高齢者の人工股関節置換術 75 歳以上の高齢者におけるセメントレス THA の術後成績，日本人工関節学会誌　2007 年；37 巻：34－35.
34) 糸数万正，伊藤芳毅ほか．関節リウマチ治療薬タクロリムスの効果と SF－8(Short Form－8)を用いた QOL 評価，日本リウマチ・関節外科学会雑誌　2007 年；26 巻：403－411.
35) 森敦幸，糸数万正，伊藤芳毅ほか．大腿骨顆上骨折を伴った RA 膝に対して一期的人工膝関節全置換術を施行した 1 例，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：1083－1084.
36) 田中薫，伊藤芳毅ほか．高齢者の骨盤・寛骨臼骨折の治療経験，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：1051－1052.
37) 喜久生健太，糸数万正，伊藤芳毅ほか．脛骨高原陥没骨折に対するハイドロキシアパタイトブロックを用いた治療法，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：873－874.
38) 鈴木彩，糸数万正，伊藤芳毅ほか．骨盤後傾を伴う患者に対する人工股関節再置換術の検討，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：685－686.
39) 小川寛恭，糸数万正，伊藤芳毅ほか．健康成人に発症した原発性化膿性股関節炎の 2 例，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：749－750.
40) 山田一成，伊藤芳毅ほか．臼蓋コンポーネントの中心性脱臼に対し後腹膜進入法で外腸骨動脈を確保したのちに一期的に再置換術を行った 1 例，整形外科　2007 年；58 巻：674－676.
41) 村瀬善彰，糸数万正，伊藤芳毅ほか．末端肥大症に発症した急速破壊型股関節症に対する THA 施行症例，国立大学法人リハビリテーション コ・メディカル学術大会誌　2007 年；28 巻：38－41.
42) 松本和，糸数万正，伊藤芳毅ほか．透析患者に対する人工股関節手術の周術期合併症，整形外科　2007 年；58 巻：511－515.
43) 糸数万正，伊藤芳毅ほか．大腿骨脱臼骨折に Austin－Moore 人工骨頭置換術を施行し術後 31 年経過した 1 例，整形外科 2007 年；58 巻：273－276.
44) 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，岩井智守男．腰椎変性側弯症に対する経椎間孔腰椎椎体間固定術，中部整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：353－354.
45) 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，福田章二，岩井智守男．頚部脊髄症手術の合併症－前方法，後方法の比較－，中部整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：579－580.
46) 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，福田章二，岩井智守男．骨粗鬆症性椎体骨折に対するネスプロンケーブルを使用した脊椎短縮術，日本脊椎インストゥルメンテーション学会誌　2007 年；6 巻：25－28.
47) 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本　敬，岩井智守男，福田章二．腰椎変性側弯症に対する経椎間孔腰椎椎体間固定，日本脊椎脊髄病学会雑誌　2007 年；18 巻：223.
48) 青木隆明，渡辺和子，丹羽政美，藤田雅文，糸数万正，清水克時，小野塚實．functionalMRI が有用であった慢性期脳梗塞片麻痺の 1 症例，Journal of Clinical Rehabilitation　2007 年；16 巻：558－561.
49) 小川寛恭，高沢真，西本博文，糸数万正，伊藤芳毅．健康成人に発症した原発性化膿性股関節炎の 2 例，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：749－750.
50) 小川寛恭，石丸大地，山田一成，清水孝志．不安定外側半月板に対し鏡視下 thermal shrinkage を施行した 1 例，整形外科　2007 年；58 巻：1357－1359.

51) 小川寛恭，清水孝志，小山喜也，赤池敦，堀裕彦．高齢者頸部(転子部)骨折後の筋萎縮・移動能力・骨折型・術式の相関関係についての検討，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：47－48.
52) 石丸大地，大野貴敏，小川寛恭，西本裕，清水克時．後頚部に発生した infantile fibromatosis の一例，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2007 年；50 巻：90－91.
53) 松本　和，糸数万正，伊藤芳毅，福田　雅，川井　豪，清水克時．透析患者に対する人工股関節手術の周術期合併症，整形外科　2007 年；58 巻：511－515.
54) 田中　領，佐藤正夫，竹村正男，四戸隆基，斉藤邦明，清水　克時，清島　満．関節リウマチに対する生物学的製剤治療とトリプトファン代謝について，中部リウマチ(J Chubu Rhuum Assoc)　2007 年；38 巻：12－13.
55) 久島泰仁，石井光一，清水克時，佐々木晃，山本憲司，武内章二，日比野光男，楊　中仁，清水敏人，大橋勉，臼井正明，菱田　豊，今井秀治，常田昌弘，鈴木誉，平松哲，益田和明，尾下佳史，福田雅，上村修一，渡辺数人，森健太郎，羽場理彦，西堀弘記．原発性骨粗鬆症に対するリセドロネートとビタミン K2 の併用効果に関する多施設共同研究－1 年経過症例の中間解析－，Osteoporosis Japan　2007 年；15 巻.
56) 永野昭仁，鈴木直樹，金森康夫，細江英夫，清水克時．急性骨髄性白血病化学療法中に発症した脊椎骨髄炎の 1 例，整形外科　2007 年；58 巻：1699－1702.
57) 青木隆明．腰部脊柱管狭窄症におけるエルカトニンの SF8 評価，新薬と臨床　2008 年；57 巻：65－70.
58) 中村正生，清水克時．腰下肢痛を伴う骨粗鬆症症例に対する日本語版 Roland－Morris Disability Questionnaire を用いた QOL 評価－エルカトニン製剤投与下での疼痛に関連する QOL 改善についての検討－，Osteoporosis Japan　2008 年；16 巻：207－215.
59) 細江英夫，清水克時．腰下肢痛・しびれに対する手術⑤経椎間孔腰椎椎体間固定術(TLIF)，MB Orthop 2008 年；21 巻：63－68.
60) 細江英夫．国際学会印象記　第 4 回世界脊椎学会(World Spine Ⅳ)に参加して，臨床整形外科　2008 年；43 巻：152－153.
61) 細江英夫，清水克時，宮本敬，田中健一郎，岩井智守男，福田章二．骨粗鬆症性椎体圧潰に対する椎弓をとらえる脊椎短縮術－術後骨折と後弯－，中部整形外科災害外科学会誌　2008 年；51 巻：643－644.
62) 細江英夫，清水克時，鈴木直樹，宮本敬，福田章二，岩井智守男．頚椎亜全摘前方固定術後の腓骨定着と内固定材料の変化－X 線評価－，脊椎・脊髄神経手術手技　ベストペーパー賞　2008 年；10 巻：117－119.
63) 大島康司，福田章二，清水克時，大野貴敏，西本裕，松永研吾，廣瀬善信．頚部腫瘍の 1 例，東海骨軟部腫瘍　2008 年；20 巻：15－16.
64) 清水孝志，大野貴敏，大島康司，大野義幸，下川邦泰，清水克時，西本裕，篠崎昌人，浅野奈美，松永研吾，廣瀬善信．右肘軟部腫瘍の 1 例，東海骨軟部腫瘍　2008 年；20 巻：27－28.
65) 大野貴敏，大島康司，清水克時，西本裕．類骨骨腫に対する CT ガイド下ラジオ波焼灼術による低侵襲手術の経験，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2008 年；51 巻：913－914.
66) 大野貴敏．第 6 回日米加欧整形外科基礎学会合同会議学会レポート，Arthritis 2008　2008 年；9 巻：50－51.
67) 石丸大地，大野貴敏，小川寛恭，西本裕，清水克時．後頚部に発生した infantile fibromatosis の一例，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2008 年；51 巻：93－94.
68) 大野貴敏，大島康司，清水克時，西本裕．類骨骨腫に対する CT ガイド下ラジオ波焼灼術による低侵襲手術の経験，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2008 年；51 巻：913－914.
69) 西本 裕，松田好美，本間千絵美，山賀寛，渡辺郁雄．競技スポーツにおける看護師の役割－国体選手などに対するアンケート調査による検討－，岐阜大学医学部紀要　2008 年；55 巻：1－16.
70) 河村真吾，糸数万正，伊藤芳毅ほか．関節リウマチ前足部変形に対する第 2－5 趾 MTP 関節温存整復術の短期成績，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2008 年；51 巻：545－546.
71) 清水孝志，糸数万正，伊藤芳毅ほか．後方関節包弛緩による反張膝に対して観血的治療(Piriou 法)を施行した 1 例，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2008 年；51 巻：447－448.
72) 里見和彦，石名田洋一，望月一男，伊藤芳毅，川上紀明，ICD 改訂と整形外科医療(座談会)，臨床整形外科　2008 年；43 巻：581－589.
73) 小川寛恭，伊藤芳毅ほか．Vancouver type B3 ステム周囲骨折に対し allograft－stem composite を使用した人工股関節再置換術の 1 例，中部日本整形外科災害外科学会雑誌　2008 年；51 巻：1151－1152.

原著（欧文）

1) Hosoe H, Miyamoto K, Wada E, Shimizu K. A surgical treatment of scoliosis in Larsen's syndrome with bilateral hip dislocation: A case report. Spine. 2006;31:E302-306.　IF 2.499
2) Futani H, Minamizaki T, Nishimoto Y, Abe S, Yabe H, Ueda T. Long-Term Follow-up After Limb Salvage in Skeletally Immature Children with a Primary Malignant Tumor of the Distal End of the Femur. J Bone Joint Surg AM. 2006;88:595-603.　IF 2.487
3) Morita M, Banno Y, Dohjima T, Nozawa S, Fushimi K , Fan D, Ohno T, Miyazawa K, Liu N, Shimizu K. μ-Calpain is involved in the regulation of TNF-α-induced matrix metalloproteinase-3 release in a rheumatoid synovial cell line. Biochem Bioph Res Commun. 2006;343:937-942.　IF 2.749
4) Ohnishi K, Miyamoto K, Hashimoto K, Hosoe H, Shimizu K. Surgical Treatment for Atlantoaxial Subluxation Associated With Mixed Connective Tissue Disease. Orthopedics. 2006;29:369-370.　IF 0.581
5) Masuda T, Miyamoto K, Shimizu K. Intramuscular hemodynamics in bilateral erector spinase muscles in symmetrical and asymmetrical postures with and without loading. Clin Biomecha. 2006;21:245-253.　IF 1.642

6) Matsumoto K, Kamiya N, Suwan K, Atsumi F, Shimizu K, Shinomura T, Yamada Y, Kimata K, Watanabe H. Identification and Characterization of Versican/PG-M Aggregates in Cartilage. J Biol Chem. 2006;281:18257-18263. IF 5.581
7) Yoshida M, Kida K, Kodama H, Itokazu M, Shimizu K. Calcitonin treatment for calcifying tendinitis of the shoulder. J Orthopaed Traumatol. 2006;7:6-11.
8) Masuda T, Miyamoto K, Hosoe H, Sakaeda H, Tanaka M, Shimizu K. Surgical treatment with spinal instrumentation for pyogenic spondylodiscitis due to menthicillin-resistant Staphylococcus aureus(MRSA): a report of five cases. Arch Orthop Trauma Surg. 2006;126:339-349. IF 0.913
9) Kamiya N, Watanabe H, Habuchi H, Takagi H, Shinomura T, Shimizu K, Kimata K. Versican/PG-M Regulates Chondrogenesis as an Extracellular Matrix Molecule Crucial for Mesenchymal Condensation. J Biol Chem. 2006;281:2390-2400. IF 5.581
10) Wakahara K, Matsumoto K, Sumi H, Sumi Y, Shimizu K. Traumatic Spinal Cord Injuries From Snowboarding. Am J Sports Med. 2006;34:1670-1674. IF 3.397
11) Matsumoto K, Wakahara K, Sumi H, Shimizu K. Central Cord Syndrome in Patients With Klippel-Feil Syndrome Resulting From Winter Sports. Am J Sports Med. 2006;34:1685-1689. IF 3.397
12) Ogawa H, Itokazu M, Ito Y, Fukuta M, Shimizu K. The therapeutic outcome of minimally invasive synovectomy assisted witharthroscopy in the rheumatoid knee. Mod Rheumatol. 2006;16:360-363.
13) Matsumoto K, Itokazu M, Uemura S, Takigami I, Naganawa T, Shimizu K. Successful joint arthroplasty after treatment of destructive MRSA arthritis of the knee using antibiotic-loaded hydroxyapatite blocks: a case report. Arch Orthop Trauma Surg. 2006;127:47-50. IF 0.913
14) Ogawa H, Itokazu M, Ito Y, Fukuta M, Simizu K. An unusual meniscal ganglion cyst that triggered recurrent hemarthrosis of the knee. Arthroscopy. 2006;22:455.e1-4. IF 2.296
15) Akeda K, An HS, Okuma M, Attawia M, Miyamoto K, Thonar EJMA, Lenz ME, Sah RL, Masuda K. Platelet-rich Plasma Stimulates Porcine Articular Chondrocyte Proliferation and Matrix Biosynthesis. Osteoarthritis and Cartilage. 2006;14:1272-1280. IF 3.793
16) Miyamoto K, Masuda K, Kim JG, Inoue N, Akeda K, Andersson GBJ, An HS. Intradiscal Injections of Osteogenic Protein-1 Restore the Viscoelastic Properties of Degenerated Intervertebral Discs. Spine Journal. 2006;6:692-703.
17) Chujo T, An HS, Akeda K, Miyamoto K, Muehleman C, Attawia M, Andersson GBJ, Masuda K. Effects of growth differentiation factor-5 (GDF-5) on the intervertebral disc - in vitro bovine study and in vivo rabbit disc degeneration model study-. Spine. 2006;31:2909-2917. IF 2.499
18) Ohara A, Miyamoto K, Naganawa T, Matsumoto K, Shimizu K. Sagittal alignment of the cervical spine: comparison of five standard methods of measurement. Spine. 2006;31:2585-2591. IF 2.499
19) Fushimi K, Miyamoto K, Nishimoto H, Hosoe H, Kodama H, Shimizu K. Clinical outcomes of multilevel anterior corpectomy and fusion as a revision surgery of the cervical spine. Report of seven cases. Spinal Cord. 2006;44:449-456. IF 1.578
20) Miyamoto K, Masuda K, Inoue N, Okuma M, Meuhlmam C, An HS. Anti-adhesion properties of thrombin-based hemostatic gelatin in a canine laminectomy model. –a biomechanical, biochemical, and histological study. Spine. 2006;31:E91-E97. IF 2.499
21) Sasaki T, Miyamoto K, Hosoe H, Shimizu K. Transoral Anterior Approach Used for Extensive Anterior Decompression of C3 Vertebrae Level in a Patient with Severe Atlantoaxial Vertical Subluxation and Rheumatoid Arthritis - A Case Report - Spinal Cord. 2006;44:52-55. IF 1.578
22) Shimizu T, Miyamoto K, Masuda K, Miyata T, Hori H, Shimizu K, Maeda M. The clinical significance of impaction at the femoral neck fracture site in the elderly. Arch Orthop Trauma Surg. 2007;127:515-521. IF 0.913
23) Hosoe H, Shimizu K, Miyamoto K, Fukuta S, Iwai C. Cantilever-TLIF for patients with degenerative scoliosis. Eur Spine J. 2007;16:S51. IF 2.021
24) Aoki T, Terashima H, Itokazu M, Miyamoto K, Shimizu K. Stimulation of Music Prolonged Disturbance of Consciousness Patients in Early Rehabilitation. J Saitama Kenou Rehabilitation. 2007;7:50-53.
25) Ogawa H, Nishimoto H, Hosoe H, Suzuki N, Kanamori Y, Shimizu K. Clinical outcome after segmental wire fixation and bone grafting for repair of the defects in multiple level lumbar spondylolysis. J Spinal Disord Tech. 2007;20:521-525. IF 1.303
26) Ogawa H, Akaike A, Ishimaru D, Yamada K, Shimizu T, Koyama Y, Hori H. Posterior interosseous nerve palsy related to rheumatoid synovitis of the elbow. Mod Rheumatol. 2007;17:327-329.
27) Nagano A, Miyamoto K, Fushimi K, Hosoe H and Shimizu K. Failure of reconstruction surgery using anterior fibular strut grafting for postlaminectomy kyphosis A case report. J Clin Neurosci. 2007;14:376-379. IF 0.801
28) Inoue T, Miyamoto K, Kodama H, Hosoe H and Shimizu K. Total spondylectomy for treatment of a symptomatic hemangioma of the lumbar spine - A case report. J Clin Neurosci. 2007;14:806-809. IF 0.801
29) Yamada K, Miyamoto K, Hosoe H, Mizutani M and Shimizu K. Scoliosis associated with Prader-Willi syndrome A case report. Spine J. 2007;7:345-348.
30) Miyamoto K, Shimizu K, Matsumoto S, Sumida H, Iida H, Hosoe H. Surgical treatment of scoliosis

associated with central core disease: Minimizing the effects of malignant hyperthermia with provocation tests - Report of a case -. J Pediatr Orthoped B. 2007;16:239-242. IF 0.619
31) Shimizu T, Miyamoto K, Masuda K, Miyata Y, Hori H, Shimizu K, Maeda M. The clinical significance of impaction at the femoral neck fracture site in the elderly. Arch Orthop Trauma Surg. 2007;127:515-521. IF 0.913
32) Fushimi K, Nakashima S, You F, Takigawa M, Shimizu K. Prostaglandin E2 Downregulates TNF-α-Induced Production of Matrix Metalloproteinase-1 in HCS-2/8 Chondrocytes by Inhibiting Raf-1/MEK/ERK Cascade Through EP4 Prostanoid Receptor Activation. J Cell Biochem. 2007;100:783-793. IF 3.381
33) Maehara H, Suzuki K, Sasaki T, Oshita H, Wada E, Inoue T , Shimizu K. G1-G2 Aggrecan Product that can be Generated by M-calpain on Truncationat 709-Ala710 is Present Abundantly in Human Articular Cartilage. J Biochem. 2007;141:469-477. IF 2.020
34) Takeuchi A, Yamamoto Y, Tsuneyama K, Cheng C, Yonekura H, Watanabe T, Shimizu K, Tomita K, Yamomoto H, Tsuchiya H. Endogenous secretory receptor for advanced glycation endproducts as a novel prognostic marker in chondrosarcoma. Cancer. 2007;9:2532-2540. IF 4.632
35) Ogawa H, Nishimoto H, Hosoe H, Suzuki N, Kanamori Y, Shimizu K. Clinical outcome after segmental wire fixation and bone grafting for repair of the defects in multiple level lumbar spondylolysis. J Spinal Disord Tech. 2007;20:521-525. IF 1.303
36) Matsumoto K, Itokazu M, Uemura S, Takigami I, Naganawa T, Shimizu K. Successful joint arthroplasty after treatment of destructive MRSA arthritis of the knee using antibiotic-loaded hydroxyapatite blocks -a case report-. Arch Orthop Trauma Surg. 2007;127:47-50. IF 0.913
37) Hioki A, Miyamoto K, Hosoe H, Shimizu K. Two-staged decompression for thoracic paraparesis due to the combined ossification of the posterior longitudinal ligament and the ligamentum flavum a case report. Arch Orthop Trauma Surg. 2008;128:175-177. IF 0.913
38) Yamamoto T,Inoue N, Miyamoto K, Sugiyama S, Nozawa S, Hosoe H, Shimizu K. Segmental wire fixation for lumbar spondylolysis associated with spina bifida occulta. Arch Orthop Trauma Surg. 2008;128:1177-1182. IF 0.913
39) Hashimoto K, Miyamoto K, Hosoe H, Kawai G, Kikuike K, Shimokawa K, Suzuki N, Matsuo M, Kodama H, Shimizu K. Solitary fibrous tumor in the cervical spine with destructive vertebral involvement:A case report and review of the literature. Arch Orthop Trauma Surg. 2008;128:1111-1116. IF 0.913
40) Takigami I, Itoh Y, Itokazu M, Shimizu K. Radio-opaque marker of a surgical sponge appearing as an intra-articular foreign body after total hip arthroplasty. Arch Orthop Trauma Surg. 2008;128:1167-1168. IF 0.913
41) Chi D, Miyamoto K, Hosoe H, Kawai G, Ohnishi K, Suzuki N, Sumi H, Shimizu K. Symptomatic lumbar mobile segment with spinal canal stenosis in fused spine associated with diffused idiopathic skeletal hyperostosis A case report. Spine J. 2008;8:1019-1023.
42) Hioki A, Ohnishi K, Miyamoto K, Hosoe H and Shimizu K. Spondylolysis of the second lumbar vertebra treated with segmental wiring and bone grafting:a case report. Orthopaedics. 2008;31:287. IF 0.581
43) Terabayashi N, Miyamoto K, Sasaki H, Hosoe H, Shimizu K. Multiple steroid-induced vertebral fracture with paraparesis associated with Wegener's granulomatosis treated with posterior spinal instrumentation. Journal of Neurological Sciences(Turkish). 2008;25:67-71.
44) Hioki A, Miyamoto K, Hosoe H, Fukuta S, Shimizu K. Two-stage decompression for combined epiconus and cauda equina syndrome due to multilevel spinal canal stenosis of the thoracolumbar spine-a case report. Arch Orthop Trauma Surg. 2008;128:955-958. IF 0.913
45) Kawaguchi A, Chiba K, Tanimura Y, Motohashi T, Aoki H, Takeda T, Hayashi S, Shimizu K and Kunisada T. Isolation and characterization of Kit-independent melanocyte precursors induced in the skin of Steel factor transgenic mice. Dev Growth Differ. 2008;50:63-69. IF 1.908
46) Shinohe R. Sato M, Takemura M, Shimizu K, Koishi H, Tanaka R, Saito K, Seishima M. Cytokine profiles in mice with arthritis induced by anti-type II collagen monoclonal antibody plus lipopolysaccharide. Japanese Journal of Clinical Chemistry. 2008;37:53-62.
47) Hirakawa A, Miyamoto K, Ohno Y, Hioki A, Ogawa H, Nishimoto H, Yokoi H, Shimizu K. Two-stage (posterior and anterior) surgical treatment of spinal osteomyelitis due to antypical mycobacteria and associated thoracolumbar kyphoscoliosis in a nonimmunocompromised patient. Spine. 2008;33:E221-224. IF 2.499
48) Matsumoto M, Chiba K, Toyama Y, Takeshita K, Seichi A, Nkamura K, Arimizu J, Fujibayashi S, Hirabayashi S, Hirano T, Iwasaki M, Kaneoka K, Kawaguchi Y, Ijiri K, Maeda T, Matsuyama Y,Mikami Y, Murakami H, Nagashima H, Nagata K, Nakahara S, Nohara Y, Oka S, Sakamoto K, Saruhashi Y, Sasao Y, Shimizu K, Taguchi T, Takahashi M, Tanaka Y, Tani T, Tokuhashi Y, Uchida K, Yamamoto K, Yamazaki M, Yokoyama T, Yoshida M,and Nishiwaki Y: Surgical results and related factors for ossification of prosterior longitudinal ligament of the thoracic spinea multi-institutional retrospective study. Spine. 2008;33:1034-1041. IF 2.499
49) Hayashi Y, Sakurai T, Kimura A, Ikeda T, Masuyama Z, Suzuki Y, Tanaka Y, Hozumi I, Hosoe H, Takahashi H, Inuzuka T. Selective cauda equina hypertrophy with ideiopathic inflammation, Muscle

Nerve. 2008;38:105-1069. IF 2.424

50) Wakahara K, Ohno T, Kimura M, Masuda T, Nozawa S, Dohjima T, Yamamoto T, Nagano A, Kawai G, Matsuhashi A, Saitoh M, Takigami I, Okano Y, Shimizu K. EWS-Fli1 up-regulates expression of the Aurora A and Aurora B kinases. Mol. Cancer Res. 2008;6:1937-1945. IF 7.672

51) Takigami I, Itokazu M, Itoh Y, Matsumoto K, Yamamoto T, Shimizu K. Limb-length measurement in total hip arthroplasty using a calipers dual pin retractor. Bull NYU Hosp Jt Dis. 2008;66:107-110.

52) Ogawa H, Ito Y, Itokazu M, Mori N, Shimizu T, Terabayashi N, Ishimaru D, Shimizu K. Morcellized Bone Grafting for Acetabular Deficiency in Cementless Total Hip Arthroplasty. Orthopedics. 2008;31:986. IF 0.581

## 4. 研究費獲得状況

### 1）競争的資金

1) 研究代表者：中村耕三，研究分担者：清水克時；厚生労働科学研究費補助金：脊椎柱靭帯骨化症に関する調査研究；平成 17－18 年度；1,300 千円(500：800 千円)

2) 研究代表者：西本　裕；平成 18 年度岐阜大学活性化研究費：脳梗塞後の補助手に対するバーチャルリアリティを利用したイメージトレーニングの有用性；770 千円

3) 研究代表者：細江英夫，研究分担者：大野貴敏；文部科学省科学研究費補助金萌芽研究：ユーイング肉腫マウスモデルの樹立と解析；平成 18－19 年度；3,300 千円(2,600：700 千円)

4) 研究代表者：大野貴敏；平成 19 年度岐阜大学研究科長・医学部長裁量経費：がん細胞に対する抗がん剤治療薬と細胞死-EWS/Fli-1 融合遺伝子による Aurora kinase の転写活性化機構-；平成 19 年度；500 千円

5) 研究代表者：中村耕三，研究分担者：清水克時；平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金：脊柱靭帯骨化症に関する調査研究；平成 19 年度；1,000 千円

6) 研究代表者：大野貴敏，研究分担者：木村正志；文部科学省科学研究補助金基盤研究(C)：骨軟部腫瘍におけるオーロラキナーゼの解析；平成 18 年－20 年度；3,600 千円(2,600：500：500 千円)

7) 研究代表者：戸山芳昭，研究分担者：清水克時；平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金：難治性疾患克服研究事業：脊柱靭帯骨化症に関する調査研究：平成 20 年度；1,000 千円

8) 研究代表者：清水克時；2008 年日本脊椎脊髄病学会 Visiting Scholar Program；1,000 千円

9) 研究代表者：大野貴敏，研究分担者：手塚建一，原　明；平成 20 年度岐阜大学研究科長裁量経費　多分野共同研究「プロジェクトチーム」：歯髄細胞による骨再生プロジェクト ヒト歯髄細胞を用いた免疫不全ラット大腿骨骨偽関節モデルにおける骨再生：平成 20 年度；1,000 千円

### 2）受託研究

1) 研究代表者：藤江正克，川﨑晴久，研究分担者：野田博，下村尚之，栄枝裕文，西本裕，安倍基幸．新エネルギー・産業技術総合開発機構　人間支援型ロボット実用化基盤技術開発事業，イメージトレーニング機能付き手指上肢リハビリ支援システムの研究開発；平成 17－19 年度；7,580 千円(328：4,854：2,398)：丸富精工(株)

2) 研究代表者：青木隆明．マイクロバブルの身体への効果についての研究；平成 19－20 年度；1,000 千円：朝日興業(株)

### 3）共同研究

なし

## 5. 発明・特許出願状況

1) 青木隆明：前腕回内外運動用装具の開発；平成 19 年度

## 6. 学会活動

### 1）学会役員

清水克時：

1) 日本手の外科学会倫理委員会委員(平成 18 年 5 月～現在)

2) 日本手の外科学会評議員(平成 18 年 5 月～現在)

3) 日本整形外科学会第 19 回専門医試験口頭試験委員(平成 18 年 10 月～現在)

4) 第 5 回整形外科長良リバーサイドフォーラム代表世話人(平成 19 年 1 月～現在)

5) 日本脊椎脊髄病学会評議員(平成 19 年 4 月～現在)

6） 日本手の外科学会倫理委員会委員(平成 19 年 5 月～現在)
7） 日本脊椎脊髄病学会指導医制度検討委員会委員(平成 19 年 6 月～現在)
8） 日本脊椎脊髄病学会国際委員会委員(平成 19 年 6 月～現在)
9） 日本脊椎脊髄病学会倫理委員会委員(平成 19 年 6 月～現在)
10） 日本脊椎脊髄病学会財務委員会委員(平成 19 年 6 月～現在)
11） Fighting Vascular Events in Gifu 2007 世話人(平成 19 年 6 月～現在)
12） 第 37 回日本脊椎脊髄病学会プログラム委員(平成 19 年 10 月～現在)
13） 日本整形外科学会第 20 回専門医試験口頭試験委員(平成 19 年 10 月 24 日)
14） 第 1 回東海静脈血栓塞栓症(VTE)予防ネットワークシンポジウム世話人(平成 19 年 12 月 8 日)
15） 平成 20 年度日本手の外科学会評議員(平成 20 年 5 月～現在)
16） 平成 20 年度日本手の外科学会倫理委員会委員(平成 20 年 5 月～現在)
17） 第 21 回専門医試験口頭試験委員(平成 20 年 10 月 22 日)
18） 日本脊椎脊髄病学会 2009 SAS scientific program reviewer(平成 20 年 10 月 24 日)
19） 日本整形外科学会筋骨格系 TAG 組織委員会委員(平成 20 年 11 月～現在)

大野貴敏：
1） 中部日本整形外科災害外科学会評議員(～現在)
2） 東海骨軟部腫瘍研究会幹事(平成 18 年度～現在)
3） 骨軟部腫瘍治療検討会幹事(平成 20 年度～現在)
4） 日本運動器移植・再生医学研究会幹事(平成 20 年度～現在)

細江英夫：
1） 日本整形外科学会専門医口頭試験試験官(平成 18 年 1 月 20 日)
2） 日本整形外科学会脊椎内視鏡下手術インシデント・ワーキンググループ(平成 18 年度～現在)
3） 日本側彎症学会 2010 SRS 実行委員会委員(平成 18 年度～現在)
4） 日本脊椎インストゥルメンテーション学会幹事(平成 18 年度～現在)
5） 岐阜県社会福祉審議会委員(平成 19 年度～現在)
6） 岐阜市社会福祉審議会委員(平成 19 年度～現在)
7） 国民健康保険審査員(平成 20 年度～現在)
8） 障害年金審査員(平成 20 年度～現在)
9） 側弯症学会幹事(平成 20 年度～現在)
10） 日本整形外科学会代議員選挙管理委員会委員(～現在)
11） 日本脊椎・脊髄病学会評議員(～現在)
12） 日本乳・幼児側弯症研究会世話人(～現在)
13） 中部日本整形外科災害外科学会評議員(～現在)
14） 東海脊椎外科研究会常任幹事(～現在)

西本　裕：
1） 中部日本整形外科災害外科学会評議員(～現在)
2） 日本整形外科学会代議員(～現在)

大野義幸：
1） 中部日本整形外科災害外科学会評議員(～現在)

伊藤芳毅：
1） 中部日本整形外科災害外科学会評議員(～現在)
2） 日本人工関節学会評議員(平成 20 年度～現在)
3） 日本股関節学会評議員(平成 20 年度～現在)
4） 東海関節外科研究会幹事(～現在)
5） 東海小児整形外科懇話会常任幹事(～現在)
6） 東海人工関節研究会常任世話人(平成 20 年度～現在)
7） 関西膝関節鏡研究会幹事(～現在)
8） 第 11 回東海足と靴の研究会幹事(平成 19 年 10 月 20 日)

9） 東海股関節研究会代表幹事(平成 19 年度～現在)
10） 岐阜人工関節フォーラム幹事(～現在)
11） 日本整形外科学会 ICD-11 検討委員会委員(平成 19 年度～現在)

青木隆明：
1） 日本義肢装具学会会則検討委員(平成 18 年 10 月 20 日)
2） 日本リハビリテーションネットワーク研究会理事(平成 18 年 12 月 3 日)
3） 整形外科リハビリテーション学会顧問(平成 18 年 12 月～現在)
4） 日本義肢装具学会会則委員(～現在)
5） 日本リハビリテーションネットワーク学会理事(～現在)
6） 日本リハビリテーション医学会東海中部地方会幹事(～現在)
7） 岐阜リハビリテーション研究会評議員(～現在)

寺林伸夫：
1） 東海関節鏡研究会幹事(平成 19 年 6 月～現在)

**2）学会開催**

清水克時：
1） 第 8 回岐阜整形外科卒後夏期セミナー2006(平成 18 年 7 月，岐阜)
2） 第 9 回岐阜整形外科卒後夏期セミナー2007(平成 19 年 7 月，岐阜)
3） 第 10 回岐阜整形外科卒後夏期セミナー2008(平成 20 年 7 月，岐阜)

伊藤芳毅：
1） 第 11 回東海足と靴の研究会(平成 19 年 10 月，岐阜)

青木隆明：
1） 岐阜リハビリテーション研究会(平成 19 年 11 月，岐阜)
2） 岐阜リハビリテーション研究会(平成 20 年 10 月，岐阜)

**3）学術雑誌**

清水克時：
1） 株式会社医学書院「臨床整形外科」; 編集委員(～現在)
2） Orthopaedic International: Editor(～現在)
3） Orthopaedic Today: Editor(～現在)
4） 株式会社メディカ出版「整形外科看護」: 編集同人(～現在)

## 7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

清水克時：
1） ベネット骨粗鬆症学術講演会(平成 18 年 1 月，岐阜，特別講演「骨粗鬆症は易しくない－特に骨粗鬆症から起こる変形性脊椎症－」座長)
2） 岐阜県医師会健康スポーツ医学研修会(平成 18 年 1 月，岐阜，特別講演「スポーツ選手における腰椎分離症」演者)
3） 岐阜県外傷救命救急セミナー(平成 18 年 1 月，岐阜，特別講演「現代の高度外傷医療」座長)
4） 沖縄腰痛・下肢痛フォーラム 2006(平成 18 年 1 月，沖縄，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療」演者)
5） 医師会学術講演会(平成 18 年 2 月，三重，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
6） 宮崎県腰部脊柱管狭窄症フォーラム(平成 18 年 2 月，宮崎，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療」演者)
7） 第 16 回福島県整形外科医の集い(平成 18 年 2 月，福島，特別講演「脊椎インストゥルメンテーションによる変形矯正」演者)
8） 腰痛・下肢痛疾患フォーラム in 熊本(平成 18 年 2 月，熊本，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
9） 岐阜県臨床整形外科医会講演会(平成 18 年 3 月，岐阜，特別講演「小児の脊柱変形」演者)
10） 松江市医師会学術講演会(平成 18 年 3 月，鳥取，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)

11） 第 392 回岩手整形災害外科懇談会(平成 18 年 4 月，岩手，特別講演「スポーツ選手における腰椎分離症の手術」演者)
12） 第 35 回開放型病床カンファレンス(平成 18 年 4 月，岐阜，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
13） 恵那医師会春期学会(平成 18 年 4 月，岐阜，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
14） モーラステープ発売 10 周年記念学術文化講演会(平成 18 年 5 月，岐阜，特別講演「私の取材手帳から～わたしが出会った素敵な人たち～」座長)
15） 第 79 回日本整形外科学会学術総会(平成 18 年 5 月，神奈川，教育研修講演「肩こりの医学」座長)
16） 鳥取県東部医師会学術講演会(平成 18 年 5 月，鳥取，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
17） 第 8 回岐阜大学整形外科教育研修会(平成 18 年 5 月，岐阜，特別講演「変形性関節症の病態と治療」座長)
18） 腰痛セミナーin 城南(平成 18 年 6 月，東京，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
19） 群馬県腰・足のしびれ痛みセミナー(平成 18 年 6 月，群馬，特別講演「腰部治療の病診連携」演者)
20） 岐阜県医師会外科医部会・労災指定医部会総会(平成 18 年 7 月，岐阜，特別講演「末梢神経障害の治療とリハビリ」座長)
21） 筑後臨床整形外科医会学術講演会(平成 18 年 7 月，福岡，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療」演者)
22） 第 33 回スポーツ医学研修会(平成 18 年 8 月，東京，特別講演「脊柱，胸・腰椎の外傷と障害」演者)
23） 腰痛・下肢痛疾患フォーラム熊本(平成 18 年 9 月，熊本，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
24） オステオポローシスセミナー(平成 18 年 9 月，岐阜，特別講演「骨粗鬆症性脊椎骨折の治癒過程からみた戦略的保存・手術治療の実際と展望」座長)
25） 骨粗鬆症最新講演会(平成 18 年 9 月，岐阜，特別講演「骨粗鬆症のグローバルスタンダードと我国の現状」座長)
26） 岐阜県腰痛フォーラム(平成 18 年 9 月，岐阜，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
27） 第 107 回中部日本整形外科災害外科学会(平成 18 年 10 月，兵庫，「骨粗鬆症性圧迫骨折に対する治療」座長)
28） 阪神 LCS フォーラム(平成 18 年 10 月，兵庫，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療」演者)
29） 第 5 回岐阜リハビリテーション研究会(平成 18 年 11 月，岐阜，特別講演「筋力増強効果のエビデンス」座長)
30） 第 87 回和歌山臨床整形外科医会研修会(平成 18 年 11 月，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療」演者)
31） アルファロール発売 25 周年記念講演会(平成 18 年 11 月，岐阜，特別講演「骨折予防の観点に基づく最新の骨粗鬆症治療指針」座長)
32） 第 34 回東海地区整形外科教育研修会(平成 18 年 11 月，愛知，特別講演「股関節と脊椎における手術手技の工夫と実際」座長)
33） プライマリ・ケアセミナー(平成 18 年 12 月，京都，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の病態，診断と治療－診断サポートツールを含めて－」演者)
34） 腰痛疾患セミナー2006(平成 18 年 12 月，滋賀，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
35） 第 8 回 Latest Orthopedics 研究会(平成 18 年 12 月，岡山，特別講演「脊椎骨髄炎の診断と治療」演者)
36） 第 166 回福山外科会(平成 18 年 12 月，広島，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
37） 第 5 回整形外科長良リバーサイドフォーラム(平成 19 年 1 月，岐阜，特別講演「ピットホールに嵌らない足疾患・外傷の見方」座長)
38） 第 6 回岐阜骨粗鬆症フォーラム(平成 19 年 1 月，岐阜，特別講演「高齢者における服薬指導の実践～骨粗鬆症治療薬を中心に～」座長)
39） 韓日脊椎外科懇話会(平成 19 年 2 月，岐阜，特別講演「韓国における脊椎外科トピックス」座長)
40） 2 月内科会(平成 19 年 2 月，岐阜，特別講演「一般内科医が知っておきたい腰痛の診断治療」演者)
41） 第 5 回七隈 LCS セミナー(平成 19 年 2 月，福岡，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
42） 第 3 回岐阜運動器ｱプライマリーケアセミナー(平成 19 年 2 月，岐阜，特別講演「日常遭遇する軟部腫瘍－診療の要点と盲点－」座長)
43） 函館整形外科会学術講演会(平成 19 年 3 月，函館，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
44） 第 10 回岐阜脊椎セミナー(平成 19 年 3 月，岐阜，特別講演「脊椎骨髄炎の診断と治療」演者)
45） Medical Tribune プライマリーケア・セミナー(平成 19 年 3 月，名古屋，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の病態，診断と治療－診断サポートツールを含めて－」演者)

46） プライマリ・ケアセミナー(平成 19 年 3 月，名古屋，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の病態，診断と治療－診断サポートツールを含めて－」演者)
47） 自転車による健康づくり講演会(平成 19 年 3 月，美濃，特別講演「自転車と健康」演者)
48） 第 4 回岐阜運動器プライマリーケア・セミナー(平成 19 年 3 月，岐阜，特別講演「頚椎疾患の病診連携－たかが肩こり，されど肩こり－」座長)
49） 第 4 回岐阜運動器プライマリーケア・セミナー(平成 19 年 3 月，岐阜，特別講演「腰痛診断の落とし穴」座長)
50） 第 108 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会(平成 19 年 4 月，広島，特別講演「上位頚椎部傷病の診療の要点」座長)
51） 羽島郡メディカルセミナー(平成 19 年 4 月，羽島郡，特別講演「一般内科医が知っておきたい腰痛の診断治療」演者)
52） 第 6 回びわこスポーツ障害フォーラム(平成 19 年 4 月，大津，特別講演「腰の痛みとスポーツ障害」演者)
53） シカゴ･岐阜　脊椎脊髄病セミナー(平成 19 年 4 月，岐阜，特別講演「変性椎間板の治療　米国での最近の話題から」座長)
54） 第 9 回岐阜大学整形外科教育研修会(平成 19 年 5 月，岐阜，特別講演「膝スポーツ障害治療のトピックス」座長)
55） Inspiration Asia(2007.06，Bali，Long term complications after cervical fusion; chairperson)
56） Fighting Vascular Events in Gifu 2007(平成 19 年 6 月，岐阜，特別講演「腰部脊柱管狭窄症診断の視点からみた，ABI の捉え方」座長)
57） Fighting Vascular Events in Gifu 2007(平成 19 年 6 月，岐阜，特別講演「PAD に対する外科治療戦略－他科との連携による integrated therapy－」座長)
58） 第 63 回西日本脊椎研究会(平成 19 年 6 月，福岡，特別講演「腰椎変性側彎症の手術」演者)
59） 岐阜 biological 研究会(平成 19 年 6 月，岐阜，特別講演「新しい RA 治療の可能性－生物学的製剤と軟骨破壊－」座長)
60） ベネット Weeklyjy 錠新発売記念講演会(平成 19 年 6 月, 岐阜, 特別講演「骨粗鬆症の薬物療法：2006 年版ガイドラインを踏まえて」座長)
61） 第 7 回 ATST ミーティング(平成 19 年 6 月，東京，特別講演「腰椎変性疾患へのロープロファイルシステムについて」座長)
62） The 17th Korean-Japanese Combined Orthpaedic Symposium(2007.07, Soul, Free paper 12:Spine 1; chairperson)
63） 大分腰部脊柱管狭窄症フォーラム 2007(平成 19 年 7 月，大分，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の治療」演者)
64） 岐阜骨粗鬆症治療研究会特別講演会(平成 19 年 7 月，岐阜，特別講演「中下位頚椎の前方手術」演者)
65） メドトロニックスパインセミナー(平成 19 年 8 月，神戸，特別講演「MINI-OPEN TLIF」座長)
66） メドトロニックスパインセミナー(平成 19 年 8 月，神戸，特別講演「TLIF による腰椎変性側弯の治療」講演)
67） SICOT 国際整形外科学会(2007.08-09, Morocco, SURGICAL TREATMENT FOR SPONDYLOLYSIS IN YOUNG ATHLETES; Lecturer)
68） SICOT 国際整形外科学会(2007.08-09, Morocco, Session 05: Spine degenerative; chairperson)
69） 第 14 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会(平成 19 年 9 月，名古屋，特別講演「高齢者頚髄症の病態および前方除圧固定術の成績-dynamic plate の有用性について-」座長)
70） 第 14 回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会(平成 19 年 9 月，名古屋，特別講演「ABC 頚椎ダイナミックプレートの手術手技の紹介と注意点(ハンズオンセッション B)」座長)
71） オステオポローシスセミナー(平成 19 年 9 月，岐阜，特別講演「骨粗鬆症に伴う骨折の予防」座長)
72） 第 109 回日本整形外科災害外科学会学術集会(平成 19 年 10 月，奈良，特別講演「大仏セミナー9 腰痛治療 Up to Date－腰部脊柱管狭窄症を中心に－」座長)
73） 埼玉腰痛フォーラム 2007(平成 19 年 10 月，川口市，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
74） 6th Combined Meeting of Orthopaedic Reseach Societies(2007.10, Hawaii, Session 22: Intervertebral Disc; chairperson)
75） 第 36 回東海地区整形外科教育研修会(平成 19 年 11 月，名古屋，特別講演「腰椎椎間板障害の基礎と臨床」座長)

76） 骨粗鬆症フォーラム(平成 19 年 11 月，福井，特別講演「骨粗鬆症性椎体骨折の手術」座長)
77） 小牧市医師会生涯教育研修会(平成 19 年 11 月，小牧，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
78） 平成 19 年度第 4 回東京都臨床整形外科医会統合研修会(平成 19 年 11 月，東京，特別講演「腰痛治療の病診連携」演者)
79） ASEAN OA27 VOA06 SSHV12(2007.12, Vietnam, Two staged(posterior and anterior) surgical treatment for pyogenic abd tuberculotic spondylitis; Lecturer)
80） 神奈川 LCS フォーラム 2008(平成 20 年 4 月，横浜市，講演「腰部脊柱狭窄症の治療」演者)
81） 第 110 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会(平成 20 年 4 月，大津市，講演「腰部脊柱管狭窄症の病態と治療」座長)
82） 豊田加茂整形外科学術講演会(平成 20 年 4 月，豊田市，講演「腰痛治療の病診連携」演者)
83） 小浜市医師会学術講演会(平成 20 年 5 月，小浜市，特別講演「骨粗鬆症性椎体骨折の手術」演者)
84） 第 14 回山口県腰痛研究会(平成 20 年 5 月，山口市，特別講演「腰部脊柱管狭窄症の手術的治療」演者)
85） 第 10 回岐阜大学整形外科教育研修会(平成 20 年 5 月，岐阜市，特別講演「上肢の絞扼性末梢神経障害について」座長)
86） APOA,the Spine and Pediatric Sections 2008(2008.06, Jeju Island, Symposium 2 : Cervical spondylotic myelopethy; chairperson)
87） APOA,the Spine and Pediatric Sections 2008(2008.06, Jeju Island, Surgical treatment for spondylolysis in young Athletes. Lecture)
88） 岐阜骨粗鬆症リバーサイドカンファレンス(平成 20 年 6 月，岐阜，講演「高齢者の骨折予防と転倒予」座長)
89） 岐阜県 VTE 予防セミナー(平成 20 年 7 月，岐阜，「当院におけるフォンダパリヌクスの使用経験」「下肢整形外科周術期予防の最新ストラテジー」座長)
90） 外科医部会・労災指定医部会合同講演会(平成 20 年 7 月，岐阜，講演「脊椎のスポーツ障害」演者)
91） 第 41 回日本整形外科学会骨･軟部腫瘍学術集会(平成 20 年 7 月, 浜松, 教育研修講演「Current status of spinal tumors in the USA」座長)
92） 整形外科学術講演会(平成 20 年 7 月，那覇市，講演「脊椎感染症の診断と治療」演者)
93） The 18th Japanese-Korean Combined Orthopaedic Symposium(2008.07-08, Nagasaki, Symposium 1:spondyloarthropathy following hemodialysis. chairperson)
94） 第 7 回尾張生活習慣病研究会(平成 20 年 8 月，名古屋市，講演「腰痛治療の病診連携」演者)
95） 岐阜県国民健康保険運営協議会会長連絡協議会(平成 20 年 8 月，岐阜，特別講演「腰痛－運動器の生活習慣病」演者)
96） 大田腰部脊柱管狭窄症セミナー2008(2008.08, 大田市(Korea), Hospital-clinic partership in low back pain practice. Lecture)
97） SICOT/SIROT2008 XX Ⅳ Triennial World Congress(2008.08, Hong Kong, Free Papers-Spine:Cervical Spine Ⅱ. chairperson)
98） 痛みの治療フォラム in 岐阜(平成 20 年 9 月，岐阜，講演「腰痛の病態と治療－新しい概念と戦略－」演者)
99） ぎふ金華山整形外科セミナー(平成 20 年 9 月，岐阜，講演「整形外科医の知っておくべき医療訴訟とリスクマネジメントの知識－整形外科医と患者の安全と安心のために－」座長)
100） 第 6 回整形外科長良リバーサイドフォーラム(平成 20 年 9 月，岐阜，講演「肩甲帯腫瘍の再建と機能」座長)
101） 第 15 回日本脊椎･脊髄神経手術手技学会学術集会(平成 20 年 9 月, 大津市, 特別講演「Percutaneous vertebroplasty」座長)
102） モーラスパップ発売 20 周年記念講演会(平成 20 年 10 月，岐阜市，津川雅彦講演「役者生活を支える心と体の健康」座長)
103） ST360° Surgical Technique Seminar(平成 20 年 10 月，名古屋市，貢川整形外科病院院長池上仁志講演 座長)
104） 第 42 回日本側彎症学会(平成 20 年 10 月，奈良，講演「側弯症治療のコツ 手術(前方法)」演者)
105） 第 23 回日本整形外科学会基礎学術集会(平成 20 年 10 月，京都，講演「頚椎前方手術に役立つ機能解剖」演者)
106） 8th Inspiration Meeting(2008.10, Rome, Round-table discussionn of clinical cases：Anterior stabilization of degenerative cervical spinal lesions. chairperson )

107） 第 43 回東海接骨学会・第 90 回中部接骨学会(平成 20 年 11 月，羽島市，特別講演「頚椎症，OPLL の手術治療」演者)
108） 腰部脊柱管狭窄症と血管疾患学術講演会(平成 20 年 11 月，岐阜市，講演「腰部脊柱管狭窄症の病態と治療」座長)
109） 名市大整形外科セミナー(平成 20 年 12 月，名古屋市，特別講演「スポーツ選手の腰椎分離症」演者)
110） 保険診療に関する講習会(平成 20 年 12 月，岐阜，講演「保険医と診療報酬の審査」座長)

大野貴敏：
1） 第 8 回岐阜大学整形外科教育研修会(平成 18 年 5 月，岐阜，特別講演「最近行っている腫瘍再建術」座長)
2） 岐阜県臨床整形外科医会(平成 18 年 7 月，岐阜，特別講演「骨軟部腫瘍の診療」演者)
3） 岐阜臨床腫瘍研究会(平成 18 年 11 月，岐阜，特別講演「骨軟部腫瘍について」演者)
4） 第 3 回岐阜運動器プライマリーケアセミナー(平成 19 年 2 月，岐阜，特別講演「日常遭遇する骨腫瘍－診療の要点と盲点－」座長)
5） 第 6 回整形外科長良リバーサイドフォーラム(平成 20 年 9 月，岐阜，招待講演「肩甲帯腫瘍の再建と機能」座長)
6） 第 32 回大垣市外科連合会学術講演会(平成 20 年 10 月，大垣，特別講演「骨軟部腫瘍の診療」演者)
7） 第 23 回日本整形外科学会基礎学術集会(平成 20 年 10 月，京都，シンポジウム「骨軟部腫瘍の治療：Future perspecrives」シンポジスト　分子標的としての EWS 融合遺伝子)
8） 第 2 回伴侶動物の臨床医学研究会(平成 20 年 12 月，岡崎，シンポジウム「骨軟骨腫瘍の臨床試験と医学獣医学連携」演者)
9） 第 2 回伴侶動物の臨床医学研究会(平成 20 年 12 月，岡崎，シンポジウム「骨軟骨腫瘍の課題」座長)
10） 岐阜外科懇談会(平成 20 年 12 月，岐阜，特別講演「軟部腫瘍の要点・盲点」演者)

細江英夫：
1） 平成 17 年度小児整形外科セミナー(平成 18 年 3 月，岐阜，特別講演「小児脊椎疾患：学校保健や治療上の諸問題とその対策」座長)
2） 第 5 回東濃・加茂脊椎外科セミナー(平成 19 年 2 月，多治見，講演「腰部脊柱管狭窄症の治療戦略」演者)
3） 第 4 回岐阜運動器プライマリーケア・セミナー(平成 19 年 3 月，岐阜，講演「腰痛診断の落とし穴」演者)
4） 第 80 回下呂市医師会学術講演会(平成 19 年 5 月，下呂，講演「腰痛診療の落とし穴」演者
5） 第 19 回岩手脊椎脊髄外科懇話会，第 407 回岩手整形災害外科懇話会(平成 19 年 10 月 20 日，盛岡，講演「骨粗鬆症性脊椎骨折に対する脊椎短縮術」演者)
6） 第 6 回岐阜リハビリテーション研究会(平成 19 年 11 月，岐阜，特別講演『障害克服のためのニューロバイオニクス』座長)
7） 平成 19 年度岐阜脊椎特別講演会(平成 20 年 1 月，岐阜市，講演「脊椎外科－私の工夫と術中 MRI 手術－」座長)
8） 整形外科リバーサイドフォーラム(平成 20 年 1 月，岐阜，講演「経椎間孔腰椎椎体間固定術 TLIF の実際」座長)
9） KAPSS 応用脊柱再建セミナー(平成 20 年 4 月，東京，講演「脊柱側彎症矯正固定への応用」演者)
10） ハイペン講演会(平成 20 年 9 月，講演「整形外科で扱う脊髄疾患の診断と治療」座長)
11） 第 15 回脊椎・脊髄神経手術手技研究会(平成 20 年 9 月，大津市，Spine Leader's lecture「新しい概念の頚椎前方 Dynamic Plate とその有用性」演者，講演「新しい概念の頚椎前方 Dynamic Plate ～その有用性と手術手技～」演者)
12） 第 7 回岐阜リハビリテーション研究会(平成 20 年 10 月，岐阜市，特別講演「末梢神経外科のリハビリテーション」座長)
13） 腰部脊柱管狭窄症と血管疾患学術講演会(平成 20 年 11 月，岐阜市，講演「腰部脊柱管狭窄症と PAD の合併はあるのか？」座長)

西本　裕：
1） 西濃臨床整形外科医会(平成 18 年 11 月，大垣，教育研修講演「骨･軟部腫瘍治療のコツと落とし穴」演者)

2） 第 115 回備後整形外科医会(平成 20 年 4 月，福山，講演「骨･軟部腫瘍－診断から障害者スポーツまで－」演者)

大野義幸：
1） 第 2 回岐阜運動器プライマリーケアセミナー(平成 19 年 2 月，岐阜，特別講演「末梢神経損傷の診断と治療」演者)

伊藤芳毅：
1） 第 1 回東海股関節外科研究会(平成 18 年 6 月，愛知，特別講演「1.骨盤骨折の治療・方針，2.股関節疾患診断のコツ」座長)
2） 第 8 回名古屋股関節セミナー(平成 19 年 2 月，名古屋，特別講演「股関節疾患に対する THA」演者)
3） 第 9 回名古屋股関節セミナー(平成 19 年 6 月，名古屋，特別講演「変形性股関節症に対する骨頭温存手術(総論)」演者)
4） 第 11 回名古屋股関節セミナー(平成 20 年 2 月，名古屋，講演「カップサポーターを用いた臼蓋再建術」演者)
5） 第 12 回名古屋股関節セミナー(平成 20 年 6 月，名古屋，講演「変形性股関節症に対する骨頭温存手術(総論)」演者)

青木隆明：
1） 岐阜県接骨学会(平成 18 年 9 月，岐阜，特別講演「神経疾患のリハビリテーション」演者)
2） 第 3 回岐阜回復期リハビリテーションセミナー(平成 19 年 9 月，岐阜,「リハビリテーションの地域連携」シンポジスト)
3） 岐阜臨床整形外科(平成 20 年 7 月，岐阜，特別講演「外傷性頸部症候群のリハビリテーション」演者)
4） 高齢者転倒を考える講演会(平成 20 年 7 月，岐阜，特別講演「高齢者の転倒・骨折予防について」座長)

大島康司：
1） 平成 20 年度生理学研究所研究会「第 2 回伴侶動物の臨床医学研究会」テーマ：比較腫瘍学；骨軟骨腫瘍を克服する-骨肉腫を中心に-(平成 20 年 12 月，岡崎，シンポジウム 4「骨軟骨腫瘍の課題」演者)

森　敦幸：
1） LCS 記念講演(平成 19 年 1 月，岐阜，特別講演「当科における LCS の使用経験」演者)
2） 岐阜市民健康講座(平成 19 年 1 月，岐阜，特別講演「膝関節痛について(変形性膝関節症を中心に)」演者)

## 8. 学術賞等の受賞状況

1） 細江英夫：第 15 回脊椎・脊髄神経手術手技研究会ベスト・ペーパー賞(平成 20 年度)

## 9. 社会活動

清水克時：
1） 独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(平成 18 年 1 月～平成 19 年 12 月)
2） 日本ストライカー株式会社臨床開発部臨床治験に関する医学専門家(平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月)
3） 運動器の 10 年日本委員会国際委員会委員(平成 18 年 9 月)
4） 臨床治験に関する医学専門家(～現在)
5） 整形災害外科学研究助成財団選考委員(～現在)
6） 整形災害外科科学研究助成財団企画･募金委員会委員(平成 19 年 5 月 23 日)
7） 財団法人整形災害科学研究助成財団理事(平成 19 年 5 月～現在)
8） 岐阜難病連難病医療福祉相談会相談員(平成 20 年 10 月 5 日)
9） 第 10 回国際テニス・スポーツ医学会議組織委員(平成 20 年 10 月 2 日－4 日)

細江英夫：
1） 日本整形外科学会専門医口頭試験(平成 19 年 1 月 19 日)

伊藤芳毅：
1） 財団法人愛知骨軟部組織移植振興財団評議員(～現在)

青木隆明：
1） ジャパンパラリンピック水泳 メディカルドーピングオフィサー(平成 18 年 7 月 16 日－17 日)
2） フェシピック 2006 障害者スポーツアジア大会帯同ドクター(平成 18 年 11 月 21 日－12 月 3 日)
3） ヤマハ発動機－IPC 障害者アルペンスキーワールドカップ メディカル・ドーピング・オフィサー(平成 18 年 1 月 28 日－2 月 1 日)
4） 障害者スポーツ指導員講習会講義(平成 19 年 3 月 10 日)
5） CP サッカー全国選手権大会大会医(平成 19 年 6 月 16－17 日)
6） 関東身体障害者陸上競技選手権大会ドーピング医師(平成 19 年 7 月 1 日)
7） ジャパンパラリンピックアーチェリードーピング医師(平成 19 年 7 月 22 日)
8） 大分車椅子マラソンドーピング医師(平成 19 年 10 月 28 日)
9） US オープン障害者水泳国際大会帯同医(平成 19 年 12 月 3 日－10 日)
10） 日本アンチドーピング協会 DCO(～現在)

大野義幸：
1） 東海マイクロサージャリー研究会世話人(～現在)
2） 岐阜手の外科症例検討会幹事(～現在)

西本裕：
1） 岐阜県社会保険診療報酬請求書審査委員会審査委員(～現在)
2） 岐阜県体育協会医科学委員(平成 19 年度～平成 20 年度)
3） 岐阜県体育協会医科学委員(平成 19 年 4 月～現在)
4） 岐阜労働局労災保険診療協議会委員(平成 20 年度～現在)

## 10. 報告書

1） 清水克時．頚椎後縦靱帯骨化症に関する根治的治療に関する研究　第 2 報 新しい軸椎部後方除圧法：厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業　脊柱靱帯骨化症に関する調査研究　平成 18 年度総括・分担研究報告書：129(2007 年 3 月)
2） 清水克時．頚椎亜全摘前方固定術後の腓骨定着と内固定材料の変化に関する研究：厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業　脊柱靱帯骨化症に関する調査研究　平成 19 年度総括・分担研究報告書：106－107(2008 年 3 月)

## 11. 報道

1） 大野貴敏：「研究室から　大学はいま」骨肉腫の完治を目指して：岐阜新聞(2006 年 5 月 16 日)
2） 西本裕：「研究室から　大学はいま」大切な急性期のリハビリ：岐阜新聞(2006 年 6 月 20 日)
3） 清水克時：自転車で心も健康に ツアー・オブ・ジャパン開催記念：岐阜新聞(2007 年 3 月 2 日)
4） 青木隆明，西本裕，川崎晴久：手指上肢リハビリ支援システム：整形爛漫(2007 年 12 月)
5） 清水克時：マルホ整形外科セミナー：ラジオ NIKKEI 本社スタジオ(2008 年 9 月 3 日放送)

## 12. 自己評価

評価

いずれの研究グループとも，徐々に充実した研究成果を挙げつつあるが，先進性を達成するため，より一層の努力を要する。道のりが長く，すぐには成果が現れない課題もあるが，地道な努力を継続しており，今後の展開が期待できる。

現状の問題点及びその対応策

人員不足が最も大きな問題であり，新臨床研修システムに移行して以来続いている。今後その影響がさらに顕著となり，大学院生の確保が困難となることが予想される。それに反しスタッフの臨床面での

duty が増加しており，一層の効率化が望まれるが，即効的な解決策はないのが現状である。

今後の展望

先の問題点はあるが，今後も質の高い研究を目指していきたい。整形外科が担う領域は非常に広く，明らかにすべき問題点が数多く存在する。それらを丹念に精査して，患者の QOL 向上に繋がる新たなメッセージを，世界に向けて発信したいと考える。

## （5）皮膚病態学分野

### 1. 研究の概要

1）北島康雄教授は厚生労働省特定疾患希少難治性疾患に関する調査研究班主任研究者として，天疱瘡，先天性表皮水疱症，膿疱性乾癬，水疱型魚鱗癬様紅皮症の 4 疾患について 2002 年から 2004 年の 3 年間に引き続き，2005 年から 2007 年の 3 年間においても診断基準，発症機序，治療法の開発についての研究を行なった。また永井美貴臨床講師が医学研究科長プール助手の重点化助手として 2006 年 2 月から採用され本研究の主要メンバーとして参加した。

2）天疱瘡に関する研究

天疱瘡・類天疱瘡は全身にびらん水疱を形成する自己免疫水疱症である。細胞間接着構造（デスモソーム）構成成分や，表皮真皮境界接合構造（ヘミデスモソーム）に対する自己抗体により発症する。当科では自己免疫性水疱症の発症メカニズムの解明に取り組んでいる。類天疱瘡については北島康雄教授を中心に神尾尚子（研究補佐員 2008 年まで在籍），岩田浩明助教が類天疱瘡の病態研究を行っており，類天疱瘡抗体により抗原である BP180 抗原が分解することを生化学的に証明した。天疱瘡研究では，北島康雄教授と青山裕美講師を中心に伊佐保香（研究補佐員）村瀬香奈（大学院）が研究を行っている。主な研究テーマは天疱瘡抗体による p120catenin 関連デスモグレイン 3 の分解誘導シグナルの解析である。周円助教が 2007 年から一年間イタリアモデナ大学皮膚科（Carlo Pincelli 博士）にポスドクとして留学し天疱瘡抗体によるアポトーシス誘導機構の解析の共同研究を行った。2008 年 5 月国際研究皮膚科学会サテライトシンポジウム『Post IID 5th Joint Meeting of SSSR and SCUR, and International Meeting on Autoimmune Bullous Disease 2008』を大津で主催した。本学会は日本，米国，ヨーロッパを中心に自己免疫性水疱症の研究者が参加し我々もこれまでの研究成果を報告した。

3）先天性表皮水疱症

北島康雄教授を中心に大阪大学大学院医学系研究科遺伝子治療学教室玉井克人准教授および岐阜大学皮膚病態学大学院生の知野剛直との共同で遺伝子治療の基礎研究を行った。特に胎児期に免疫寛容を誘導することに成功した。

4）アトピー性皮膚炎に関する研究

高木肇前助教授，雄山瑞栄臨床講師を中心に治療法，保湿能などの臨床的研究を行なった。

5）皮膚悪性腫瘍に関する研究

厚生労働省癌研究メラノーマ班会議の研究協力者（北島康雄教授）として参加し，神谷秀喜講師，岩田浩明臨床講師，青山裕美講師を中心に悪性腫瘍に関する基礎的および臨床的研究を行なった。

6）乾癬に関する研究

雄山瑞栄助教を中心に，皮疹部の角層におけるデスモグレイン 1 の分布についてテープストリッピング法を用いて観察し，乾癬の診断・治療の評価などについて民間の化粧品関連会社と共同研究を行った。（北島康雄教授は日本乾癬学会の理事）

7）皮膚真菌症に関する研究

青山裕美講師を中心に診断と治療法の開発研究を行なった。（北島教授は日本医真菌学会の理事）

8）強皮症に関する研究

市來善郎准教授を中心に，強皮症における末梢循環障害の病態解明の研究を行なった。

### 2. 名簿

| | | |
|---|---|---|
| 教授： | 北島康雄 | Yasuo Kitajima |
| 准教授： | 市来善郎 | Yoshiro Ichiki |
| 講師： | 神谷秀喜 | Hideki Kamiya |
| 講師： | 青山裕美 | Yumi Aoyama |
| 臨床講師： | 永井美貴 | Miki Nagai |
| 臨床講師： | 雄山瑞栄 | Zuiei Oyama |
| 臨床講師： | 岩田浩明 | Hiroaki Iwata |
| 臨床講師： | 周　円 | En Shu |
| 医員： | 太和田知里 | Chisato Tawada |
| 医員： | 松山かなこ | Kanako Matsuyama |
| 医員： | 平光裕子 | Yuuko Hiramitsu |
| 医員： | 藤掛真理子 | Mariko Fujikake |
| 医員： | 大橋優文 | Masafumi Ohhashi |
| 医員： | 守屋智枝 | Chie Moriya |

## 3. 研究成果の発表

著書（和文）

1) 北島康雄，西岡　清編．ケルスス禿瘡との鑑別が難しい例ー細菌・真菌感染症ー：皮膚科診療のコツと落とし穴，東京：中山書店；2006 年：48－49.
2) 北島康雄．滝川雅浩・渡辺晋一編．類天疱瘡ー水疱症ー：皮膚疾患最新の治療 2007-2008，東京：南江堂；2006 年：115－117.
3) 市來善郎，西岡　清編．SLE 外来診療での落とし穴ー病態変化を見逃さないためにー：皮膚科診療のコツと落とし穴，東京：中山書店；2006 年：29－31.
4) 神谷秀喜，清原祥夫・山崎直也編．陰股部：Visual Dermatologyー手術に役立つリンパ流アトラスー，東京：秀潤社；2006 年：148－149.
5) 神谷秀喜，片山一朗・土田哲也・橋本　隆・古江増隆・渡辺晋一編．物理化学的障害ー第 7 章ー：皮膚科学教科書，東京：文光堂；2006 年：281－295.
6) 青山裕美，西岡　清編．天疱瘡の落とし穴ー非典型例を見逃さないー：皮膚科診療のコツと落とし穴，東京：中山書店；2006 年：142－143.
7) 岩田浩明，清原祥夫・山崎直也編．背腰臀部：Visual Dermatologyー手術に役立つリンパ流アトラスー東京：秀潤社；2006 年 128－129.
8) 神谷秀喜他 16 名，科学的根拠に基づく皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン　第 1 版，東京：金原出版；2007 年
9) 青山裕美．落葉状天疱瘡：目で見るアレルギー性皮膚疾患，東京：南江堂；2007 年：267－275.
10) 市來善郎，山口　徹編．白癬，皮膚糸状菌症：今日の治療指針 2008 年版，東京：医学書院；2008 年：898.
11) 市來善郎，北島康雄．溝口昌子他編．皮膚のしくみ：皮膚の事典，東京：朝倉書店；2008 年：4－15.
12) 市來善郎，澤村治樹，北島康雄．太田利子他編．体表部感染症：微生物検査学，東京：近代出版；2008 年：269－279.
13) 岩田浩明．玉置邦彦総編．Primary dermal melanoma：最新皮膚科学体系，東京：中山書店；2008 年：205－210.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1) 北島康雄．水疱型先天性魚燐癬様紅皮症ー水疱を呈する先天性皮膚疾患，Visual Dermatology　2008 年；798－799.
2) 北島康雄，青山裕美．表皮の構造と機能，Visual Dermatology　2006 年；2 巻：56－63.
3) 青山裕美，北島康雄．真皮の構造と機能，Visual Dermatology　2006 年；2 巻：341－345.
4) 北島康雄．皮膚バリア機能とその制御：表皮構造の観点からー特集　皮膚バリア機能と皮膚を介する DDS の進歩－，Drug Delivery System　2007 年；22 巻：424－432.
5) 北島康雄．自己免疫性水疱症の治療と実際，日本皮膚科学会雑誌　2007 年；117 巻：2099－2101.
6) 北島康雄・瀧川雅浩・伊藤雅章・伊藤　隆．皮膚科専門医制度の問題と今後の方向性，日本皮膚科学会雑誌　2007 年；117 巻：2229－2235.
7) 北島康雄・青山裕美．自己免疫性水疱症，炎症と免疫　2007 年；5 巻：633－638.
8) 北島康雄．蕁麻疹・血管性浮腫の治療ガイドラインー日本皮膚科学会 2005 年版の私の解釈と使用ー，小児科臨床　2007 年；増刊 60 号：1437－1445.
9) 神谷秀喜．皮膚外科で何ができるかー植皮のこつー（教育講演抄録集），日本皮膚科学会雑誌　2007 年；117 巻：2206－2207.
10) 青山裕美，北島康雄．Structure and function of hair follicle, sebaceous gland, and sweat grand－毛包付属器系の構造と機能，Visual Dermatology　2007 年；3 巻：51－55.
11) 北島康雄．編集企画，水疱症の診断と治療，Monthly Book Derma：全日本病院出版会　2008 年；137 号：1－69.
12) 北島康雄，青山裕美．水疱症の診断と治療：自己免疫性水疱症－尋常性天疱瘡と落葉状天疱瘡の診断と治療－，Monthly Book Derma　2008 年；137 号：27－34.
13) 北島康雄．皮膚科医に必要な尋常性乾癬の知識－乾癬表皮病態の考え方：表皮ホメオスターシス乾癬シフトー，日本皮膚科学会雑誌　2008 年；118：2527－2530.
14) 北島康雄．医学教育における皮膚科学：皮膚科学の医学教育と診療における基盤拡大のために－岐阜大学での皮膚科チュートリアル教育とクリニカルクラークシップ皮膚科教育－，日本皮膚科学会雑誌　2008 年；118：3004－3005.
15) 北島康雄．水疱症と水疱のできる皮膚疾患，健康教室　2008 年；59 巻：77－80.
16) 神谷秀喜．皮膚悪性腫瘍ガイドライン：基底細胞癌の診療ガイドライン，Skin Cancer　2008 年；22 巻：233－238.
17) 神谷秀喜. 基底細胞癌, 日光角化症に 5-FU 外用は有用か－悪性腫瘍－, EBM 皮膚疾患の治療 2008-2009；253－256.
18) 神谷秀喜．乳房外 Paget 病の臨床的特長と切除範囲－皮膚悪性腫瘍：診療ガイドラインとトピックスー，医学のあゆみ　2008 年；226 巻：219－222.

19） 神谷秀喜，大原國章．59. Tumoral calcinosis－精選 Clonicolor ベスト 180－，皮膚科の臨床別冊　2008 年：116－117.
20） 神谷秀喜，大原國章．119. Blepharochalasis－精選 Clonicolor ベスト 180－，皮膚科の臨床別冊　2008 年：232－233.
21） 神谷秀喜．リンパ節郭清の有無で生存率に差なし－乳房外パジェット病－，Medical Tribune　2008 年；41 巻：21.
22） 青山裕美，北島康雄．水疱症の診断と治療：自己免疫性水疱症－妊娠性疱疹と新生児類天疱瘡の診断と治療－，Monthly Book Derma　2008 年；137 号：49－54.
23） 青山裕美，北島康雄，角化症診療マニュアル－水疱型先天性魚燐癬様紅色症－，Monthly Book Derma 2008 年；142 号：21－29.

総説（欧文）
1） Kitajima Y. New perspective of autoimmune bullous diseases：Molecular cell biology of blistering mechanisms and logical treatment. Dermatologica Sinica. 2008;26:52-64.
2） Kitajima Y. Desmoglein 3 as a crucial component for investigating the regulation of desmosome remodelling. J Stomatol Invest. 2008;1:3-5.

原著（和文）
1） 市來善郎．痒みを伴う皮膚疾患，岐阜県医師会医学雑誌　2006 年；19 巻：47－50.
2） 神谷秀喜，岩田浩明，北島康雄，師井洋一．乳房外 Paget 病グループスタディ 2005 年度報告，日本皮膚外科学会誌　2006 年；10 巻：24－27.
3） 青山裕美，小田真喜子，周　円，水谷陽子，北島康雄．全身性形質細胞増多症の 1 例，皮膚科の臨床　2006 年；48 巻：691－696.
4） 永井美貴，青山裕美．天疱瘡と水疱性類天疱瘡の診断における ELISA 法，医学のあゆみ　2006 年；218 巻：937－940.
5） 岩田浩明，加藤優佳，雄山瑞栄，市来善郎，北島康雄．急速に進行した高齢発症の菌状息肉症の 1 例，皮膚科の臨床　2006 年；48 巻：581－584.
6） 杉野佳奈，雄山瑞栄，神谷秀喜，市来善郎，高木　肇，北島康雄，大野　康．治療経過中に肺アスペルギルス症を合併した皮膚筋炎の 1 例，皮膚科の臨床　2006 年；48 巻：877－881.
7） 杉野佳奈，神谷秀喜，北島康雄，坂　昌範．高齢者に発症した malignant trichilemmoma の 2 例，皮膚科の臨床　2006 年；48 巻：1641－1645.
8） 浅川絵理，神谷秀喜，周　円，江崎智香子，市来善郎，高木　肇，北島康雄，藤広満智子．会陰部および両腋窩に病変を認めた Triple Paget 病の 1 例，皮膚科の臨床　2006 年；48 巻：437－440.
9） 坂　義経，清水英樹，神谷秀喜，市来善郎，北島康雄．組織学的に多数の balloon cell を認めた Superficial Spreading Melanoma(SSM)の 1 例，皮膚科の臨床(ミニレポート)　2006 年；48 巻：598－599.
10） 坂　義経，神谷秀喜，北島康雄．広範囲の逆行性皮膚転移を来した eccrine porocarcinoma(EPC)の 1 例，Skin Cancer 2006 年；21 巻：81－84.
11） 市来善郎．膠原病外来，皮膚科の臨床　2007 年；49 巻：999－1000.
12） 神谷秀喜，岩田浩明，北島康雄，師井洋一．乳房外 Paget 病グループスタディ－2006 年度報告，日本皮膚外科学会誌　2007 年；11 巻：18－21.
13） 神谷秀喜，日置加奈，北島康雄．悪性黒色腫ー特集：臍部の皮膚病ー，皮膚病診療　2007 年；29 巻：833－836.
14） 斎田俊明，幸野　健，真鍋　求，土田哲也，山本明史，山崎直也，清原祥夫，竹之内辰也，八田尚人，神谷秀喜，清原隆宏，師井洋一，鹿間直人，高田　実，宇原　久，古賀弘志．日本皮膚科学会ガイドライン・皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン，日本膚科学会雑誌　2007 年；117 巻：1855－1925.
15） 岩田浩明，小嶋三佳，浅川絵理，市来善郎，北島康雄．紅皮症をきたした皮膚筋炎の 1 例，皮膚科の臨床 2007 年；49 巻：165－169.
16） 岩田浩明，神谷秀喜，市来善郎，北島康雄．当科におけるマイボーム腺癌のまとめ，皮膚科の臨床　2007 年；49 巻：567－570.
17） 浅井かなこ，岩田浩明，神谷秀喜，北島康雄．遠隔転移を来した破壊型基底細胞癌の 1 例，Skin Cancer 2007 年；22 巻：57－61.
18） 鈴木智子，岩田浩明，雄山瑞栄，神谷秀喜，市来善郎，北島康雄．血管肉腫の 2 例と当科における治療の変遷，Skin Cancer　2007 年；22 巻：130－135.
19） 飴野　彩，浅井かなこ，岩田浩明，神谷秀喜，市来善郎，北島康雄．23 年後に肺転移を来した ultra-late recurrence と考えた悪性黒色腫の 1 例，皮膚科の臨床　2007 年；49 巻：633－636.
20） 神谷秀喜，岩田浩明，北島康雄，師井洋一．乳房外 Paget 病グループスタディ-2007 年度報告，日本皮膚外科学会誌　2008 年；12 巻：140－143.
21） 飴野　彩，市川裕子，青山裕美，北島康雄，河内隆弘，山田俊樹，森脇久隆．B 細胞リンパ腫に伴った腫瘍随伴性天疱瘡の 1 例，皮膚科の臨床　2008 年；50 巻：31－34.
22） 飴野　彩，市川裕子，青山裕美，北島康雄，原　武志，森脇久隆．Narrow-Band UVB 療法による治療で一時的な効果を得られた成人 T 細胞白血病/リンパ腫の 1 例，皮膚科の臨床　2008 年；50 巻：133－136.
23） 佐藤三佳，青山裕美，北島康雄．サリチル酸グリコールおよび 1-メントールによる点状紫斑を伴った接触性皮膚炎の 1 例，皮膚科の臨床　2008 年；50 巻：727－731.

24) 浅井かなこ，日置加奈，林　美穂，米田和史，青山裕美，北島康雄．後天性表皮水疱症の 1 例，皮膚科の臨床　2008 年；50 巻：1613－1616.
25) 池田志孝，黒沢美智子，山本明美，玉井克人，米田耕造，青山裕美，北島康雄（日本皮膚科学会ガイドライン作成委員会）．日本皮膚科学会診療ガイドライン－水疱型先天性魚燐癬様紅色症，日本皮膚科学会雑誌 2008 年；118 巻：343－346.
26) 浅川絵理，荒木麻里，永井美貴，神谷秀喜，北島康雄，坂　昌範．上腕に生じた皮下型メルケル細胞癌の 1 例，皮膚科の臨床　2008 年；50 巻：405－408.
27) 岩田浩明，佐藤三佳，青山裕美，市来善郎，北島康雄．BCG 接種部位に皮膚潰瘍を生じた 1 例，皮膚科の臨床　2008 年；50 巻：420－421.
28) 岩田浩明，青山裕美，神谷秀喜，市来善郎，北島康雄．当科における口唇癌（有棘細胞癌）のまとめ，皮膚科の臨床　2008 年；50 巻：1139－1142.

原著（欧文）

1) Amagai M, Ahmed AR, Kitajima Y, Bystryn JC, Milner Y, Gniadecki R, Hertl M, Pincelli C, Kurzen H, Fridkis-Hareli M, Aoyama Y, Frusic-Zlotkin M, Muller E, David M, Mimouni D, Vind-Kezunovic D, Michel B, Mahoney M, Grando S. Are desmoglein autoantibodies essential for the immunopathogenesis of pemphigus vulgaris, or just “witnesses of disease” ?. Exp Dermatol. 2006;15:815-831. IF 2.951
2) Kamiya H, Kitajima Y, Ban M. Bowen’s disease with invasive adnexal carcinoma: the pluripotential nature of Bowen’s disease cells. J Dermatol. 2006;33:858-864. IF 0.694
3) Kawasaki Y, Aoyama Y, Tsunoda K, Amagai M, Kitajima Y. Pathogenic monoclonal antibody against desmoglein3 augments desmoglein 3 and p38 MARK phosphorylation in human squamous carcinoma cell line. Autoimmunity. 2006;39:587-590. IF 2.887
4) Tosaki H, Kunisada T, Motohashi T, Aoki H, Yoshida H, Kitajima Y. Mice transgenic for kit$^{V620A}$: recapitulation of piebaldism but not progressive depigmentation seen in humans with this mutation. J Invest Dermatol. 2006;126:1111-1118. IF 4.829
5) Chernyavsky AI, Arredondo J, Kitajima Y, Sato-Nagai M, Grando SA. Desmoglein vs non-desmoglein signailing in pemphigus acantholysis: characterization of novel signaling pathways downstream of pemphigus vulgaris antigens. J Biol Chem. 2007;282:13804-11382. IF 5.581
6) Kitajima Y, Aoyama Y. A perspective of pemphigus from bedside and laboratory-bench. Clin Rev Allerg Immu. 2007;33:57-66. IF 2.077
7) Ichiki Y, Kitajima Y. Thrombotic thrombocytopenic purpura associated with systemic lupus erythematosus. EurJDermatol. 2007;17:548-549. IF 1.294
8) Aoyama Y, Asai K, Hioki K, Funato M, Kondo N, Kitajima Y. Herpes gestationis in a mother and newborn: immunoclinical perspectives based on a weekly follow-up the enzyme-linked immunosorbent assay index of a bullous pemphigoid antigen noncollageous domain. Arch Dermatol. 2007;143:1168-1172. IF 2.845
9) Suzuki N, Suzuki T, Inagaki K, Ito S, Kono M, Horikawa T, Fujiwara S, Ishiko A, Matsunaga K, Aoyama Y, Tosaki-Ichikawa H, Tomita Y. Ten novel mutations of the *ADARI* gene in Japanese patients with dyschromatosis symmetrica hereditaria. J Invest Dermatol. 2007;127:309-311. IF 4.829
10) Iwata H, Aoyama Y, Esaki C, Kitajima Y. Cicatricial pemphigoid with prominent alopecia. Eur J Dermatol. 2007;17:338-339. IF 1.294
11) Shu E, Yamamoto Y, Aoyama Y, Kitajima Y. Intraperitoneal injection of pemphigus vulgaris-IgG into mouse depletes epidermal keratinocytes of desmoglein 3 associated with generation of acantholysis. Arch Dermatol Res. 2007;299:165-167. IF 1.596
12) Yamamoto Y, Aoyama Y, Shu E, Tsunoda K, Amagai M, Kitajima Y. Anti-desmoglein3(Dsg3) monoclonal antibodies deplete desmosomes of Dsg3 and differ in their Dsg3-depleting activities related to pathogenicity. J Biol Chem. 2007;282:17866-17876. IF 5.581
13) Yamamoto Y, Aoyama Y, Shu E, Tsunoda Y, Amagai M, Kitajima Y. No activation of urokinase plasminogen activator by anti-desmoglein 3 monoclonal IgG antibodies in cultured human keratinocytes. J Dermatol Sci. 2007;47:119-125. IF 2.500
14) Ichiki Y, Kato Y, Kitajima Y. Assessment of burn area: most objective method. Burns. 2008;34:425-426. IF 1.220
15) Ichiki Y, Kitajima Y. Ulcerative sarcoidosis; case report and review of Japanese literature. Acta Derm Venereol. 2008;88:526-528. IF 1.927
16) Ichiki Y, Kitajima Y. Successful treatment of scleroderma-related cutaneous ulcer with suction blister grafting. Rheumatol Int. 2008;28:299-301. IF 1.270
17) Kato Y, Ichiki Y, Kitajima Y. A case of systemic lupus erythematosus presenting as hypoglycemia due to anti-insulin receptor antibodies Rheumatol Int. 2008;29:103-105. IF 1.270
18) Aoyama Y, Nagasawa C, Nagai M, Kitajima Y. Severe pemphigus vulgaris: successful combination therapy of plasmapheresis followed by intravenous high-dose immunoglobulin to prevent rebound increase in pathogenic IgG. Eur J Dermatol. 2008;18:557-560. IF 1.294
19) Kanno M, Aoyama Y. Yamoto Y, Kitajima Y. p120 catenin is associated with desmogleins when desmosomes are assembled in high-$Ca^{2+}$ medium but not when disassembled in low- $Ca^{2+}$medium in

DJM-1 cells. J Dermatol. 2008;35:317-324. IF 0.694

20) Kanno M, Isa Y, Aoyama Y, Yamamoto Y, Nagai M, Ozawa M, Kitajima Y. p120-catenin is a novel desmoglein 3 interacting partner: identification of p120-catenin association site of desmoglein 3. Exp Cell Res. 2008;314:1683-1692. IF 3.695

## 4. 研究費獲得状況

### 1）競争的資金

1) 研究代表者：北島康雄，研究分担者：市来善郎，青山裕美；文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)：表皮細胞間接着・細胞骨格分子間結合制御と各種水疱症発症機序の分子生物学的研究；平成 16－18 年度；14,500 千円(10,100：2,300：2,100 千円)
2) 研究代表者：北島康雄，研究分担者：橋本　隆，天谷雅行，岩月啓氏，許　南浩，小宮根真弓，清水　宏，橋本公二，金田安史，池田志孝，山本明美，黒沢美智子，小澤　明，島田眞路，照井　正，新関寛徳，玉井克人，米田構造，青山裕美；厚生労働省科学研究費補助金特定疾患対策研究事業：稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究；平成 17－19 年度；154,700 千円(39,000：57,200：58,500 千円)
3) 研究代表者：斎田俊明，研究分担者：北島康雄；厚生労働省がん研究助成金：悪性黒色腫の治療；平成 18 年度；200 千円
4) 研究代表者：市来善郎，研究分担者：高木　肇；文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(2)：遊走性環状紅斑隋伴性先天性表皮水疱症をモデルとしたケラチン病の分子生物学的解析；平成 17－18 年度；3,600 千円(3,000：600 千円)
5) 研究代表者：青山裕美；文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(2)：天疱瘡における病原性シグナル伝達経路の検討；平成 17－18 年度；3,700 千円(3,200：500 千円)
6) 研究代表者：青山裕美；岐阜大学医学部長裁量経費；平成 18 年度；200 千円
7) 研究代表者：青山裕美；岐阜大学病院長裁量経費：患者血清中の抗 BP180 抗体の測定，自己抗体の抗原決定；平成 18 年度；2,100 千円
8) 研究代表者：北島康雄，研究協力者：青山裕美；厚生労働省科学研究費補助金特定疾患対策研究事業：稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究；平成 18 年度；1,000 千円
9) 研究代表者：永井美貴；岐阜大学医学部長裁量経費；平成 18 年度；200 千円
10) 研究代表者：岩田浩明；文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)：乳房外パジェット病と表皮内癌の浸潤・転移獲得機序の MIA 発現と機能から見た解析；平成 18－19 年度；3,600 千円(3,100：500 千円)
11) 研究代表者：山崎直也，研究分担者：北島康雄；厚生労働省がん研究助成金：悪性黒色腫の治療；平成 19 年度；200 千円
12) 研究代表者：青山裕美；文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)(2)：天疱瘡抗体によるデスモグレイン 3 結合型 p120ctn 関連シグナル伝達機構の解析；平成 19－20 年度；3,700 千円(3,200：500 千円)
13) 研究代表者：北島康雄，研究協力者：青山裕美；厚生労働省科学研究費補助金特定疾患対策研究事業：稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究；平成 19 年度；1,500 千円
14) 研究代表者：青山裕美；岐阜大学医学部長裁量経費；平成 19 年度；500 千円
15) 研究代表者：青山裕美；岐阜大学病院長裁量経費：患者血清中の抗 BP180 抗体の測定，自己抗体の抗原決定；平成 19 年度；2,100 千円
16) 研究代表者：山崎直也，研究分担者：北島康雄；厚生労働省がん研究助成金：悪性黒色腫の治療；平成 20 年度；200 千円
17) 研究代表者：岩月啓氏，班員：青山裕美；厚生労働省科学研究費補助金特定疾患対策研究事業：稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究；平成 20 年度；2,000 千円
18) 研究代表者：青山裕美；岐阜大学病院長裁量経費：稀少難治性皮膚疾患（自己免疫性水疱症・先天性魚鱗癬様紅皮症・先天性表皮接着分子異常症）の分子学的診断；平成 20 年度；2,000 千円
19) 研究代表者：岩田浩明；岐阜大学医学部長裁量経費：水疱性類天疱瘡の水疱形成機序解明の実験；平成 20 年度；500 千円

### 2）受託研究

なし

### 3）共同研究

なし

## 5. 発明・特許出願状況

なし

## 6. 学会活動

### 1）学会役員

北島康雄：

1） 日本皮膚科学会理事・副理事長(～平成 18 年 4 月)
2） 日本皮膚科学会中部支部長(～平成 19 年 3 月)
3） 日本医学会評議員(～現在)
4） 日本乾癬学会理事(～現在)
5） 韓国研究皮膚科学会名誉会員(～現在)
6） 日本医真菌学会理事(～現在)
7） 日本悪性腫瘍学会理事(～現在)
8） 日本研究皮膚科学会評議員(～現在)
9） 日本結合織学会評議員(～現在)
10） 日本電顕皮膚生物学会運営委員(～現在)
11） 角化症研究会理事，水疱症研究会会長・世話人幹事(～現在)

市來善郎：

1） 日本臨床皮膚科医会東海北陸支部運営委員(～現在)

神谷秀喜：

1） 第 24 回日本皮膚悪性腫瘍学会事務局長(～平成 20 年 7 月)
2） 日本皮膚外科学会評議員(～現在)
3） 日本皮膚悪性腫瘍学会評議員(～現在)
4） 日本皮膚科学会・皮膚悪性腫瘍指導専門医委員(～現在)
5） 乳房外 Paget 病研究会世話人(～現在)

青山裕美：

1） Post IID 5th Joint Meeting of SSSR & SCUR, and International Meeting on Autoimmune Bullous Disease 2008 事務局長(～平成 20 年 5 月)
2） 日本研究皮膚科学会評議員(～現在)
3） 日本皮膚科学会東海地方会評議員(～現在)
4） 水疱症研究会事務局(～現在)

### 2）学会開催

北島康雄：

1） 第 235 回日本皮膚科学会東海地方会(平成 18 年 3 月，名古屋)
2） 第 237 回日本皮膚科学会東海地方会(平成 18 年 9 月，名古屋)
3） 第 51 回日本医真菌学会総会(平成 19 年 11 月，高山)
4） SSSR & SCUR Joint Meeting2008 as a post IID 2008(平成 20 年 5 月，大津)
5） Post IID Autoimmune Bullous Disease 2008(平成 20 年 5 月，大津)
6） 第 24 回日本皮膚悪性腫瘍学会総会(平成 20 年 7 月，岐阜)
7） 第 246 回日本皮膚科学会東海地方会(平成 20 年 12 月，名古屋)

### 3）学術雑誌

北島康雄：

1） 日本皮膚科学会雑誌；編集委員(～平成 19 年 3 月)
2） Journal of Dermatology；Editor(～現在)

神谷秀喜：

1） 日本皮膚科学会・皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン作成委員(～平成 20 年 3 月)

青山裕美：

1） Journal of Dermatology；Section Editor, Faculty of 1000 Medicine(～現在)

## 7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

北島康雄：

1） 第 69 回日本皮膚科学会東京支部学会(平成 18 年 2 月，東京，特別セッション「皮膚科教育・研修の現状と将来」演者)
2） 第 31 回日本研究皮膚科学会(平成 18 年 5 月, 京都, Concurrent Oral Session「Carcinogenesis, Gene Expression, Transaction Regulation」座長)
3） 第 105 回日本皮膚科学会総会(平成 18 年 6 月，京都，教育講演 5「水疱症：最近の進歩」座長)
4） 33rd Annual Meeting of the Society for Cutaneous Ultrastructurrer Research(2006 年 6 月，Warszawa, Porland，特別講演「Blistering mechanisms of pemphigus vulgaris: biochemical and ultrastractual studies」演者)
5） 皮膚基礎研究所クラスターフォーラム(平成 18 年 7 月，東京，特別講演「表皮ケラチノサイト細胞間接着の機構」演者)
6） 第 21 回角化症研究会(平成 18 年 8 月，東京，特別講演「表皮層板顆粒をめぐる最近の知見」座長)
7） 日本皮膚科学会第 338 回福岡地方会(平成 18 年 9 月，八幡，特別講演「天疱瘡の発症機序と治療の実際：血漿交換，ステロイドパルス，免疫抑制剤」演者)
8） 第 56 回日本皮膚科学会中部支部学会(平成 18 年 10 月，名古屋，教育講演「類天疱瘡とその類症の病態と治療」座長)
9） 第 70 回学会日本皮膚科学会東京支部学術集会(平成 19 年 2 月，東京，特別講演「病院から見た皮膚科の医療経済学：現状と対策－岐阜大学病院を例にして」演者)
10） 第 106 回日本皮膚科学会総会(平成 19 年 4 月，横浜，教育講演「自己免疫水疱症の治療の実際：水疱症の基礎知識」演者)
11） 第 106 回日本皮膚科学会総会(平成 19 年 4 月，横浜，教育講演「皮膚科専門医制度の問題と今後の方向性」座長)
12） 第 58 回日本皮膚科学会中部支部学術大会(平成 19 年 10 月，京都，教育講演「ダーモスコピー診断演習」座長)
13） 33rd Annual Meeting of the Taiwanese Dermatological ssociation(2007 年 11 月，Taipei,Taiwan，Professor Lu Yau-Chin Memorial Lectureship 受賞講演「A new perspective of autoimmune bullous diseases: molecular cell biology of blistering mechanisms and logical treatments」演者)
14） 第 71 回日本皮膚科学会東京支部学会(平成 20 年 2 月，東京，シンポジウム 5「医療経済と医療経理の違いについて－患者のための医療経済と医療経営の違い」演者)
15） 第 90 回日本皮膚科学会静岡地方会(平成 20 年 2 月, 浜松, 特別講演「天疱瘡の水疱形成機序と治療：天疱瘡はデスモソームリモデリング病の視点から」演者)
16） 第 60 回日本皮膚科学会山梨地方会(平成 20 年 4 月，甲府，特別講演 1.「天疱瘡と類天疱瘡はデスモソーム・ヘミデスモソームリモデリング病」2.「医療経済と医療運営：病院と皮膚科－岐阜大学病院長経験から学んだこと」演者)
17） 第 60 回日本皮膚科学会山梨地方会(平成 20 年 4 月，甲府，特別講演 2.「医療経済と医療運営：病院と皮膚科－岐阜大学病院長経験から学んだこと」演者)
18） 第 107 回日本皮膚科学会総会(平成 20 年 4 月，京都，教育講演 1-1「乾癬表皮病態の考え方：表皮ホメオスターシス乾癬シフト」演者)
19） 第 107 回日本皮膚科学会総会(平成 20 年 4 月，京都，教育講演 40「医学教育における皮膚科学：皮膚科学の医学教育と診療における基礎拡大のために」座長)
20） 第 107 回日本皮膚科学会総会(平成 20 年 4 月，京都，教育講演 40-2「卒後教育：岐阜大学でのチュートリアルとクリニカルクラークショップ皮膚科教育」演者)
21） 皮膚基礎研究クラスターフォーラム(平成 20 年 7 月，東京，特別講演「表皮細胞の角化と皮膚疾患」座長)
22） 第 23 回日本乾癬学会(平成 20 年 9 月，旭川，シンポジウム「乾癬の研究と治療の展開」座長)
23） 第 18 回日本口腔粘膜学会(平成 20 年 9 月，東京，特別講演「ケラチノサイトのデスモソームリモデリング障害による上皮疾患：水疱症・角化異常症・分化異常症」演者)
24） 第 72 回日本皮膚科学会東部支部学会(平成 20 年 9 月, 秋田, スポンサードシンポジウム 8「水虫（足白癬)診断・治療法の極意：真菌感染症」演者)

25） 第 59 回日本皮膚科学会中部支部学会(平成 20 年 10 月，名古屋，教育講演 8「尋常性乾癬の病態と治療：新しい概念と新規の治療法」座長)
26） 天疱瘡 Forum(平成 20 年 10 月，横浜，特別講演「天疱瘡の病因と治療」演者)

神谷秀喜：
1） 第 106 回日本皮膚科学会総会(平成 19 年 4 月，横浜，教育講演「植皮のこつ：皮膚外科で何ができるか」演者)
2） 第 23 回日本皮膚悪性腫瘍学会(平成 19 年 5 月，新潟，シンポジウム「基底細胞癌の診療ガイドライン：皮膚悪性腫瘍ガイドライン」演者)
3） 第 24 回日本皮膚悪性腫瘍学会(平成 20 年 7 月，岐阜，シンポジウムⅡ「乳房外 Paget 病の病期分類の定着と進行例に対する治療方針の検討」オーガナイザー)
4） 第 24 回日本皮膚悪性腫瘍学会(平成 20 年 7 月，岐阜，ランチョンセミナー「がん性疼痛とその対策」座長)
5） 第 59 回日本皮膚科学会中部支部学術大会(平成 20 年 10 月，名古屋，シンポジウム I「悪性黒色腫：臨床の最前線」オーガナイザー)

青山裕美：
1） 第 31 回日本研究皮膚科学会(平成 18 年 5 月，京都，Concurrent Oral Session「Bullous Disease, Regeneration, Extracellular Matrix」座長)
2） 第 106 回日本皮膚科学会総会(平成 19 年 4 月，横浜，教育講演「天疱瘡の病態 UP-TO-DATE：水疱症の最先端」演者)
3） 第 71 回日本皮膚科学会東京支部総会(平成 20 年 2 月，東京，教育講演「自己免疫性水疱症：自己抗体の抗原の同定と抗体価をモニタリングした治療の実際例」演者)
4） Post IID 2008 Satellite International Meeting on Autoimmune Bullous Disease(2008 年 5 月，大津，シンポジウム「p120-catenin, a possible new intracellular signal mediator in pemphigus-acantholysis」演者)
5） 平成 20 年度日本皮膚科学会東海地方会(平成 20 年 12 月，名古屋，生涯教育講演「天疱瘡の病因の最新の知見と自己免疫性水疱症の診断法：ELISA 法で陰性の時にこう考える」演者)

永井美貴：
1） 第 106 回日本皮膚科学会総会(平成 19 年 4 月，横浜，教育講演「電顕がなくても見られる電顕写真：病理標本を準備するためのコツ」演者)
2） 第 107 回日本皮膚科学会総会(平成 20 年 4 月，京都，教育講演「電顕がなくても見られる電顕写真」演者)

## 8. 学術賞等の受賞状況
1） 北島康雄：第 21 回安田・阪本記念賞(平成 19 年度)
2） 北島康雄：Prof. Lu Yau-Chin Memorial Lectureship(平成 19 年度)

## 9. 社会活動
北島康雄：
1） 岐阜県保健医療推進協議会委員及び医療計画部会委員(～平成 18 年 3 月)
2） 岐阜県医療対策協議会委員(～平成 18 年 3 月)
3） 中部原子力懇談会役員(～平成 18 年 3 月)
4） 岐阜県医療アクセス専門委員(～平成 18 年 3 月)
5） 岐阜県情報システム専門委員(～平成 18 年 3 月)
6） 厚生労働省難病対策研究班・稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究班班長(～平成 20 年 3 月)
7） 厚生労働省特定疾患対策懇談会委員(～現在)
8） 公益信託稲原記念医・歯学留学生援助基金運営委員(～現在)
9） 岐阜市民病院改築基本計画重点項目検討委員会委員(～現在)
10） JICA 第三国集団研修短期個別専門家派遣員(～現在)
11） A Chair Professor, Kaohsiung Medical University(Taiwan)(平成 20 年 7 月～現在)

市來善郎：
1） 岐阜県特定疾患等対策協議会委員(～現在)

青山裕美：
1） 厚生労働省難病対策研究班・稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究班研究協力者および事務局(～平成 20 年 3 月)
2） 厚生労働省難病対策研究班・稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究班班員(～現在)

## 10. 報告書

1） 北島康雄：稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究班 総括研究報告書：平成 18 年度厚生科学研究費補助金　総括・分担報告書（北島班）：3－13(2006 年 3 月)
2） 北島康雄，山本ゆかり，青山裕美：天疱瘡抗体，抗デスモグレイン(Dsg)3 モノクローナル抗体刺激による DJM-1 細胞における Dsg3 分子の減少率と細胞間結合力の減弱：平成 18 年度厚生科学研究費補助金　総括・分担報告書（北島班）：15－19(2006 年 3 月)
3） 北島康雄：表皮細胞間接着・細胞骨格分子間結合制御と各種水疱症機序の分子生物学的研究：平成 16 年度－18 年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書：1－79(2006 年 3 月)
4） 斎田俊明，幸野　健，真鍋　求，土田哲也，山本明史，山崎直也，清原祥夫，竹之内辰也，八田尚人，神谷秀喜，清原隆宏，師井洋一，鹿間直人，高田　実，宇原　久，古賀弘志：皮膚悪性腫瘍診療ガイドラインの作成と Web 化に関する研究：平成 17 年度厚生科学研究費補助金　分担研究報告書（斎田班）：242－248(2006 年 1 月)
5） 青山裕美，北島康雄，河崎優希，天谷雅行，角田和之：天疱瘡抗体，抗デスモグレイン 3 モノクローナル抗体による細胞内シグナル伝達経路の解析：平成 18 年度厚生科学研究費補助金　総括・分担報告書（北島班）：67－71(2006 年 3 月)
6） 北島康雄：稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究：平成 18 年度厚生科学研究費補助金　総括研究報告書（北島班）：3－13(2007 年 3 月)
7） 北島康雄，山本ゆかり，青山裕美，天谷雅行，角田和之：各種 Dsg3 モノクローナル抗体混合刺激によるケラチノサイトにおける Dsg3 分子の減少率と細胞間接着力減少(Dissociation assay)：平成 18 年度厚生科学研究費補助金総括・分担研究報告書（北島班）：15－23(2007 年 3 月)
8） 北島康雄：表皮細胞間接着・細胞骨格分子間結合制御と各種水疱症機序の分子生物学的研究：平成 16 年度－18 年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書：1－79(2007 年 3 月)
9） 斎田俊明，幸野　健，真鍋　求，土田哲也，山本明史，山崎直也，清原祥夫，竹之内辰也，八田尚人，神谷秀喜，清原隆宏，師井洋一，鹿間直人，高田　実，宇原　久，古賀弘志：皮膚悪性腫瘍診療ガイドラインの作成と Web 化に関する研究：平成 17 年度－18 年度厚生科学研究費補助金　総合研究報告書（斎田班）：1141－1695(2007 年 3 月)
10） 青山裕美，北島康雄，河崎優希：抗デスモグレイン 3 モノクローナル抗体による細胞内シグナル伝達機構の検討：平成 18 年度厚生科学研究費補助金総括研究報告書（北島班）：71－75(2007 年 3 月)
11） 北島康雄：稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究：平成 17 年度－19 年度厚生科学研究費補助金　総合研究報告書（北島班）：1－77(2008 年 3 月)
12） 北島康雄：稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究：平成 19 年度厚生科学研究費補助金　総括研究報告書（北島班）：3－12(2008 年 3 月)
13） 北島康雄，青山裕美，山本ゆかり，神尾尚子：尋常性天疱瘡はデスモソームリモデリング病という視点からの水疱形成機序の解明：平成 19 年度厚生科学研究費補助金　総括・分担報告書（北島班）：31－39(2008 年 3 月)
14） 金田安史，玉井克人，知野剛直，北島康雄：表皮水疱症に対する遺伝子治療の開発：平成 19 年度厚生科学研究費補助金　総括・分担報告書（北島班）：128－130(2008 年 3 月)
15） 金田安史，玉井克人，知野剛直，北島康雄：表皮水疱症に対する細胞療法の可能性の検討：平成 19 年度厚生科学研究費補助金　総括・分担報告書（北島班）：131－132(2008 年 3 月)
16） 玉井克人，金田安史，知野剛直，北島康雄：骨髄細胞による表皮再生機序解明と表皮水疱症治療への応用：平成 19 年度厚生科学研究費補助金　総括・分担報告書（北島班）：133－136(2008 年 3 月)
17） 青山裕美，北島康雄，伊佐保香：病原性抗デスモグレイン 3 モノクローナル抗体によるデスモグレインの分解の検討：平成 19 年度厚生科学研究費補助金　総括・分担報告書（北島班）：88－92(2008 年 3 月)
18） 照井　正，横山　愛，原　弘之，槇島　誠，青山裕美：膿疱性乾癬の病因と治療－資質代謝に関す

る解析－：平成 19 年度厚生科学研究費補助金　総括・分担報告書（北島班）：99－105(2008 年 3 月)
19）天谷雅行，谷川瑛子，清水智子，橋本　隆，池田志斐，新関寛徳，黒沢美智子，青山裕美，北島康雄：天疱瘡の診断と治療ガイドライン：平成 19 年度厚生科学研究費補助金報告書（北島班）別添資料 1：1－14(2008 年 3 月)
20）橋本　隆，濱田尚宏，池田志斐，天谷雅行，新関寛徳，黒沢美智子，青山裕美，北島康雄：水疱症類天疱瘡ガイドライン：平成 19 年度厚生科学研究費補助金報告書（北島班）別添資料 1：15－34(2008 年 3 月)
21）岩田啓氏，照井　正，小澤　明，小宮根真弓，梅澤慶紀，中西　元，原　弘之，馬渕智生，青山裕美，北島康雄：膿疱性乾癬（汎発型）診療ガイドライン：平成 19 年度厚生科学研究費補助金報告書（北島班）別添資料 1：35－92(2008 年 3 月)
22）清水　宏，橋本公二，玉井克人，黒沢美智子，青山裕美，北島康雄：表皮水疱症診断と治療のガイドライン：平成 19 年度厚生科学研究費補助金報告書（北島班）別添資料 1：93－103(2008 年 3 月)

## 11. 報道

なし

## 12. 自己評価

評価

1）文部科学省科学研究費補助金は継続を含め 5 件（基盤 B1 件，C3 件，若手 B1 件）金額は 1050 円であった。

2）厚生労働省科学研究費補助金は稀少難治性皮膚疾患の班長をしていたため平成 17 年から 19 年に総額 1 億 5470 万円，18 年から 19 年だけでも 1 億 1570 万円を獲得した。その他いくつかの競争的研究費を計 1270 万円得ている。これは我々の教室の研究費をこの分野で獲得できるレベルであったことを示している。

3）論文発表数については，英文国際誌は一期前 3 年間（平成 15 年～17 年）の 20 報から 22 報に増加した。日本語論文や症例報告は 48 報から 64 報に増加しているので研究成果も充分に挙げていることを示している。

4）厚生労働省科学研究費補助金稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究班班長として2 期目3 年間の継続予算を交付される成績を挙げたので一定の評価と考えられる。

5）北島教授が国際研究皮膚科学会サテライトシンポジウム『Post IID 5th Joint Meeting of SSSR and SCUR, and International Meeting on Autoimmune Bullous Disease 2008』の会長を務め，学会を主宰したことは評価される。

6）北島教授が第 51 回日本医真菌学会総会（平成 19 年 11 月，高山）の会長を務め，学会を主宰したことは評価される。

7）北島教授が第 24 回日本皮膚悪性腫瘍学会総会（平成 20 年 7 月，岐阜）の会長を務め，学会を主宰したことは評価される。

現状の問題点及びその対応策

法人化後は臨床への時間配分と精神的配分が多くなり，研究実行の環境は悪化した。これについては対策が必要である。

卒後臨床研修必修化により 3 年目の皮膚科未経験者が入局することになり指導的医師の数が減少した。後期研修を院外と協力して教育する必要がある。

今後の展望

岐阜大学医学部は大学院化されたため，今まで以上に研究実績を上げる必要がある。かつ法人化された病院では医療収益の増収とともに高度先進医療の開発，医学部生，研修医，医員の教育を行なう必要がある。今後はこれらに特化した目的を設定する必要がある。

## （6）泌尿器科学分野

### 1. 研究の概要

1）尿路生殖器腫瘍の治療と予後に関する基礎的・臨床的研究

①抗癌剤感受性，抗癌剤耐性因子に関する研究

臨床材料を用いて，ATP 活性を用いた抗癌剤感受性試験成績と，耐性遺伝子発現量との関連を研究している。

②尿路生殖器癌の予後予測因子に関する病理学的研究

癌組織における特定の遺伝子，若しくは遺伝子産物の発現の，予後予測因子としての可能性を研究し，個々の症例での治療方針決定においてのその有用性を研究している。

③前立腺癌の抗癌剤耐性機序の基礎的研究

ホルモン療法耐性前立腺癌に対する抗癌剤治療の確立を目指し，培養細胞及び実験動物を用いた抗癌剤耐性に関連した遺伝子の同定と，その発現阻止についての基礎研究を行っている。

④前立腺癌治療に関する臨床的研究

日本における前立腺癌に対するヨウ素 125 密封小線源永久挿入療法に関する前向きコホート研究および限局性前立腺癌に対するホルモン療法の有効性に関する観察研究を行っている。

2）尿路感染症の基礎的・臨床的研究

①大規模調査による起因菌の臨床的研究

関連施設を含めて毎年複雑性尿路感染症の起因菌を収集し，また，臨床背景や臨床病状との関連を研究している。さらに 4 年毎に女子急性単純性膀胱炎の総合調査を継続中である。

②薬剤耐性菌の出現状況，耐性機序の解明

臨床例より得られた起因菌を用いて，突然変異などの遺伝子レベルでの薬剤耐性機序を研究している。また，抗菌剤の使用と遺伝子変異との関連も研究している。

③尿路感染症に対する薬物療法についての臨床的研究

関連病院と協力し尿路感染症に対する各種抗菌剤の有効性について検討を行っている。

3）男子尿道炎の基礎的・臨床的研究

①分子生物学的手法を用いた起炎菌の検出法の開発

現在までに解明されていない非淋菌性尿道炎の起炎菌の同定と，その診断法の開発，特に核酸増幅を用いた手法を研究している。

②薬剤耐性菌淋菌の疫学研究

関連施設を含めて年次的に臨床分離株を収集し，それらの抗菌剤感受性を測定し，年次的な変移を研究している。

③薬剤耐性菌淋菌の薬剤耐性機序の解明

薬剤耐性菌淋菌の内で経口セフェム剤耐性淋菌に着目し，その耐性機序を遺伝子レベルで研究している。

④男子尿道炎に対する薬物療法についての臨床的研究

関連病院と協力し男子尿道炎に対する各種抗菌剤の有効性について検討を行っている。

4）腎移植における臨床的研究

①免疫抑制剤の適正化

拒絶反応を防ぎ，日和見感染症を引き起こさない適正な免疫抑制剤の投与方法に関する臨床的研究を行っている。

②移植腎の病理学的研究

移植腎に対して定期的な生検を施行して，移植腎機能に及ぼす潜在的な拒絶反応，ウイルス感染を病理像から研究している。さらに，病理組織像から移植腎の長期生着を目指したテーラーメイドな免疫抑制療法を行っている。

5）鏡視下手術手技の開発研究

腹腔鏡下副腎摘出術，腹腔鏡下腎摘出術は，すでに標準術式となりつつあるが，県下で実施している施設は少ない。本手技を安全かつ確実に行うための手技および本術式を応用した新たな術式の開発，ならびに器具，器材の開発研究を行っている。

6）排尿障害分野における臨床的研究

①男性前立腺肥大症患者の下部尿路症状に対する薬剤の効果について，前立腺肥大症に伴う過活動膀胱症状，前立腺肥大症患者に合併する夜間頻尿，前立腺肥大症に対する治療抵抗性の不定愁訴に対する薬物療法を自覚的，他覚的に評価し，最適な投与方法を検討している。

②夜間頻尿の原因は多因子であり，下部尿路の異常以外にも全身的な問題が影響している。睡眠時無呼

吸症候群（SAS）もその原因の 1 つとされており，それを臨床的に証明するため SAS 疑いの患者に対し排尿パラメーターの評価を行い，SAS 治療後にも評価をし関連を調べている。

## 2. 名簿

| | | |
|---|---|---|
| 教授： | 出口　隆 | Takashi Deguchi |
| 准教授： | 江原英俊 | Hidetoshi Ehara |
| 講師： | 伊藤慎一 | Shin-ichi Ito |
| 講師： | 仲野正博 | Masahiro Nakano |
| 臨床講師： | 横井繁明 | Shigeaki Yokoi |
| 臨床講師： | 安田　満 | Mitsuru Yasuda |
| 臨床講師： | 南舘　謙 | Yuzuru Minamidate |
| 医員： | 山本直樹 | Naoki Yamamoto |
| 医員： | 三輪好生 | Kousei Miwa |
| 医員： | 土屋朋大 | Tomohiro Tsuchiya |
| 医員： | 増栄孝子 | Takako Masue |
| 医員： | 菊地美奈 | Mina Kikuchi |
| 医員： | 永井真吾 | Shingo Nagai |
| 医員： | 堀江憲吾 | Kengo Horie |

## 3. 研究成果の発表

著書（和文）

1) 出口　隆．包茎，亀頭包皮炎：山口　徹，北原光夫，福井次矢総編集．TODAY'S THERAPY 2006　今日の治療指針，東京：医学書院；2006 年：815.
2) 出口　隆，横井繁明，安田　満．膀胱炎（細菌性および非細菌性膀胱炎）：北岡建樹，飯野靖彦，五十嵐　隆，木村健二郎，堀江重郎編集．腎・尿路疾患の診療指針'06，東京：東京医学社；2006 年：403－405.
3) 出口　隆．尿路性器感染症　―抗菌薬使用ガイドラインに沿った抗菌薬の使い方―　はじめに：日本泌尿器科学会　2007 年　卒後・生涯教育テキスト，東京：日本泌尿器科学会；2007 年：69.
4) 出口　隆．尿路性器感染症　―抗菌薬使用ガイドラインに沿った抗菌薬の使い方―　性器感染症：日本泌尿器科学会　2007 年　卒後・生涯教育テキスト，東京：日本泌尿器科学会；2007 年：75－81.
5) 安田　満．尿路性器感染症　―抗菌薬使用ガイドラインに沿った抗菌薬の使い方―　尿路性器感染症：日本泌尿器科学会　2007 年　卒後・生涯教育テキスト，東京：日本泌尿器科学会；2007 年：70－74.
6) 出口　隆．山口　徹，北原光夫，福井次矢総編集．膀胱炎：TODAY'S THERAPY 2008　今日の治療指針，東京：医学書院；2008：834－835.
7) 出口　隆．土肥義胤，山本容正，宇賀昭二編．泌尿生殖器感染症：スタンダード　微生物学 第 2 版，東京：文光堂；2008 年：172－182.
8) 出口　隆，安田　満，前田真一．田中正利編集．マイコプラズマ：性感染症　STD 改訂 2 版，東京：南山堂；2008 年：179－186.
9) 出口　隆．マイコプラズマ：安元慎一郎編集．STD（性感染症）アトラス，東京：秀潤社；2008 年：133.
10) 出口　隆．ウレアプラズマ：安元慎一郎編集．STD（性感染症）アトラス，東京：秀潤社；2008 年：133.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1) 出口　隆．男子尿道炎の診断と治療の最近の話題，泌尿器科学の最近の進歩　2006 年；22 巻：1－5.
2) 高橋義人，横井繁明，亀井信吾，出口　隆．手術手技　尿路内視鏡手術　経尿道的膀胱結石摘出術　経皮的膀胱結石摘出術，臨床泌尿器科　2006 年；60 巻：361－367.
3) 出口　隆．前立腺疾患　新しい治療法を理解するために-前立腺炎　急性前立腺炎の診断と治療，Modern Physician　2006 年；26 巻：1007－1010.
4) 江原英俊，仲野正博，出口　隆．局所浸潤前立腺癌の治療戦略　ホルモン療法の位置付け，泌尿器科紀要 2006 年；52 巻：473－477.
5) 出口　隆，萩原徳康，伊藤慎一．泌尿器科臨床の難問を解く　EBM を考慮した解説-慢性前立腺炎の治療，臨床泌尿器科　2006 年；60 巻：549－554.
6) 出口　隆．尿路感染症の病態と診断・治療と予防　留置カテーテルも含めて．感染防止　2007 年；17 巻：9－15.
7) 出口　隆．病気と薬の説明ガイド 2007，感染性疾患 薬物療法編　医薬品情報編　性器感染症．薬局　2007 年；58 巻：1563－1569.
8) 横井繁明，出口　隆．泌尿器科疼痛対策，尿路性器感染症・骨盤内疼痛症候群に対する疼痛対策．Urology View　2007 年；5 巻：30－33.

9) 高橋義人，中根慶太，横井繁明．手術手技　腹腔鏡下手術時代における開放手術　単純腎摘除術．臨床泌尿器科　2007 年；61 巻：117－124.
10) 安田　満．性感染症の現状，主要疾患のプライマリケア診療　淋菌感染症の診断と治療　クリニカルプラクティス　2007 年；26 巻：304－307.
11) 伊藤慎一，土屋朋大，守山洋司，稲垣勇夫，出口　隆．腎移植後 BK ウイルス腎症とデコイセルの意義，検査と技術　2007 年；35 巻：407－410.
12) 出口　隆，萩原徳康，安田　満，前田真一．性感染症　今，なにが問題か，性感染症　診断・治療　非クラミジア性非淋菌性尿道炎．臨牀と研究　2007 年；84 巻：673－676.
13) 安田　満．性感染症の現状，多剤耐性淋菌感染症の治療　臨床泌尿器科　2007 年；61 巻：773－779.
14) 岩下明子，出口　隆．泌尿器ケアの Do & Do Not，泌尿器科のカテーテル管理の Do & Do Not　膀胱洗浄・腎盂洗浄 Do Not　閉鎖式留置カテーテルではむやみやたらに膀胱洗浄をしてはいけない！　カテーテル留置時，カテーテル閉塞時など特殊な場合を除いては膀胱洗浄すべきではない．泌尿器ケア　2007 年；冬季増刊：128－130.
15) 岡田弘美，出口　隆．泌尿器ケアの Do & Do Not，泌尿器科のカテーテル管理の Do & Do Not　膀胱洗浄・腎盂洗浄 Do　膀胱洗浄が困難な場合，その理由を考えなければならない！　泌尿器ケア　2007 年；冬季増刊：131－134.
16) 岡田弘美，出口　隆．泌尿器ケアの Do & Do Not，泌尿器科のカテーテル管理の Do & Do Not　膀胱洗浄・腎盂洗浄 Do Not　感染防止目的でイソジン液で膀胱洗浄をしてはいけない！　泌尿器ケア　2007 年；冬季増刊：135－137.
17) 平岡佐織，仲野正博．泌尿器ケアの Do & Do Not，泌尿器科のカテーテル管理の Do & Do Not　膀胱洗浄・腎盂洗浄 Do Not　血尿が濃いときに持続膀胱洗浄の速度を遅くしてはいけない！　泌尿器ケア　2007 年；冬季増刊：138－141.
18) 平岡佐織，仲野正博．泌尿器ケアの Do & Do Not，泌尿器科のカテーテル管理の Do & Do Not　膀胱洗浄・腎盂洗浄 Do　持続膀胱洗浄時はインアウト量，下腹部の状態に注意しなければならない！　泌尿器ケア　2007 年；冬季増刊：142－145.
19) 今井美和子，仲野正博．泌尿器ケアの Do & Do Not，泌尿器科のカテーテル管理の Do & Do Not　膀胱洗浄・腎盂洗浄 Do Not　腎瘻造設後，凝血塊で腎瘻が閉塞しても洗浄してはいけない！　泌尿器ケア　2007 年；冬季増刊：146－150.
20) 今井美和子，仲野正博．泌尿器ケアの Do & Do Not，泌尿器科のカテーテル管理の Do & Do Not　膀胱洗浄・腎盂洗浄 Do Not　腎盂洗浄時に，膀胱洗浄と同じように 30～50mL の生理食塩水を注入してはいけない！　泌尿器ケア　2007 年；冬季増刊：151－153.
21) 竹内敏視，出口　隆．泌尿器科救急，尿路感染症・フルニエ壊疽．臨床泌尿器科　2007 年；61 巻：1079－1085.
22) 江原英俊，出口　隆．外科的処置を要する泌尿器科領域の重症感染症，前立腺膿瘍，精巣上体膿瘍，陰茎膿瘍．泌尿器外科　2008 年；21 巻：453－459.
23) 安田　満．泌尿器科外来ベストナビゲーション，尿路・性器の炎症性疾患　非淋菌性尿道炎，クラミジア感染症が疑われる患者です。対処と処方について教えてください。2008 年；62 巻：95－97.
24) 安田　満．泌尿器科外来ベストナビゲーション，路・性器の炎症性疾患　トリコモナス，「パートナーがトリコモナス腟炎で治療が開始された」という患者です。対処と処方について教えてください。臨床泌尿器科　2008 年；62 巻：98－100.
25) 安田　満．泌尿器科外来ベストナビゲーション，尿路・性器の炎症性疾患　前立腺痛，頑固な前立腺痛の自覚症状を訴える患者です。対処と処方について教えてください。臨床泌尿器科　2008 年；62 巻：101－104.
26) 安田　満．性感染症における母子感染対策，淋菌感染症．日本性感染症学会誌　2008 年；19 巻：43－49.
27) 安田　満，出口　隆．性感染症，おもな性感染症　非クラミジア・非淋菌感染，その他　HB，赤痢アメーバ，梅毒など．小児科診療　2008 年；71 巻：1301－1310.
28) 安田　満．感染症の治療　抗菌薬を使いこなそう，日常的な診療における抗菌薬の使い方　エンピリックな抗菌薬の使い方と落とし穴　尿路感染症における抗菌薬．内科　2008 年；102 巻：878－883.

総説（欧文）
なし

原著（和文）
1) 山田　徹，土屋朋大，亀井信吾，楊　睦正，西野好則，西田泰幸，谷口光宏，永井　司，竹内敏視，江原英俊，高橋義人，出口　隆，岐阜尿路上皮癌研究グループ．表在性膀胱癌の再発因子，予後因子の検討　800 例の検討，日本泌尿器科学会雑誌　2006 年；97 巻：33－41.
2) 増栄孝子，加藤　卓，萩原徳康，横井繁明，江原英俊，出口　隆．尿道外脱出を伴った尿管瘤の医原性破裂，臨床泌尿器科　2006 年；60 巻：143－145.
3) 宇野裕巳，高橋義人，出口　隆．Gray zone 症例における経直腸式前立腺多数箇所生検の適応に関する検討，日本がん検診・診断学会誌　2006 年；13 巻：179－182.
4) 久保田恵章，土屋朋大，亀井信吾，江原英俊，高橋義人，出口　隆，五島　聡，兼松雅之．塞栓術が有効であった腎動脈瘤切迫破裂の 1 例，泌尿器科紀要　2006 年；52 巻：349－352.
5) 熊本悦明，塚本泰司，松川雅則，国島康晴，広瀬崇興，茂田士郎，山口　脩，石橋　啓，錫谷達夫，吉田

浩，今福裕司，村井　勝，渡辺清明，小林芳夫，内田　博，松田静治，佐藤新一，藤目　真，藤田和彦，猪狩　淳，小栗豊子，山口惠三，古谷信彦，出口　隆，石原　哲，大江　宏，岡　聖次，北村雅哉，福原吉典，守殿貞夫，荒川創一，公文裕巳，門田晃一．尿路感染症分離菌に対する経口ならびに注射用抗菌薬の抗菌力比較(第 26 報　2004 年）（その 1.）感受性について，The Japanese Journal of Antibiotics 2006 年；59 巻：177－200.

6) 熊本悦明，塚本泰司，松川雅則，国島康晴，広瀬崇興，茂田士郎，山口　脩，石橋　啓，錫谷達夫，吉田浩，今福裕司，村井　勝，渡辺清明，小林芳夫，内田　博，松田静治，佐藤新一，藤目　真，藤田和彦，猪狩　淳，小栗豊子，山口惠三，古谷信彦，出口　隆，石原　哲，大江　宏，岡　聖次，北村雅哉，福原吉典，守殿貞夫，荒川創一，公文裕巳，門田晃一．尿路感染症分離菌に対する経口ならびに注射用抗菌薬の抗菌力比較(第 26 報　2004 年）（その 2.）患者背景，The Japanese Journal of Antibiotics　2006 年；59 巻：201－213.

7) 熊本悦明，塚本泰司，松川雅則，国島康晴，広瀬崇興，茂田士郎，山口　脩，石橋　啓，錫谷達夫，吉田浩，今福裕司，村井　勝，渡辺清明，小林芳夫，内田　博，松田静治，佐藤新一，藤目　真，藤田和彦，猪狩　淳，小栗豊子，山口惠三，古谷信彦，出口　隆，石原　哲，大江　宏，岡　聖次，北村雅哉，福原吉典，守殿貞夫，荒川創一，公文裕巳，門田晃一，松本哲朗，村谷哲郎，内藤誠二，江頭稔久，小西高俊，河野　茂，平潟洋一，近藤　晃，松田淳一，中野路子．尿路感染症分離菌に対する経口ならびに注射用抗菌薬の抗菌力比較(第 26 報　2004 年）（その 3.）感受性の推移，The Japanese Journal of Antibiotics 2006 年；59 巻：217－315.

8) 林　美佳，安田　満，出口　隆．髄膜炎菌による男子尿道炎の一例，日本性感染症学会誌　2006 年；17 巻：78－81.

9) 増栄成泰，安藤公隆，豊田　泉，森　義雄，小倉真治，中根慶太，萩原徳康，高橋義人，出口　隆．先天性腎盂尿管移行部狭窄症に合併した外傷性腎損傷の 1 例，救急医学　2007 年；31 巻：111－113.

10) 高橋義人，中根慶太，谷口光宏，多田晃司，横井繁明，仲野正博，水谷晃輔，出口　隆，竹内敏視．泌尿器腹腔鏡手術の臨床的検討　岐阜大学および関連施設における 9 年間の経験，岐阜県医師会医学雑誌 2007 年；20 巻：93－99.

11) 亀井信吾，横井繁明，高橋義人，出口　隆，竹内敏視，蟹本雄右，藤本佳則．腹腔鏡下副腎摘除術　初期 50 症例の経験，泌尿器科紀要　2007 年；53 巻：107－112.

12) 加藤　卓，高橋義人，中根慶太，横井繁明，江原英俊，篠田育男，出口　隆．多発性嚢胞腎に合併した両側腎細胞癌の 1 例，泌尿器科紀要　2007 年；53 巻：117－119.

13) 久保田恵章，土屋朋大，亀井信吾，江原英俊，高橋義人，出口　隆，五島　聡，兼松雅之．N-butyl 2-cyanoacrylate(hystoacryl)にて 2 期的に塞栓術を要した巨大腎動静脈奇形の 1 例，泌尿器科紀要　2007 年；53 巻：307－310.

14) 米田尚生，藤本佳則，宇野雅博，増栄孝子，服部慎一．根治的前立腺全摘出術後再発についての検討，全国自治体病院協議会雑誌　2007 年；46 巻：395－396.

15) 宇野雅博, 山田佳輝, 増栄孝子, 米田尚生, 藤本佳則. セミノーマ stage I の長期治療成績, 泌尿器外科　2007 年；20 巻：179－182.

16) 増栄孝子，山田佳輝，服部慎一，宇野雅博，米田尚生，藤本佳則．小児小陰唇癒着症の 1 例，岐阜県医師会医学雑誌　2007 年；20 巻：133－134.

17) 石田健一郎，原田吉将，鄭　漢彬，水谷晃輔，横井繁明，出口　隆，高橋義人，柚原一哉，蟹本雄右．非触知精巣に対する腹腔鏡検査の経験，泌尿器科紀要　2007 年；53 巻：795－799.

18) 安田　満，大楠清文，三鴨廣繁，後藤千寿，澤村治樹，村上啓雄，出口　隆，森脇久隆．岐阜大学附属病院で分離された緑膿菌の薬剤感受性の年次推移について，緑膿菌感染症研究会講演記録　2007 年；41 巻：47－51.

19) 菅原　崇，永井真吾，守山洋司，藤広　茂．2,8-dihydroxyadenine 結石の 1 例，岐阜赤十字病院医学雑誌 2007 年；19 巻：11－14.

20) 服部慎一，藤本佳則，米田尚生，宇野雅博，増栄孝子．12 歳男子に発生した精子肉芽腫の 1 例，西日本泌尿器科　2007 年；69 巻：640－643.

21) 玉木正義，清家健作，西田泰幸，前田真一，久保田恵章，出口　隆．トヨタ記念病院における前立腺癌に対する前立腺全摘除術の臨床的検討，トヨタ医報　2007 年；17 巻：23－28.

22) 河田幸道，安田　満，田中一志，門田晃一，赤坂聡一郎，江頭稔久，賀来満夫，堀　誠治．複雑性尿路感染症を対象とした sitafloxacin の用量比較試験，日本化学療法学会雑誌　2008 年；56 巻（増刊 1 号）：92－102.

23) 宇野雅博，米田尚生，服部慎一，根笹信一，藤本佳則，増栄孝子．Stone cone 導入による経尿道的尿管砕石術の臨床的検討，Japanese Journal of Endourology and ESWL　2008 年；21 巻：209－213.

24) 三輪好生，守山洋司，増栄孝子，西野好則，服部慎一，加藤成一，石田健一郎，増栄成泰，安田　満，宇野雅博，谷口光宏，玉木正義，江原英俊，米田尚生，岡野　学，竹内敏視，多田晃司，藤本佳則，前田真一，長谷川義和，藤広　茂，酒井俊助，坂　義人，出口　隆．前立腺肥大症患者にみられる骨盤部不快感に対するエビプロスタットの有効性の検討，泌尿器外科　2008 年；21 巻：807－814.

25) 西野好則，出口　隆．女性の過活動膀胱に対する抗コリン薬イミダフェナシンとソリフェナシンの無作為割付による比較検討，泌尿器外科　2008 年；21 巻：815－822.

26) 水谷晃輔，菊地美奈，近藤浩史，守山洋司，土屋朋大，仲野正博，江原英俊，出口　隆，篠田育男．分節性動脈中膜融解が疑われた腎仮性動脈瘤破裂の 1 例，泌尿器科紀要　2008 年 54 巻：489－491.

27) 菊地美奈，亀井信吾，守山洋司，土屋朋大，三輪好生，横井繁明，仲野正博，江原英俊，出口　隆，廣瀬

善信．FOLFOX4(オキサリプラチン，ロイコボリン，5-FU)を術前抗癌化学療法に用いた尿膜管癌の 1 例，泌尿器科紀要　2008 年；54 巻：557－559.

28）増栄孝子，服部愼一，高木公暁，宇野雅博，米田尚生，藤本佳則．胸水貯留にて発見された前立腺癌の 2 例，泌尿器科紀要　2008 年；54 巻：565－568.

29）西田泰幸，清家健作，山本直樹，前田真一，高桑康成，田代和弘，玉木正義．後腎性腺腫の 1 例，トヨタ医報　2008 年；18 巻：100－104.

30）加藤　卓，仲野正博，宇野裕巳，清家健作，小島圭太郎，久保田恵章，後藤高広，山本直樹，江原英俊，蟹本雄右，高橋義人，出口　隆，岐阜前立腺癌研究グループ．前立腺針生検標本と前立腺全摘標本におけるグリソンスコアの乖離についての検討　一般病理医の現状，泌尿器科紀要　2008 年；54 巻：641－645.

31）江原英俊，伊藤慎一，高田俊彦，土屋朋大，守山洋司，亀井信吾，増栄成泰，山田　徹，蓑島謙一，永井司，米田尚生，林　秀治，石原　哲，堀江正宣，出口　隆．二次性副甲状腺機能亢進症に対するマキサカルシトール長期使用の予後調査，日本透析医学会雑誌　2008 年；41 巻：717－722.

32）清家健作，西田泰幸，山本直樹，前田真一．酸性尿酸アンモニウム結石の 1 例，泌尿器科紀要　2008 年；54 巻：689－692.

33）小島圭太郎，亀井信吾，出口　隆．術前検査にて膀胱腫瘍が疑われた TUR 後の前立腺再肥大，臨床泌尿器科　2008 年；62 巻：1088－1090.

原著（欧文）

1）Hasegawa N, Mizutani K, Suzuki T, Deguchi T, Nozawa Y. A comparative study of protein profiling by proteomic analysis in camptothecin-resistant PC3 and camptothecin-sensitive LNCaP human prostate cancer cells. Urol Int. 2006;77:347-354.　IF 0.820

2）Nakano M, Uno H, Gotoh T, Kubota Y, Ishihara S, Deguchi T, Hayashi S, Matsuo M, Tanaka O, Hoshi H. Migration of prostate brachytherapy seeds to the vertebral venous plexus. Brachytherapy. 2006:127-130.

3）Nishino Y, Masue T, Miwa K, Takahashi Y, Ishihara S, Deguchi T. Comparison of two alpha1-adrenoceptor antagonists, naftopidil and tamsulosin hydrochloride, in the treatment of lower urinary tract symptoms with benign prostatic hyperplasia: a randomized crossover study. BJU Int. 2006;97:747-751, discussion 751.　IF 2.751

4）Mizutani K, Matsumoto K, Hasegawa N, Deguchi T, Nozawa Y. Expression of clusterin, XIAP and survivin, and their changes by camptothecin (CPT) treatment in CPT-resistant PC-3 and CPT-sensitive LNCaP cells. Exp Oncol. 2006;28:209-215.

5）Ito H, Iwamoto I, Mizutani K, Morishita R, Deguchi T, Nozawa Y, Asano T, Nagata K. Possible interaction of a Rho effector, Rhotekin, with a PDZ-protein, PIST, at synapses of hippocampal neurons. Neurosci Res. 2006;56:165-171.　IF 2.121

6）Tanaka O, Hayashi S, Matsuo M, Sakurai K, Nakano M, Maeda S, Kajita K, Deguchi T, Hoshi H. Comparison of MRI-based and CT/MRI fusion-based postimplant dosimetric analysis of prostate brachytherapy. Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2006;66:597-602.　IF 4.290

7）Maeda S, Kubota Y, Senda Y, Tamaki M, Yasuda M, Deguchi T. Failure to detect urethral Trichomonas vaginalis in Japanese men with or without urethritis. Int J Urol. 2006;13:1418-1420.　IF 0.769

8）Tanaka O, Hayashi S, Sakurai K, Matsuo M, Nakano M, Maeda S, Hoshi H, Deguchi T. Importance of the CT/MRI fusion method as a learning tool for CT-based postimplant dosimetry in prostate brachytherapy. Radiother Oncol. 2006;81:303-308.　IF 4.074

9）Masue N, Deguchi, Yokoi S, Yamada T, Ohkusu K, Ezaki T. System for simultaneous detection of 16 pathogens related to urethritis to diagnose mixed infection. Int J Urol. 2007;14:39-42.　IF 0.769

10）Masue N, Hasegawa Y, Moriyama Y, Ikeda Y, Gotoh T, Deguchi T. Spontaneous disappearance of multiple lung metastases after nephroureterectomy　from sarcomatoid carcinoma of the renal pelvis: a case report. Int J Urol. 2007;14:75-78.　IF 0.769

11）Tanaka O, Hayashi S, Kanematsu M, Matsuo M, Nakano M, Maeda S, Deguchi T, Hoshi H. CT-based postimplant dosimetry of prostate brachytherapy: comparison of 1-mm and 5-mm section CT. Radiat Med. 2007;25:22-26.

12）Ito H, Usuda N, Atsuzawa K, Iwamoto I, Sudo K, Katoh-Semba R, Mizutani K, Morishita R, Deguchi T, Nozawa Y, Asano T, Nagata K. Phosphorylation by extracellular signal-regulated kinase of a multidomain adaptor protein, vinexin, at synapses. J Neurochem. 2007;100:545-554.　IF 4.451

13）Ehara H, KojimaK, Hagiwara N, Phuoc NB, Deguchi T. Abscess of the corpus cavernosum. Int J Infect Dis. 2007;11:553-554.　IF 2.250

14）Phuoc NB, Ehara H, Gotoh T, Nakano M, Yokoi S, Deguchi T, Hirose Y. Immunohistochemical analysis with multiple antibodies in search of prognostic markers for clear cell renal cell carcinoma. Urology. 2007;69:843-848.　IF 2.134

15）Mizutani K, Ito H, Iwamoto I, Morishita R, Deguchi T, Nozawa Y, Asano T, Nagata KI. Essential roles of ERK-mediated phosphorylation of vinexin in cell spreading, migration and anchorage-independent growth. Oncogene. 2007;26:7122-7131.　IF 6.440

16）Maeda S, Tamaki M, Kubota Y, Nguyen PB, Yasuda M, Deguchi T. Treatment of men with urethritis negative for *Neisseria gonorrhoeae*, *Chlamydia trachomatis*, *Mycoplasma genitalium*, *Mycoplasma*

*hominis*, *Ureaplasma parvum* and *Ureaplasma urealyticum*. Int J Urol. 2007;14:422-425. IF 0.769
17) Yoshida T, Deguchi T, Maeda S, Kubota Y, Tamaki M, Yokoi S, Yasuda M, Ishiko H. Quantitative detection of *Ureaplasma parvum* (biovar 1) and *Ureaplasma urealyticum* (biovar 2) in urine specimens from men with and without urethritis by real-time polymerase chain reaction. Sex Transm Dis. 2007;34:416-419. IF 2.928
18) Ochiai S, Sekiguchi Y, Hayashi A, Shimadzu M, Ishiko H, Matsushima-Nishiwaki R, Kozawa O, Yasuda M, Deguchi T. Decreased affinity of mosaic-structure recombinant penicillin-binding protein 2 for oral cephalosporins in *Neisseria gonorrhoeae*. J Antimicrob Chemother. 2007;60:54-60. IF 4.038
19) Goto T, Nakano M, Ito S, Ehara H, Yamamoto N, Deguchi T. Significance of an E-cadherin gene promoter polymorphism for risk and disease severity of prostate cancer in a Japanese population. Urology. 2007;70:127-130. IF 2.134
20) Tanaka O, Hayashi S, Matsuo M, Nakano M, Kubota Y, Maeda S, Ohtakara K, Deguchi T, Hoshi H. Comparison of urethral diameters for calculating the urethral dose after permanent prostate brachytherapy. Radiat Med. 2007;25:329-334.
21) Yokoi S, Maeda S, Kubota Y, Tamaki M, Mizutani K, Yasuda M, Ito S, Nakano M, Ehara H, Deguchi T. The role of *Mycoplasma genitalium* and *Ureaplasma urealyticum* biovar 2 in postgonococcal urethritis. Clin Infect Dis. 2007;45:866-871. IF 6.750
22) Tanaka O, Hayashi S, Matsuo M, Nakano M, Uno H, Ohtakara K, Miyoshi T, Deguchi T, Hoshi H. Effect of edema on postimplant dosimetry in prostate brachytherapy using CT/MRI fusion. Int J Radiat Oncol Biol Phys. 2007;69:614-618. IF 4.290
23) Tanaka O, Hayashi S, Matsuo M, Nakano M, Kubota Y, Maeda S, Ohtakara K, Deguchi T, Hoshi H. MRI-based preplanning in low-dose-rate prostate brachytherapy. Radiother Oncol. 2008;88:115-120. IF 4.074
24) Yokoi S, Deguchi T, Ozawa T, Yasuda M, Ito S, Kubota Y, Tamaki M, Maeda S. Threat to cefixime treatment for gonorrhea. Emerg Infect Dis. 2007;13:1275-1277. IF 5.755
25) Mizutani K, Nagata KI, Ito H, Ehara H, Nozawa Y, Deguchi T. Possible Roles of Vinexinbeta in Growth and Paclitaxel Sensitivity in Human Prostate Cancer PC-3 Cells. Cancer Biol Ther. 2007;6:1800-1804. IF 2.873
26) Mizutani K, Ehara H, Yokoi S, Phuoc NB, Deguchi T, Hirose Y. Treatment-related ureteral cancer following stage II testicular seminoma. Int J Clin Oncol. 2007;12:469-471.
27) Kubota Y, Kawai A, Tsuchiya T, Kozima K, Yokoi S, Deguchi T. Bilateral primary malignant lymphoma of the ureter. Int J Clin Oncol. 2007;12:482-484.
28) Mizokami A, Ueno S, Fukagai T, Ito K, Ehara H, Kinbara H, Origasa H, Usami M, Namiki M, Akaza H. Global update on defining and treating high-risk localized prostate cancer with leuprorelin: an Asian perspective. BJU Int. 2007;99 Suppl 1:6-9. IF 2.751
29) Kubota Y, Kamei S, Ehara H, Takahashi Y, Deguchi T. Anterior urethral valve in the fossa navicularis presenting as a sprit urinary stream in a child. Hinyokika Kiyo. 2008;54:135-138.
30) Uno H, Nakano M, Ehara H, Deguchi T. Indications for extended 14-core transrectal ultrasound-guided prostate biopsy. Urology. 2008;71:23-27. IF 2.134
31) Ochiai S, Ishiko H, Yasuda M, Deguchi T. Rapid detection of the mosaic structure of the *Neisseria gonorrhoeae* penA Gene, which is associated with decreased susceptibilities to oral cephalosporins. J Clin Microbiol. 2008;46:1804-1810. IF 3.708
32) Kubota Y, Kamei S, Nakano M, Ehara H, Deguchi T, Tanaka O. The potential role of prebiopsy magnetic resonance imaging combined with prostate-specific antigen density in the detection of prostate cancer. Int J Urol. 2008;15:322-326; discussion 327. IF 0.769
33) Goto T, Nguyen BP, Nakano M, Ehara H, Yamamoto N, Deguchi T. Utility of Bcl-2, P53, Ki-67, and caveolin-1 immunostaining in the prediction of biochemical failure after radical prostatectomy in a Japanese population. Urology. 2008;72:167-171. IF 2.134
34) Moriyama Y, Miwa K, Tanaka H, Fujihiro S, Nishino Y, Deguchi T. Nocturia in men less than 50 years of age may be associated with obstructive sleep apnea syndrome. Urology. 2008;71:1096-1098. IF 2.134
35) Kojima K, Ohhashi R, Fujita Y, Hamada N, Akao Y, Nozawa Y, Deguchi T, Ito M. A role for SIRT1 in cell growth and chemoresistance in prostate cancer PC3 and DU145 cells. Biochem Biophys Res Commun. 2008;373:423-428. IF 2.749
36) Moriyama Y, Minamidate Y, Yasuda M, Ehara H, Kikuchi M, Tsuchiya T, Deguchi T, Tsurumi H. Acute renal failure due to bilateral ureteral stone impaction in an HIV-positive patient. Urol Res. 2008;36:275-277. IF 1.385
37) Phuoc NB, Ehara H, Gotoh T, Nakano M, Kamei S, Deguchi T, Hirose Y. Prognostic value of the co-expression of carbonic anhydrase IX and vascular endothelial growth factor in patients with clear cell renal cell carcinoma. Oncol Rep. 2008;20:525-530. IF 1.597
38) Deguchi T, Yasuda M, Maeda S. Lack of nationwide surveillance of antimicrobial resistance of *Neisseria gonorrhoeae* in Japan. Ann Intern Med. 2008;149:363-364. IF 15.516
39) Fujita Y, Kojima K, Hamada N, Ohhashi R, Akao Y, Nozawa Y, Deguchi T, Ito M. Effects of miR-34a on cell growth and chemoresistance in prostate cancer PC3 cells. Biochem Biophys Res Commun. 2008;377:114-119. IF 2.749

## 4. 研究費獲得状況

### 1）競争的資金

1） 研究代表者：伊藤慎一；文部科学省科学研究補助金若手研究(B)：腎移植における急性拒絶反応のリアルタイム定量的 PCR 法を用いた早期診断法の確立；平成 16－18 年度；2,500 千円(1,400：800：300 千円)

2） 研究代表者：伊藤慎一，研究分担者：出口　隆；文部科学省科学研究補助金基盤研究(C)：CD8 KO マウスでの同種皮膚移植片の拒絶反応のエフェクター細胞の同定；平成 19－20 年度；5,000 千円(2,800：2,200 千円)

3） 研究代表者：小島圭太郎；文部科学省科学研究補助金若手研究(B)：前立腺癌細胞における薬剤耐性機序の解明；平成 20－21 年度；3,900 千円(2,600：1,300 千円)

### 2）受託研究

1） 出口　隆：DU-6859a 第Ⅲ相臨床試験－複雑性尿路感染症を対象とした二重盲検用量比較試験－；平成 17－18 年度；3,806,712 円：第一製薬（株）

2） 出口　隆：YM617 第Ⅲ相試験（男性）；平成 17－18 年度；3,036,384 円：アステラス製薬（株）

3） 出口　隆：YM617 第Ⅲ相試験（女性）；平成 17－18 年度；4,956,120 円：アステラス製薬（株）

4） 出口　隆：YP-18 の複雑性尿路感染症を対象とした臨床第Ⅲ相試験－オープンラベル多施設共同試験－；平成 17－18 年度；2,895,984 円：大正富山医薬品（株）

5） 出口　隆：YP-18 の敗血症・感染性心内膜炎を対象とした臨床第Ⅲ相試験－オープンラベル多施設共同試験－；平成 17－18 年度；1,998,360 円：大正富山医薬品（株）

6） 出口　隆：CS-023 第Ⅱ相試験-複雑性尿路感染症を対症とした一般試験-；平成 18 年度；1,260,000 円：三共（株）

7） 出口　隆：プログラフカプセル有害事象詳細調査；平成 18 年度；42,000 円：アステラス製薬（株）

8） 出口　隆：DR-3355 の複雑性尿路感染症を対症とした一般試験（第Ⅲ相）；平成 18－20 年度；1,486,800 円：第一製薬（株）

9） 出口　隆：バップフォー特定使用成績調査（残尿量を指標とした有用性の検討）；平成 18－19 年度；315,000 円：大鵬薬品工業（株）

10） 出口　隆：プログラフカプセル有害事象詳細調査；平成 18－19 年度；21,000 円：アステラス製薬（株）

11） 出口　隆：リュープリン SR 注射用 11.25mg 特定使用成績調査；平成 19－21 年度；945,000 円：武田薬品工業（株）

12） 出口　隆：バシリキシマブ及びステロイド剤を併用する新規成人腎移植患者を対象として減量ネオーラルと併用したエベロリムス（血中濃度に基づき投与量を調整する）と標準量ネオーラルと併用したミコフェノール酸モフェチルの有効性及び安全性を比較する，12 ヶ月，多施設共同，ランダム化，オープンラベル試験；平成 19－22 年度；1,990,800 円：ノバルティスファーマ（株）

13） 出口　隆：ベシケア錠使用成績調査；平成 19－21 年度；105,000 円：アステラス製薬（株）

14） 出口　隆：リザベン副作用詳細調査；平成 20 年度；21,000 円：キッセイ薬品工業（株）

15） 出口　隆：バップフォー特定使用成績調査　−低容量 10 mg/日　開始例における有用性の検討−；平成 19－20 年度； 315,000 円：大鵬薬品工業（株）

16） 出口　隆：オーアイエフ特定使用成績調査（皮下注）；平成 19－20 年度；94,500 円：大塚製薬（株）

17） 出口　隆：DC-159a の *Mycoplasma genitalium* に対する抗菌活性の評価；平成 20－21 年度；2,310,000 円：第一三共（株）

18） 出口　隆：クラビット錠・細粒　特定使用成績調査「尿路感染症の主要原因菌の各種抗菌薬に対する感受性検討」；平成 20 年度；315,000 円：第一三共（株）

19） 出口　隆：ネクサバール錠　特定使用成績調査（長期使用）；平成 20－22 年度；157,500 円：バイエル薬品（株）

20） 出口　隆：スーテントカプセル 12.5 mg　特定使用成績調査　−「腎細胞癌に対する調査」−；平成 20－24 年度；378,000 円：ファイザー（株）

### 3）共同研究

なし

## 5. 発明・特許出願状況

なし

## 6. 学会活動

### 1）学会役員

出口　隆：

1） 日本泌尿器科学会監事(～現在)
2） 日本化学療法学会評議員(～現在)
3） 日本化学療法学会西日本支部幹事(～現在)
4） 日本性感染症学会理事(～現在)
5） 日本感染症学会評議員(～現在)
6） 尿路感染症研究会幹事(～現在)
7） 日本泌尿器科学会東海地方会運営委員長(～現在)
8） 泌尿器科分子・細胞研究会世話人(～現在)
9） 東海ストーマリハビリテーション研究会世話人(～現在)
10） J-POPS 運営委員(～現在)

江原英俊：

1） 日本泌尿器科学会ボーディングメンバー(～現在)
2） 東海腹膜透析研究会世話人(～現在)
3） 泌尿器分子・細胞研究会評議員(～現在)
4） 岐阜県透析療法研究会学術委員(～現在)
5） 東海ストーマ・リハビリテーション研究会世話人(～現在)

伊藤慎一：

1） 日本泌尿器科学会ボーディングメンバー(～現在)
2） 日本移植学会評議員(～現在)
3） 腎移植血管外科研究会世話人(～現在)

仲野正博：

1） 日本泌尿器科学会ボーディングメンバー(～現在)
2） 日本 Endourology・ESWL 学会評議員(～現在)

横井繁明：

1） 日本泌尿器科学会ボーディングメンバー(～現在)
2） 日本 Endourology・ESWL 学会評議員(～現在)

安田　満：

1） 日本泌尿器科学会ボーディングメンバー(～現在)
2） 日本化学療法学会評議員(～現在)
3） 日本性感染症学会評議員(平成 17 年 12 月～現在)
4） 日本化学療法学会抗菌薬臨床評価ガイドライン改定委員会委員(～現在)
5） 日本化学療法学会サーベイランス委員会委員(～現在)
6） 日本化学療法学会 UTI 薬効評価基準見直しのための委員会委員(～現在)

### 2）学会開催

出口　隆：

1） 第 234 回日本泌尿器科学会東海地方会(平成 18 年 12 月，名古屋)
2） 第 241 回日本泌尿器科学会東海地方会(平成 20 年 9 月，名古屋)

### 3）学術雑誌

出口　隆：

1） 泌尿器科紀要；編集委員(～現在)

2） Int. J. Urol.：Editor(～現在)

安田　満：
1） 日本性感染症学会；編集委員(～現在)
2） 日本化学療法学会；編集委員(平成 20 年～現在)

## 7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

出口　隆：
1） 第 56 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 18 年 10 月，名古屋，ワークショップ「匠の手術・未来の技」座長)
2） 第 56 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 18 年 10 月，名古屋，サテライトシンポジウム 2「近未来的前立腺癌対策」座長)
3） 第 341 回日本泌尿器科学会新潟地方会(平成 19 年 3 月，新潟，特別講演「薬剤耐性菌はこうして出現する－尿路性器感染症の場合－」演者)
4） 第 95 回日本泌尿器科学会総会(平成 19 年 4 月，神戸，卒後教育プログラム「尿路性器感染症—抗菌剤使用ガイドラインに沿った抗菌剤の使い方- 性器感染症」演者)
5） 第 111 回日本眼科学会総会　専門別研究会　第 8 回眼科 DNA チップ研究会(平成 19 年 4 月, 大阪, 特別講演「感染症の遺伝子診断　—尿路性器感染症での応用—」演者)
6） 日本性感染症学会第 20 回学術大会(平成 19 年 12 月, 東京, 教育セミナー「*Mycoplasma genitalium* 感染症の update」演者)
7） 第 58 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 20 年 11 月，滋賀，特別講演「泌尿器科腫瘍における PET 画像診断の役割」座長)

伊藤慎一：
1） 第 56 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 18 年 10 月，名古屋，研修医・医学生のための教育セミナー【第一部】「輝く自分を見つけよう」演者)

仲野正博：
1） 第 56 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 18 年 10 月，名古屋，研修医・医学生のための教育セミナー【第一部】「輝く自分を見つけよう」演者)
2） 第 235 回日本泌尿器科学会東海地方会(平成 19 年 3 月，名古屋，特別企画「限局性前立腺癌（T1c or T2)ヨウ素 125 密封小線源永久挿入療法」演者)
3） 第 236 回日本泌尿器科学会東海地方会(平成 19 年 6 月，名古屋，特別企画「低リスク群に対する密封小線源永久挿入療法の成績」演者)
4） 第 242 回日本泌尿器科学会東海地方会(平成 20 年 12 月，名古屋，特別企画「分子標的治療時代の進行性腎癌治療　ソラフェニブが有効であった多発転移の 1 例」演者)

横井繁明：
1） 第 56 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 18 年 10 月，名古屋，ワークショップ「匠の手術・未来の技」「HoLEP 導入に際しての技」演者)
2） 第 95 回日本泌尿器学会総会(平成 19 年 4 月，神戸，ワークショップ　腹腔鏡手術若手討論会「腹腔鏡トレーニング」演者)

安田　満：
1） 日本性感染症学会　第 19 回学術大会(平成 18 年 12 月，金沢，シンポジウム「性感染症制圧に向けて：臨床医学からのアプローチ」「性感染症制圧に向けてのわれわれの取り組みについて」縁者)
2） 第 95 回日本泌尿器科学会総会(平成 19 年 4 月，神戸，卒後教育プログラム「尿路性器感染症－抗菌剤使用ガイドラインに沿った抗菌剤の使い方－　尿路性器感染症」演者)
3） 日本性感染症学会第 20 回学術大会(平成 19 年 12 月，東京，教育セミナー「淋菌，クラミジア，マイコプラズマの拡大防止策」演者)
4） 日本性感染症学会第 20 回学術大会(平成 19 年 12 月，東京，シンポジウム「母子垂直感染の予防　淋菌感染症」演者)
5） 第 241 回日本泌尿器科学会東海地方会(平成 20 年 9 月，名古屋，特別企画「糖尿病と泌尿器科疾患

前立腺生検と糖尿病」演者)

6) 第 49 回大韓診断医学検査学会(平成 20 年 10 月，Korea，Industry-Sponsored Lecture & Dinner「The criteria for evaluation of clinical efficacy of antimicrobial agents on urinary tract infection – The diagnosis of urinary tract infections -」Speaker)
7) 第 26 回日本クラミジア研究会，第 15 回リケッチア研究会合同研究発表会(平成 20 年 11 月，岐阜，モーニングセミナー「臨床におけるクラミジア性尿道炎の診断・治療の実際」演者)
8) 第 58 回日本泌尿器科学会中部総会(平成 20 年 11 月，滋賀，ランチョンセミナー「尿道炎治療における問題点とその解決策　–非淋菌性尿道炎を中心として」演者)
9) 11th Western Pacific Congress on Chemotherapy and Infectious Disease(平成20年12月, Taiwan, Symposium: Management of Complicated UTI, Complex Renal Infection; Symposist)

## 8. 学術賞等の受賞状況

なし

## 9. 社会活動

出口　隆：

1) 岐阜県身体障害者医学的判定嘱託医師(～現在)
2) 岐阜県感染症予防対策エイズ対策部会委員(～現在)
3) 岐阜県前立腺がん検診専門委員会委員長(～現在)
4) 岐阜県ジン・アイバンク協会副理事長(～現在)

## 10. 報告書

1) 出口　隆：尿路・性器感染症病原微生物の迅速かつ包括的遺伝子診断システムの開発：平成 16 年度－平成 17 年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書：1－45(2006 年 3 月)

## 11. 報道

1) 出口　隆，西野好則，増栄孝子，高木寛治：過活動膀胱の診断と治療：Medical Tribune(2007 年 1 月)
2) 出口　隆：紙上診察室　PSA 高く前立腺削る検査勧められ：中日新聞(2007 年 2 月 16 日)
3) 出口　隆：排尿障害対策を紹介：岐阜新聞(2007 年 6 月 12 日)
4) 菊池　賢，澤村正之，出口　隆，濱砂良一，小林寅喆：座談会　性感染症の問題点と検査室の対応：BioScan (2008 年)
5) 戸塚恭一，松本哲朗，出口　隆：座談会　泌尿器科領域におけるキノロン系薬の最適な投与法とは：Medical Tribune (2008 年 8 月 14 日)

## 12. 自己評価

評価

尿路性器感染症の分野では，先進的な研究成果をあげることができており評価を受けている。しかしながら，他の研究課題においては着実に研究は進行しているものの，成果としてはあらわれておらずより一層の努力を要する。

現状の問題点及びその対応策

最大の問題点は関連施設も含めた人員不足である。さらに，新病院への移転後の臨床活動のウェイトが増したことに伴って，益々研究に割ける員数と時間に影響が出ている。

即効性のある対応策はなく，また，当分野だけの問題ではないと考えている。当分野としては，以前にも増して本学医学部生及び他大学の学生に積極的にアピールし，留学生や学外企業からの社会人大学院生を積極的に受入を行っている。

今後の展望

1) 尿路生殖器腫瘍の治療と予後に関する基礎的・臨床的研究

尿路生殖器癌における遺伝子変異の包括的な評価とその臨床応用を目指す。

2) 尿路感染症の基礎的・臨床的研究

現在の研究を進め，また，遺伝子解析による薬剤感受性判定法の開発を目指す。これらの基礎的研究

成果に基づいた適正な抗菌化学療法の確立を目指す。

3）男子尿道炎の基礎的・臨床的研究

尿道炎の病原微生物の解明をさらに進めるとともに，尿道炎に対する適正な抗菌化学療法の確立を目指す。

4）腎移植における臨床的研究

免疫抑制剤の適正使用の確立と移植腎の長期機能維持を目指す。

5）鏡視下手術手技の開発研究

新たな技術および器具，器材の開発により，鏡視下手術の適応の拡大を目指す。

## （7）麻酔・疼痛制御学分野

### 1. 研究の概要

麻酔・疼痛制御学分野の主な研究課題は，臨床麻酔の安全性と難治性疼痛治療の開発とを主眼に置いた研究である。反射性の呼吸循環反応と脳脊髄の微小循環から周術期の脳保護に関する知見の収集や，麻酔と疼痛のシグナル伝達機構とその制御，難治性疼痛のメカニズムをオピオイド，$\alpha_2$アゴニスト，Ion transporter 等の脊髄鎮痛機構を解明する基礎的研究を行っており，以下のようにまとめることができる。

1）麻酔・侵襲中の呼吸・循環反応性反応に関する臨床的研究

2）脳・脊髄循環に対する麻酔及びその関連薬に関する研究

3）疼痛制御機構の神経化学的研究と麻酔薬，オピオイド，$\alpha_2$アゴニスト　$K^+$チャネル開口薬，イオントランスポーター，NSAIDs などの作用機序に関する研究

過去 10 年間，科学研究費の配分を受け，頭蓋内及び脊髄腔内有窓法を用いて，脳及び脊髄の微小循環に対する麻酔薬その他の作用機序に関する活発な研究を行い，最近は臨床まで仕事の幅を広げてきた。オピオイド，$\alpha_2$アゴニスト　$K^+$チャネル開口薬，イオントランスポーターなどの脊髄鎮痛機構への影響に対する新しい知見も多くなってきた。また，パッチクランプ法を用いて，脊髄後根細胞の $Na^+$チャネルへの作用，$K^+$チャネル，あるいは局所麻酔薬や鎮痛補助薬のシグナル分子機構への作用も検討し，アポトーシスを誘発することも明らかにした。

### 2. 名簿

| | | |
|---|---|---|
| 教授： | 土肥　修司 | Shuji Dohi |
| 准教授： | 飯田　宏樹 | Hiroki Iida |
| 講師： | 竹中　元康 | Motoyasu Takenaka |
| 講師： | 大畠　博人 | Hiroto Ohata |
| 講師： | 長瀬　清 | Kiyoshi Nagase |
| 臨床講師： | 田辺　久美子 | Kumiko Tanabe |
| 臨床講師： | 道野　朋洋 | Tomohiro Michino |
| 臨床講師： | 杉山　陽子 | Yoko Sugiyama |
| 臨床講師： | 熊澤　昌彦 | Masahiko Kumazawa |
| 臨床講師： | 柳舘　富美 | Fumi Yanagidate |
| 医員： | 鷲見　和行 | Kazuyuki Sumi |
| 医員： | 山口　忍 | Shinobu Yamaguchi |
| 医員： | 飯田　美紀 | Miki Iida |
| 医員： | 福岡　尚和 | Naokazu Fukuoka |
| 医員： | 宮本　真紀 | Maki Miyamoto |
| 医員： | 南　公人 | Kimito Minami |
| 医員： | 鈴木　友希 | Yuki Suzuki |
| 医員： | 中村　好美 | Yoshimi Nakamura |

### 3. 研究成果の発表

著書（和文）


1）土肥修司，他共著．8. 麻酔と脳神経機能：天羽敬祐監修．麻酔科学レビュー2006―最新主要文献集―，東京：総合医学社；2006 年：46－55.

2）土肥修司，他共著．9. 麻薬／覚醒剤／脱法ドラッグ　メタンフェタミン：黒川顕編．中毒症のすべて―いざという時に役立つ、的確な治療のために―，東京：永井書店；2006 年：385.

3）土肥修司編著．Ⅰ-01　麻酔科テクニックの安全な施行のための原則：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：14－15.

4）土肥修司編著．Ⅰ-03　麻酔科計画の実際：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：18－19.

5）土肥修司編著．Ⅰ-04　患者・家族への説明・同意書取得（インフォームドコンセント）のテクニック：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：20－21.

6）土肥修司編著．Ⅰ-05 麻酔器の基本構造と麻酔の準備：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：22－23.

7）土肥修司編著．Ⅰ-09　麻酔中の体液・代謝管理のテクニック：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：30－31.

8）土肥修司編著．Ⅰ-10 症例プレゼンテーションのテクニック：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：32－33.

9) 土肥修司編著．Ⅱ-01 マスク・バック用手換気のコツ：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：34－35.
10) 土肥修司編著．Ⅱ-09 意識化挿管（awake intubation）,気道麻酔，TTI：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：50－51.
11) 土肥修司編著．Ⅲ-01 酸素投与（経口，経鼻，経気管）の方法：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：56－57.
12) 土肥修司編著．Ⅲ-09　NG チューブの挿入テクニック：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：74－75.
13) 土肥修司編著．Ⅲ-11　麻酔回復の評価（リカバリースコア、チェック項目，再挿管の適応）：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：78－79.
14) 土肥修司編著．Ⅳ-01　末梢静脈カテーテルの留置：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：80－81.
15) 土肥修司編著．Ⅳ-02　内頸静脈カテーテル挿入：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：84－85.
16) 土肥修司編著．Ⅴ-01　ルーチンモニター（心電図，$SpO_2$，血圧）：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：94－95.
17) 土肥修司編著．Ⅴ-04　気道内圧，呼気二酸化炭素濃度（$ETCO_2$）の評価：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：100－101.
18) 土肥修司編著．Ⅴ-05　動・静脈血ガス情報の評価：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：102－103.
19) 土肥修司編著．Ⅴ-10　麻酔中の脳・神経機能のモニター　D)自律神経活動評価のテクニック：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：126－127.
20) 土肥修司編著．Ⅶ-02　硬膜外麻酔：穿刺とカテテリザーション〔パラメデアン、外側法、正中法（抵抗、バルーン、水滴）〕：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：154－155.
21) 土肥修司編著．Ⅶ-03　頸部硬膜外腔穿刺とカテーテルの挿入：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：156－157.
22) 土肥修司編著．Ⅷ-01　痛みの定義と疼痛伝達経路：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：168－169.
23) 土肥修司編著．Ⅷ-02　痛みの評価と選択的神経ブロックによる評価：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：170－171.
24) 土肥修司編著．Ⅷ-09　がん患者の疼痛管理テクニック　A)基本：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：186－187.
25) 土肥修司編著．Ⅷ-12　星状神経節ブロック：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：194－195.
26) 土肥修司編著．Ⅷ-29　イオントフォレーシス：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：228－229.
27) 土肥修司編著．Ⅸ-02　悪心・嘔吐の予防と治療：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：234－235.
28) 土肥修司編著．Ⅸ-03　術後低酸素血症（気道閉塞，筋弛緩薬の残存）：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：236－237.
29) 土肥修司編著．Ⅸ-10　肺血栓塞栓症の予防のテクニック：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：252－253.
30) 土肥修司編著．Ⅹ-06　体液・電解質異常の補正テクニック：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：270－271.
31) 土肥修司編著．Ⅹ　麻酔中や緊急時の検査の基準値とパニック値一覧：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：277.
32) 飯田宏樹．Ⅰ-07　吸入麻酔法のテクニック：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：26－27.
33) 飯田宏樹．Ⅶ-05　透視下カテーテリゼーションのテクニック：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：160－161.
34) 飯田宏樹．Ⅷ-11　神経ブロックの局所麻酔・ステロイド・神経破壊薬・凝固熱：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：192－193.
35) 飯田宏樹．Ⅷ-15　三叉神経ブロック（ガッセル神経節ブロック）：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：200－201.
36) 飯田宏樹．Ⅷ-15　三叉神経ブロック（上・下顎神経ブロック）：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：202－203.
37) 飯田宏樹．Ⅷ-22　椎間関節（ファセット）ブロック：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：214－215.
38) 飯田宏樹．Ⅸ-11　Anticoagulant 患者への治療テクニック：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：254－255.
39) 飯田宏樹，山口忍．第 3 章．硬膜外麻酔　B.4.硬膜外麻酔後腰背部痛の特徴と対策：岩崎寛他編．ここがポイント　麻酔手技上達のコツ，東京：南江堂；2006 年：237－239.
40) 飯田宏樹．第 3 章．硬膜外麻酔　B.5.硬膜外麻酔後の硬膜外腔の血腫・膿瘍形成時の症状と対策：岩崎寛

他編．ここがポイント　麻酔手技上達のコツ，東京：南江堂；2006 年：240－243.
41）飯田宏樹．20.臨床麻酔の疑問に答える生理学　I. 脳神経　7.麻酔で脳血流と脳代謝をコントロールできるか：高橋真弓編．麻酔科診療プラクティス，東京：文光堂；2006 年：48－51.
42）竹中元康．Ⅱ-07 喉頭鏡の種類，トラキライの適応：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：46－47.
43）竹中元康．Ⅷ-24　胸部傍脊椎ブロック（thoracic paravertebral block）：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：218－219.
44）竹中元康．Ⅷ-25　胸部交感神経ブロック：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：220－221.
45）竹中元康．Ⅷ-26　腰部交感神経節ブロック：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：222－223.
46）大畠博人．Ⅰ-02 患者評価と麻酔計画：土肥修司編著．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：16－17.
47）大畠博人．Ⅲ-08　片肺換気のテクニック（分離肺換気のテクニック）：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：70－71.
48）大畠博人．Ⅸ-06 心筋虚血発作：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：242－243.
49）田辺久美子．Ⅲ-03　麻酔薬の選択：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：60－61.
50）長瀬　清．Ⅴ-08　経食道心エコープローブの挿入と心機能の評価のテクニック：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：1114－1115.
51）長瀬　清．Ⅴ-09　僧房弁、大動脈弁、左室、大動脈の機能評価：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：1116－117.
52）道野朋洋．Ⅴ-03　体温の測定と体温維持のテクニック：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：98－99.
53）大澤陽子．Ⅱ-08 迅速気管内挿管（with cricoid pressure Columbia）：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：48－49.
54）大澤陽子．VI-02　肥満患者の麻酔：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：132.
55）熊沢昌彦．Ⅱ-04　経鼻挿管：土肥修司編著．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：40－41.
56）柳舘冨美．Ⅰ-06　麻酔前投薬とその評価：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：24－25.
57）棚橋重聡．VI-07　心臓疾患（開心術）：土肥修司編著．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：142－144.
58）松本茂美．Ⅷ-20　肩甲状神経ブロック：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：210－211.
59）松本茂美．Ⅷ-21　肋間神経ブロック：土肥修司編著．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：212－213.
60）山口　忍．Ⅶ-08　閉鎖神経ブロック、大腿神経ブロック：土肥修司編著．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：166－167.
61）山口忍．Ⅷ-18　後頭神経ブロック：土肥修司編．イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：206－207.
62）鷲見和行．土肥修司編著．Ⅷ-17　浅部・深部頸神経叢ブロック：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：204－205.
63）飯田美紀．土肥修司編著．Ⅳ-02　動脈内カテーテルの留置とラインの管理：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：82－83.
64）福岡尚和．土肥修司編著．Ⅱ-10　ダブルルーメンチューブの挿入（右・左）：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：52－53.
65）福岡尚和．土肥修司編著．Ⅸ-01　喉頭痙攣・気管支痙攣：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：232－233.
66）永坂由紀子．土肥修司編著．Ⅸ-04　末梢神経障害：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：238－239.
67）田口佳広．土肥修司編著．Ⅱ-03 経口挿管　（含むチューブの選択）：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：38－39.
68）河村三千香．土肥修司編著．Ⅱ-02 エアウエイ（経口、経鼻）の挿入：イラストでわかる麻酔科必須テクニック，東京：羊土社；2006 年：36－37.
69）土肥修司．1.慢性痛はなぜ起こるのか：西岡久寿樹編．線維筋痛症ハンドブック　2 章　基礎，東京：日本医事新報社；2007 年：14－25.
70）飯田宏樹，鷲見和行．ペインクリニシャンのための痛み診療のコツと落とし穴：宮崎東洋編．安全で苦痛の少ない腰部神経根ブロックの工夫,東京：中山書店；2007 年：146－148.
71）長瀬清，高塚直能，紀ノ定保臣，山本眞由美．急性期病院経営における手術部マネジメント―特定機能病院手術室のケース，東京：経済産業省医療経営人材育成ケース教材開発プロジェクト；2007 年：1－58.

72） 土肥修司．特集にあたって―はじめての麻酔科研修―：宮地良樹編．臨床研修プラクティス　5巻，東京：文光堂；2008年：5.
73） 大畠博人．手術患者の評価と麻酔プランの作成のポイント：宮地良樹編．臨床研修プラクティス　5巻，東京：文光堂；2008年：6－14.
74） 大畠博人．手術患者の評価と麻酔プランの作成のポイント－ミニレクチャー　注意すべき疾患・患者―：宮地良樹編．臨床研修プラクティス　5巻，東京：文光堂；2008年：15.
75） 大畠博人．手術患者の評価と麻酔プランの作成のポイント－ミニレクチャー　緊急手術の麻酔を手伝う―：宮地良樹編．臨床研修プラクティス　5巻，東京：文光堂；2008年：16－17.
76） 飯田美紀．静脈路・動脈路の確保：スマートなアプローチ：宮地良樹編．臨床研修プラクティス　5巻，東京：文光堂；2008年：28－33.
77） 土肥修司．気道・呼吸管理の実際とコツ：宮地良樹編．臨床研修プラクティス　5巻，東京：文光堂；2008年：36－46.
78） 道野朋洋．宮体位はどうする？：地良樹編．臨床研修プラクティス　5巻，東京：文光堂；2008年：49－51.
79） 増江達彦．循環管理（血圧低下、助脈への対応）の実際：宮地良樹編．臨床研修プラクティス　5巻，東京：文光堂；2008年：52－55.
80） 熊澤昌彦．体液・代謝管理の実際とコツ：宮地良樹編．臨床研修プラクティス　5巻，東京：文光堂；2008年：58－61.
81） 鷲見和行．硬膜外麻酔の実際とコツ：宮地良樹編．臨床研修プラクティス　5巻，東京：文光堂；2008年：76－79.

著書（欧文）
なし

総説（和文）
1） 土肥修司．疼痛シグナル伝達と制御機構，Pharma Medica　2006年；6巻：25－30.
2） 土肥修司．はじめに，医学のあゆみ　2008年；225巻：985.
3） 土肥修司．麻酔中の覚醒と夢，医学のあゆみ　2008年；225巻：1023－1028.
4） 土肥修司．麻酔科学の過去・現在・近未来‐学術の進歩と麻酔科医療の展開‐，麻酔　2008年；57巻（増刊）：S1－S7.
5） 飯田宏樹, 他共著. 松果体病変に対する infratentorial supracerebellar approach, No Shinkei Geka　2007年；35巻：453－466.
6） 飯田宏樹. 脳（脊髄）虚血の治療と麻酔‐麻酔薬および麻酔関連薬と脳脊髄血管‐，蘇生，東京　2008年；27巻；106－117.
7） 飯田博樹．麻酔科医はどこまで臓器保護に関与できるか？‐脊髄保護に関して‐，日本臨床麻酔学会誌　2008年；別冊：599－607.

総説（欧文）
1） Iida H, Iida M. Effects of spinal analgesics on spinal circulation the safety standpoint. J Neurosurg Anesthesiol Rev. 2008;20:180-187.

原著（和文）
1） 山口忍，竹中元康，福岡尚和，棚橋重聡，飯田宏樹，土肥修司．中心静脈カテーテル留意依頼症例で起きたインシデントに対する麻酔科外来での対応，日本臨床麻酔学会誌　2006年；26巻：713－717.
2） 田口佳広，飯田宏樹，山口忍，鷲見和行，棚橋重聡，竹中元康，土肥修司．外傷性頸部症候群に伴う頭に硬膜外自己血パッチが有効であった1症例‐脳脊髄液減少症の診断における硬膜外生理食塩水注入の有効性‐，ペインクリニック　2006年；27巻：1451－1455.
3） 植木啓文，小川直志，飯田宏樹．うつ病の残遺症状に対して ECT が著効した1例，臨床精神医学　2006年：35巻：1195－1200.
4） 大畠博人，土肥修司．塩酸ラジオロール，クリニカルプラクティス　2007年；26巻：62－64.
5） 大畠博人，土肥修司．冠動脈疾患患者における筋弛緩薬の拮抗，Lisa　2007年；14巻：460－466.
6） 大畠博人，種村衣里子，土肥修司．高用量デクスメデトミジンを用いた非挿管・自発呼吸下でのラリンゴマイクロ手術の麻酔経験，麻酔　2008年；57巻：427－432.
7） 大畠博人，山田忠則，土肥修司．もやもや病患者の浅側頭動脈‐中大動脈吻合中術中に急性硬膜外血腫を生じた1例，麻酔　2008年；57巻：755－760.

原著（欧文）
1） Yanagidate F, Dohi S. Modified nasal cannula for simultaneous oxygen delivery and end-tidal CO 2 monitoring during spontaneous breathing. Eur J Anaesthesiol. 2006;23:257-260.　IF 1.435
2） Iida H, Iida M, Takenaka M, Fujiwara H, Dohi S. Angiotensin II type 1 (AT1)-receptor blocker prevents impairment of endothelium-dependent cerebral vasodilation by acute cigarette smoking in rats. Life Sci. 2006;78:1310-1316.　IF 2.257
3） Tanahashi S,Iida H,Dohi S. An anaphy lactoid reaction after administration of fluorescein sodium

during neurosurgery. Anesth Analg. 2006;103:503. IF 2.214

4) Yamakawa H, Yamada K, Sumi K, Iida H, Iwama T. Preoperative assessment of microvascular compression of cranial nerve IX and X using 3D fast imaging employing steady-state acquisition resonance imaging in glossopharyngeal neuralgia. Neurosurg Q. 2006;16:166-168. IF 0.073

5) Iida H, Iida M, Ohata H, Michino T, Dohi S. Effect of dexmedetomidine on cerebral circulation and systemic hemodynamics after cardiopulmonary resuscitation in dogs. J Anesth. 2006;20:202-207.

6) Tanemura E, Masue T, Sugimoto J, Dohi S. Repetitive acute shock following tracheal extubations after neurosurgery for a cerebellar tumor. J Anesth. 2006;20:255-256.

7) Tanabe K, Tokuda H, Takai S, Matsushima-Nishiwaki R, Hanai Y, Hirade K, Katagiri Y, Dohi S, Kozawa O. Modulation by the steroid/thyroid hormone superfamily of TGF-β-stimulated VEGF release from vascular smooth muscle cells. J Cell Biochem. 2006;99:187-195. IF 3.381

8) Oshima T, Kasuya Y, Okumura Y, Murakami T, Dohi S. Identification of independent risk factors for fentany-induced cough. Can J Anesth. 2006;53:753-758. IF 1.808

9) Zeng W, Chen X, Dohi S. Antinociceptive Synergisic Interaction Between Clonidine and Ouabain On thermal Nociceptive tests in the Rat. J Pain. 2007;8:983-988. IF 3.578

10) Dohi S, Iida M, Iida H, Nagase K, Nagata C. Implementation of smoke-free policy in university hospital decreases carboxyhemoglobin level in inpatients undergoing surgery. Anesthesiology. 2007;106:406-407. IF 4.596

11) Kumazawa M, Iida H, Uchida M, Iida M, Takenaka M, Dohi S. The comparative effects of intravenous nicardipine and prostaglandin E1 on the cerebral pial arteriolar constriction seen after unclamping of an aortic cross-clamp in rabbits. Anesth Analg. 2007;104:659-665. IF 2.214

12) Tanahashi S, Iida H, Oda A, osawa Y, Uchida M, Dohi S. Effects of ifenprodil on valtage-gated tetrodtoxin-resistant Na+ Channels in rat sensory neurons. Eur J Anaesth. 2007;24:782-788. IF 1.435

13) Miyamoto K, Shimizu K, Matsumoto S, Sumida H, Iida H, Hosoe H. Surgical treatment of scoliosis assiciated with central core disease: minimizing the effects of malignant hyperthermia with provocation tests. J Pediatric Orthopaedics B. 2007;16:239-242.

14) Oshima T, Utsunomiya H, Kasuya Y, Sugimoto J, Maruyama K, Dohi S. Identification of independent predictors for intravenous thiopental-induced yawning. J Anesth. 2007;21:131-135.

15) Takada M, Dohi S, Akamatsu S, Suzuki A. Effects of pericardial lidocaine on hemodynamic parameters and responses in dogs anesthetized with midazolam and fentanyl. J Cardiothorac vasc Anesth. 2007;21:393-399. IF 0.937

16) Oda A, Iida H, Tanahashi S, Osawa Y, Yamaguchi S, Dohi S. Effects of alph2 adrenoceptor agonists on tetrodotoxin-resistant Na channels in rat dorsal root ganglion neurons. Eur J Anaesthesiol. 2007;24:934-941. IF 1.435

17) Tanabe K, Takai S, Matsushima-Nishiwaki, Kato K, Dohi S, Kozawa O. $\alpha_2$ adrenoreceptor agonist regulates protein kinase C-induced heat shock protein 27 phosphorylation in C6 glioma cells. J Neurochem. 2008;106:519-528. IF 4.451

18) Iida H, Iida M, Takenaka M, Fukuoka N, Dohi S. Rho-kinase inhibitor and nicotinamide adenine dinucleotide phosphate oxidase inhibitor prevent impairment of endothelium-dependent cerebral vasodilation by acute cigarette smoking in rats. J Renin Angiotensin Aldosterone Syst. 2008;9:89-94. IF 0.851

19) Iida H, Iida M, Dohi S, Fukuoka N, Iida M. Preoperative smoking cessation and smoke-free policy in a university hospital in Japan. Can J Anaesth. 2008;55:316-318. IF 1.808

20) Sumi K, Iida H, Yamaguchi S, Fukuoka N, Shimabukuro K, Dohi S. Human atrial natriuretic peptide prevents the increase in pulmonary artery pressure associated with aortic unclamping during abdominal aortic aneurysmectomy. J Cardiothorac Vasc Anesth. 2008;22:204-209. IF 0.937

21) Kumazawa M, Iida H, Uchida M, Iida M, Fukuoka N, Michino T, Dohi S. The effects of transient cerebral ischemia on vasopressin-induced vasoconstriction in rabbit cerebral vessels. Anesth Analg. 2008;106:910-915. IF 2.214

22) Niinomi K, Banno Y, Iida H, Dohi S. Nicorandil, an Adenosine Triphate-Sensitive Potassium Channel Opener, Inhibits Muscarinic Acetylcholine Receptor-Mediated Activation of Extracellular Signal-Regulated Kinases in PC12 Cell. Anesth Analg. 2008;107:1892-1898. IF 2.214

23) Mizuta K, Osawa Y, Mizuta F, Xu D, Emala CW. Functional expression of GABAB receptors in airway epithelium. Am J Respir Cell Mol Biol. 2008;39:296-304. IF 1.154

## 4. 研究費獲得状況

### 1）競争的資金

1) 研究代表者：赤松　繁(松波総合病院)，研究分担者：小澤　修，土肥修司；科学研究費補助金基盤研究(C)：収受つき周術期心筋虚血後の心のリモデリングにおける線溶系因子の役割と臨床的意義；平成 17－18 年度；3,800 千円(2,700：1,100 千円)

2) 研究代表者：飯田宏樹，研究分担者：飯田真美，土肥修司；科学研究費補助金基盤研究(C)：リモートプレコンディショニングによる脊髄保護法の細胞内メカニズムと関連因子の解析；平成 18－19 年

度；3,100 千円(1,600：1,500 千円)

3） 研究代表者：長瀬　清；科学研究費補助金若手(B)：一過性全脳虚血後の脳微小循環反応に対する脳低体温療法の影響；平成 16－17 年度；1,800 千円(1,100：700 千円)

4） 研究代表者：土肥修司，研究分担者：大澤陽子，柳舘富美，田辺久美子；科学研究補助金基盤研究(A)：麻酔薬シグナル伝達機構におけるナトリウムカリウムポンプの役割とその構造変化の解析；平成 19－21 年度；21,760 千円(8,660：6200：6900 千円)

5） 研究代表者：長瀬　清；科学研究費補助金若手(B)：一過性全脳虚血モデルにおける Rho キナーゼ阻害薬ファスジルの脳微小循環への影響；平成 19－21 年度；3,650 千円(1,750：1,000：900 千円)

6） 研究代表者：柳舘富美；科学研究費補助金若手(B)：局所麻酔薬とオピオイドの脊髄疼痛制御機構における相互作用の機序の解明；平成 19 年度；800 千円

7） 研究代表者：山本真由美，研究分担者：長瀬　清，高塚直能，紀ノ定保臣；経済産業省医療経営人材育成事業におけるケーススタディ教材開発プロジェクト；平成 19 年度；238 千円

8） 研究代表者：飯田真美，研究分担者：飯田宏樹，土肥修司；科学研究費補助金基盤研究(C)：心肺蘇生時の脳保護における性ホルモンの意義と役割－一過性全脳虚血モデルでの検討－；平成 20－22 年度；3,914 千円(1,814：1,100：1,000 千円)

9） 研究代表者：大畠博人；科学研究費補助金基盤研究(C)グルタミン酸受容体作動薬の脳微小血管および AQP-4 に与える影響に関する検討；平成 20－22 年度；2,450 千円(1,050：700：700 千円)

10） 研究代表者：田辺久美子，研究分担者：小澤　修；科学研究費補助金基盤研究(C)：中枢神経系における神経保護作用の分子基盤の解析；平成 20－22 年度；4,200 千円(2,500：1,000：700 千円)

### 2）受託研究

なし

### 3）共同研究

なし

## 5. 発明・特許出願状況

1） 飯田宏樹：血管内皮機能測定装置；平成 20 年(特願 2007‐138493)

## 6. 学会活動

### 1）学会役員

土肥修司：

1） 日本麻酔科学会評議員(～現在)
2） 日本臨床モニター学会評議員(～現在)
3） 日本臨床麻酔学会評議員(～現在)
4） 日本集中治療学会評議員(～現在)
5） 日本蘇生学会評議員(～現在)
6） 日本循環制御医学会評議員(～現在)
7） 日本ペインクリニック学会評議員(～現在)
8） 日本局所麻酔学会評議員(～現在)
9） 日本疼痛学会評議員(～現在)
10） 日本小児麻酔学会評議員(～現在)

飯田宏樹：

1） 日本麻酔科学会代議員(～現在)
2） 日本ペインクリニック学会評議員(～現在)
3） 日本疼痛学会評議員(～現在)
4） 日本神経麻酔集中治療研究会評議員(～現在)

### 2）学会開催

土肥修司：

1） 日本麻酔科学会第 55 回学術大会(平成 20 年 6 月，横浜)
2） 第 11 回日本脳低温療法学会(平成 20 年 7 月，岐阜)

竹中元康：

1） 第 19 回東海ペインクリニック研究会(日本ペインクリニック学会東海地方会)(平成 20 年 5 月，名古屋)

3）学術雑誌

土肥修司：

1） Jounal of Anesthesia(日本麻酔学会誌);Editor(～現在)
2） Regional Anesthesia & Pain Medicine;Editor(～現在)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

土肥修司：

1） 線維筋痛症の病因・病態解明に関する分科会公開シンポジウム(平成 18 年 3 月，東京，特別講演「疼痛のシグナル伝達・制御機構」演者)
2） 第 10 回日本麻酔・集中治療研究会(平成 18 年 4 月，大阪，座長)
3） 第 13 回「痛みの研究会」(平成 18 年 6 月，愛知，特別講演「痛みの臨床と脊髄メカニズム」演者)
4） 第 13 回秋田疼痛研究会(平成 18 年 6 月，秋田，特別講演「痛みの脊髄メカニズムとその治療」講演者)
5） 日本麻酔科学会第 53 回学術集会(平成 18 年 6 月，神戸，学術講演　座長)
6） 日本麻酔科学会第 53 回学術集会(平成 18 年 6 月，神戸，シンポジウム「生命と酸素、活性酸素、活性窒素」座長)
7） 日本麻酔科学会第 53 回学術集会(平成 18 年 6 月，神戸，特別講演　座長)
8） 第 9 回日本脳低温療法学会(平成 18 年 7 月，東京，セッション　座長)
9） 日本ペインクリニック学会第 40 回大会(平成 18 年 7 月，神戸，特別講演　座長)
10） 第 5 回東海麻酔専門医会「学術講演会」(平成 18 年 8 月，名古屋，特別講演「アミノ酸輸液による術中体温維持」演者)
11） 第 9 回岐阜急性血液浄化研究会(平成 18 年 9 月，岐阜，特別講演　座長)
12） 第 11 回日本心臓血管麻酔学会学術大会(平成 18 年 9 月，長崎，教育講演「最近の心房細動マネジメント」座長)
13） 第 73 回下呂市医師会学術講演会(平成 18 年 10 月，岐阜，特別講演「痛みの臨床と脊髄疼痛受容機構」座長)
14） 日本臨床麻酔学会第 26 回大会(平成 18 年 10 月，旭川，シンポジウム　座長)
15） 日本臨床麻酔学会第 26 回大会(平成 18 年 10 月，旭川，ランチョンセミナー　座長)
16） 日本蘇生学会第 25 回大会(平成 18 年 12 月，浜松，特別講演　座長)
17） 第 10 回岐阜周術期循環管理研究会(平成 19 年 1 月，岐阜，特別講演「短時間作用$\beta_1$遮断薬の現状と新たな適応」座長)
18） 日本麻酔科学会東海・北陸支部第 4 回学術集会(平成 19 年 2 月，名古屋，教育講演　座長)
19） 第 11 回日本神経麻酔・集中治療研究会(平成 19 年 4 月，秋田，イブニングセミナー　座長)
20） 第 8 回緩和ケア・プラクティス(平成 19 年 8 月，岐阜，特別講演　座長)
21） 第 10 回岐阜急性血液浄化研究会(平成 19 年 9 月，岐阜，特別講演　座長)
22） 第 11 回岐阜周術期循環管理研究会(平成 20 年 1 月，岐阜，特別講演「周術期管理における心エコーの有用性」座長)
23） 日本麻酔科学会第 55 回学術集会(平成 20 年 6 月，横浜，特別講演「医師の品格」座長)
24） 第 11 回日本脳低温療法学会(平成 20 年 7 月，岐阜，招請講演「モンブランからの生還－登山で偶発性低体温症－」座長)
25） 第 16 回日本集中治療医学会東海北陸地方会(平成 20 年 7 月，岐阜，会長講演「科学し連携する集中治療」座長)
26） 第 9 回緩和ケア・プラクティス(平成 20 年 8 月，岐阜，特別講演　座長)
27） 日本臨床麻酔学会第 28 回大会(平成 20 年 11 月，京都，招請講演　座長)

飯田宏樹：

1） 岐阜周術循環管理セミナー(平成 18 年 5 月，岐阜，教育講演　座長)
2） 日本臨床麻酔学会第 26 回大会(平成 18 年 10 月，旭川，シンポジウム　演者)
3） 第 11 回日本神経麻酔・集中治療研究会(平成 19 年 4 月，秋田，シンポジウム「血管作動薬の脳脊髄

血流(血管)に与える影響」演者)
4) 日本蘇生学会第 26 回大会(平成 19 年 10 月，岡山，シンポジウム「麻酔薬および麻酔関連薬と脳脊髄血管」演者)
5) 第 11 回岐阜周術期循環管理研究会(平成 20 年 1 月，岐阜，教育講演「DPC 対象民間総合病院における特定集中治療室可動について」座長)
6) 日本麻酔科学会第 55 回大会(平成 20 年 6 月，横浜，シンポジウム「麻酔・手術前禁煙：その効果と outcome」演者)
7) 日本麻酔科学会第 55 回大会(平成 20 年 6 月，横浜，ワークショップ「麻酔専門医の必修テクニックシリーズ 2」座長)
8) 日本麻酔科学会東海・北陸支部第 6 回学術集会(平成 20 年 9 月，岐阜，教育講演「周術期の感染管理　～米国の SCIP から学ぶ～」座長)

竹中元康：
1) 第 16 回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会(平成 19 年 6 月，高山，特別講演「癌疼痛治療 update」演者)
2) 第 19 回東海ペインクリニック研究会(平成 20 年 5 月，名古屋，特別講演「慢性痛モデルの自律神経機能と気象要素変化に対する反応性について」座長)
3) 第 24 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会(平成 20 年 7 月，岐阜，シンポジウム「癌性疼痛とその対策」演者)

長瀬　清：
1) 第 18 回日本臨床モニター学会総会(平成 19 年 4 月，名古屋，ランチョンセミナー「次世代の麻酔記録を目指して～臨床現場からの提案～」演者)
2) 岐阜大学十六銀行産学連携・医療経営シンポジウム(平成 19 年 6 月，岐阜，シンポジウム「手術室の効率的な運営を目指して」演者)
3) 第 55 回日本麻酔科学会総会(平成 20 年 6 月，横浜，シンポジウム「完全電子カルテシステムを活用した医療の質の向上、効率化標準化の改善，医療過誤防止に向けた 3 年間の取り組み」演者)

## 8. 学術賞等の受賞状況
なし

## 9. 社会活動
飯田宏樹：
1) 岐阜県メディカルコントロール委員(平成 20 年度)

## 10. 報告書
1) 土肥修司：麻酔・疼痛シグナル伝達におけるイオンチャネルとイオン・トランスポーターの制御機構：平成 14－17 年度科学研究費補助金基盤研究(A)研究成果報告書：1－102(2006 年 3 月)
2) 飯田宏樹：リモートプレコンディショニングによる脊髄保護法の細胞内メカニズムと関連因子の解析：平成 18－19 年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書：1－60(2008 年 3 月)

## 11. 報道
なし

## 12. 自己評価
評価

前回の報告書からの著明な変化は，大学病院はもとより関連病院の麻酔科の業務の増加などによる人手不足で，研究に避ける時間が非常に減ったこと，などが重なったが，いくつかの面での課題は充分にとはいえないが，アメリカ麻酔学会での発表，ヨーロッパ麻酔学会（演題応募中）そして日本麻酔科学会への発表を通して，達成できたと評価している。

現状の問題点及びその対応策

医学部および病院の全面移転から 5 年を経て，診療体制並びに研究体制も整備されてきた。だが，人

的問題など研究を遂行している上での実際的な問題である。現在研究を希望して大学院に入学している医師にも，学費を払いながら，臨床業務を義務化して遂行せざるを得ないことであったが，現在は改善している。この対応には，社会人大学院生も定着し，病院診療業務との共存な可能となってきたといえる。抜本的な改革は今後の問題として残されている。研究費は，幸にも科学研究費の配分を受け，研究室の整備もなり，当面は活発な研究活動が期待できる。

今後の展望

現在している研究レベルを少ない研究員でどう維持し，発展させていくか，が引き続いての課題である。大学病院の社会的使命の一つ，優れた臨床医を関連する医療機関に派遣するという目的があるだけに，当面のマンパワーの充足は期待できないので，新しい手技を導入し，一部行っている他研究機関との共同研究によって，より効率的に研究を遂行することである。研究者の脊髄鎮痛機構へのシグナル伝達に関する研究の競争も活発になってきた。現在，脊髄後根神経ニューロンで展開してきた研究をミクログリア細胞に発展させ，成果も上がっているので，この分野での活発な成果が期待される。また，カプサイシン誘発の脊髄後根細胞における細胞内シグナル伝達 ERK のリン酸化を，ロピバカインなどの局所麻酔薬，あるいは $Na^{+}-K^{+}-2Cl^{-}$ トランスポーターの阻害薬であるフロセミドがどう修飾するかの検討へと進めていく。

研究室での研究遂行の抜本的な解決が見出されないままであるが，麻酔・手術中の輸液（糖含有輸液）の利点などを尿中アクアポリンの動態から，大血管遮断による末梢虚血問題をバソプレッシンの動態や虚血耐性（ischemic preconditioning）から解明するなどの，臨床の安全性の検討を毎日の臨床業務で解決を図るべき研究プロジェクトを推進している。

## （8）蘇生・集中治療学分野

### 1. 研究の概要

この分野は，「麻酔薬によって抑制され生命の幅を極端に狭くしている状態，かつ手術という激しいストレス下にある患者の呼吸・循環・体液・代謝管理である」である認識のもと，蘇生の力量がなくては安全に麻酔をかけることができないという視点からの研究であり，目的を新しい心肺蘇生法と心臓機能モニターの開発という従来蘇生・集中治療における中心的な課題においてきた。

### 2. 名簿

教授(併任)：　土肥修司　　Shuji Dohi

### 3. 研究成果の発表

著書（和文）
麻酔・疼痛制御学分野参照

著書（欧文）
麻酔・疼痛制御学分野参照

総説（和文）
麻酔・疼痛制御学分野参照

総説（欧文）
麻酔・疼痛制御学分野参照

原著（和文）
麻酔・疼痛制御学分野参照

原著（欧文）
麻酔・疼痛制御学分野参照

### 4. 研究費獲得状況

#### 1）競争的資金

麻酔・疼痛制御学分野参照

#### 2）受託研究

麻酔・疼痛制御学分野参照

#### 3）共同研究

麻酔・疼痛制御学分野参照

### 5. 発明・特許出願状況

麻酔・疼痛制御学分野参照

### 6. 学会活動

#### 1）学会役員

麻酔・疼痛制御学分野参照

#### 2）学会開催

麻酔・疼痛制御学分野参照

#### 3）学術雑誌

麻酔・疼痛制御学分野参照

### 7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

麻酔・疼痛制御学分野参照

## 8. 学術賞等の受賞状況

麻酔・疼痛制御学分野参照

## 9. 社会活動

麻酔・疼痛制御学分野参照

## 10. 報告書

麻酔・疼痛制御学分野参照

## 11. 報道

麻酔・疼痛制御学分野参照

## 12. 自己評価

評価

客員臨床教授である前回の赤松を中心に，薬理病態学（小澤教授）の指導を受け，研究を遂行している。大学病院はもとより関連病院の麻酔科の業務の増加などによる人手不足で，研究に避ける時間が非常に減ったこと，などが重なって，課題は充分に達成できなかったが，一部，臨床的な視点の研究，並びに脳低温療法の研究の成果がみられてきた。

現状の問題点及びその対応策

研究上の問題は多い。研究施設と環境，人的問題など研究を遂行している上での実際的な問題である。医学部および病院の全面移転，さらに特に法人化後の一昨年，昨年は臨床業務が多忙を極め，この面で研究は遂行できなかった。幸い，新しく加わった大学院生がと一緒に研究を再開する。

今後の展望

臨床における重要なモニター機器の新しい発展として，動脈圧曲線から心一回拍出量を推測する方法を，さまざまな血管病態における信頼性を評価し，それを臨床における安全性に繋げる研究を進めている。

麻酔・疼痛制御学分野と一緒にすすめている，脳微小循環を頭蓋内有窓法に用いての心肺蘇生中の脳循環に広げて検討することに加えて，心肺蘇生法での効果が確実視されてきたパソプレッシンの脳軟膜血管への作用，大血管遮断および遮断後のパソプレッシンやエンドセレンの動態に注目して研究を開始する。この分野でも，従来以上に薬理病態（小澤教授）などの本学基礎系分野の指導を仰ぎ，研究の質の向上に努める。

## （9）口腔病態学分野

### 1. 研究の概要

現在，当分野において展開中の研究課題を臨床研究と基礎研究に大別して述べる。

臨床研究：最近の分子生物学の発展により，多くの疾患において分子生物学的機序が明らかとされて来ている。また，近年の再生医療研究の発展も著しく，口腔医療への応用も様々な面で進展して来ている。この現状を鑑み，当分野では，口腔病変（口腔がん，白板症，扁平苔癬，その他歯原性腫瘍など）の解析と，再生医療の臨床展開に軸足を置き以下の研究課題に取り組んでいる。

1）口腔病変の分子疫学的解析
2）口腔機能再建（移植・再生医療）
3）口腔乾燥症の病態と治療
4）口腔がんの集学的治療
5）ヒト歯胚・歯髄からの幹細胞採取と iPS 細胞化・バンク化事業

基礎研究：口腔がんの次世代治療法開発を目指し，発がん・悪性化進展プロセスにおける Initiation, Promotion, Progression の各 Phase に於ける制御の可能性と顎・口腔機能の改善・再生に対する細胞工学的検討を視野に以下の検討を行なっている。

1）がん悪性化進展機序の解析
2）骨代謝・再生医療の新技術開発
3）口腔がん化学予防法の開発
4）ヒト歯胚・歯髄からの幹細胞採取と iPS 細胞化・バンク化事業

### 2. 名簿

| | | |
|---|---|---|
| 教授： | 柴田敏之 | Toshiyuki Shibata |
| 准教授： | 土井田　誠 | Makoto Toida |
| 講師： | 山下知巳 | Tomomi Yamashita |
| 講師： | 牧田浩樹 | Hiroki Makita |
| 臨床講師： | 加藤恵三 | Keizo Kato |
| 臨床講師： | 米本和弘 | Kazuhiro Yonemoto |
| 臨床講師： | 畠山大二郎 | Daijiro Hatakeyama |
| 臨床講師： | 浅香雄一郎 | Yuichiro Asaka |
| 医員： | 武田知子 | Tomoko Takeda |
| 医員： | 宮崎康雄 | Yasuo Miyazaki |

### 3. 研究成果の発表

著書（和文）

1）藤塚秀樹，土井田　誠，柴田敏之．河合達志，斎藤　誠，豊山洋輔編．ここまできた電脳病院システム：Dental IT Navigation 2006，東京：デンタルダイヤモンド社；2006 年，112－115.
2）柴田敏之．中村康生(セカンド・オピニオンを推進させる会)編．実力医の履歴書　外科系 III　脳神経外科の病気　頭頸部・口腔の癌　甲状腺癌，東京：ライフ企画；2008 年：409.
3）柴田敏之．中村康生(セカンド・オピニオンを推進させる会)編．医者がすすめる専門病院・東海版，東京：ライフ企画；2008 年：423.
4）柴田敏之．日本口腔ケア学会編．口腔癌と口腔ケア：口腔ケア　基礎知識　口腔ケア 4 級・5 級認定資格基準準拠，東京：永末書店；2008 年：27－28.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

1）柴田敏之．ビスファスフォネート製剤と歯科治療―顎骨壊死の危険性と医歯薬連携の必要性，岐歯新報 2007 年；742 号：30－36.
2）柴田敏之．ビスファスフォネート製剤による顎骨壊死の危険性と医歯薬連携の必要性，岐阜県医師会報 2007 年；672 号：14－15.
3）土井田　誠. 歯科・口腔外科における慢性疼痛―特に舌痛症について，アルカロイド研究会会誌　2008 年；34 巻：19－25.

総説（欧文）
なし

原著（和文）
1） 牧田浩樹，宮崎康雄，山下知巳，土井田 誠，柴田敏之．頬粘膜に転移した腎細胞癌の一例，日本口腔診断学会雑誌　2006 年；19 巻：306－309.
2） 土井田 誠，加藤恵三，米本和弘，牧田浩樹，畠山大二郎，楠 幸博，宮本 謙，藤塚秀樹，山下知巳，石丸純一，柴田敏之．シェーグレン症候群患者の口腔乾燥症治療における塩酸セビメリン水和物の副作用発現とその予防に関する臨床的検討，日本口腔科学会雑誌　2006 年；55 巻：246－252.
3） 大久保恒正，田中宏史，今井　努，益田大輔，柴田敏之．うつ病に伴う口腔内セネストパチー，高山赤十字病院紀要，2006 年；30 号：18－21.
4） 今井　努，大澤将也，大久保恒正，岡本清尚，柴田敏之．右頬部に発症した類表皮嚢胞の 1 例，高山赤十字病院紀要　2006 年；30 号：40－43.
5） 浅香雄一郎，山下徹郎，上田倫弘，中嶋頼俊，林　信，藤田昌宏，柴田敏之．早期に下顎骨転移を来した肺癌の 2 例，日本口腔診断学会雑誌　2007 年；20 巻：354－359.
6） 山本真由美，御田村相模，長瀬江利，田中生雅，浅田修市，佐橋文仁，牧田浩樹，土井田　誠，柴田敏之，武田　純．岐阜大学生に歯科健康診断を実施して，Campus Health　2007 年；44 巻：109－114.
7） 本多恭子，佐橋文仁，御田村相模，長瀬江利，臼井るり子，田中生雅，牧田浩樹，土井田　誠，柴田敏之，武田　純，山本真由美．大学生における口腔の健康状態と生活習慣との関連について，学校保健研究　2007 年；49 巻：112－116.
8） 土井田　誠，南谷祐希，横森貴子，飯田市規，伊藤　悠，馬場政司，信田普崇，梅村直己，松木宏篤，金光憂子，太田昌秀，加藤恵三，牧田浩樹，山下知巳，柴田敏之．岐阜市近郊の一般住民におけるドライマウスの実態に関する研究，日本口腔科学会雑誌　2007 年；56 巻：301－308.
9） 飯田一規，牧田浩樹，米本和弘，山下知巳，土井田　誠，柴田敏之．移植腸骨に再々発したエナメル上皮腫の 1 例，日本口腔外科学会雑誌　2008 年；54 巻：435−439.
10） 喜久田利弘，古田 勲，吉澤信夫，大西 真，扇内秀樹，柴田敏之，島原政司，栗田賢一，柴原孝彦，瀬戸皖一．日本口腔外科学会指定研修機関での禁煙対策および会員の喫煙に関する質問票調査，日本口腔外科学会雑誌　2008 年；54 巻：400−408.
11） 畠山大二郎，楠　幸博，牧田浩樹，山下知巳，土井田　誠，柴田敏之．術後に傍咽頭リンパ節に転移をきたした口腔扁平上皮癌の 2 例，日本口腔診断学会雑誌　2008 年；21 巻：45−48.
12） 山下知巳，松本祐樹，浅香雄一郎，牧田浩樹，土井田　誠，柴田敏之．経口ビスフォスフォネート製剤に関連した下顎骨壊死の治癒経験，日本口腔外科学会雑誌　2008 年；54 巻：243−247.
13） 米本和弘，馬場政司，山下知巳，土井田　誠，柴田敏之．増殖様式が類推された集合性歯牙腫の 1 例，日本口腔診断学会雑誌　2008 年；21 巻：103−106.

原著（欧文）
1） Kato K, Hara A, Kuno T, Mori H, Yamashita T, Toida M, Shibata T. Aberrant promoter hypermethylation of p16 and MGMT genes in oral squamous cell carcinomas and the surrounding normal mucosa. J Cancer Res Clin Oncol. 2006;132:735-743.　IF 2.366
2） Kato Y, Shibata T, Yamashita T, Kobayashi A, Yonemoto K, Makita H, Mizuta K, Hayashi S, Toida M. Parapharyngeal and retropharyngeal space infection of odontogenic origin. Asian J Oral Maxillofac Surg. 2006;18:224-227.
3） Suwa T, Saio M, Umemura N, Yamashita T, Toida M, Shibata T, Takami T. Preoperative radiotherapy contributes to induction of proliferative activity of CD8+ tumor-infiltrating T-cells in oral squamous cell carcinoma. Oncol Rep. 2006;15:757-763.　IF 1.597
4） Yamashita T, Toida M, Hatakeyama D, Yonemoto K, Kusunoki Y, Shibata T. Schwannoma of the oral cavity. Asian J Oral Maxillofac Surg. 2006;18:75-78.
5） Shibata T, Nagayasu H, Kitajo H, Arisue M, Yamashita T, Hatakeyama D, Iwasaki T, Kobayashi H. Inhibitory effects of fermented brown rice and rice bran on the development of acute hepatitis in Long-Evans Cinnamon rats. Oncol Rep. 2006;15:869-874.　IF 1.597
6） Matsuo M, Hayashi S, Maeda S, Tanaka O, Mizuta K, Shibata T, Itou Y, Hoshi H. 4 Gy single fraction palliative radiotherapy for the treatment of painful recurrent soft palate carcinoma by high-dose-rate mold branchytherapy: a case report. Oral Oncol. 2006;42:305-307.　IF 2.569
7） Kobayashi A, Tomida M, Ishimaru JI, Negawa T, Murayama K, Era S, Shibata T. Correlation between the oxidative state of the synovial fluid and the radiological morphorogy of the temporomandibular joint disorder. Asian J Oral Maxillofac Surg. 2006;18:185-190.
8） Imai H, Saio M, Nonaka K, Suwa T, Umemura N, Ouyang GF, Nakagawa J, Tomita H, Osada S, Sugiyama Y, Adachi Y, Takami T. Depletion of CD4+CD25+regulatory T cells enhances interleukin-2-induced antitumor immunity in a mouse model of colon adenocarcinoma. Cancer Sci. 2007;98:416-423.　IF 3.165
9） Kato H, Kanematsu M, Kusunoki Y, Shibata T, Murakami H, Mizuta K, Ito Y, Hirose Y. Nasoalveolar cyst: imaging findings in three cases. Clinical Imaging. 2007;31:206-209.　IF 0.742
10） Long NK, Makita H, Yamashita T, Toida M, Kato K, Hatakeyama D, Shibata T. Chemopreventive

effect of fermented brown rice and rice bran on 4-nitroquinoline 1-oxide-induced oral carcinogenesis in rats. Oncol Rep. 2007;17:879-885. IF 1.597

11) Makita H, Mutoh M, Murayama T, Yonemoto K, Kobayashi A, Fujitsuka H, Toida M, Shibata T, Miyamoto S, Yasui Y, Suzuki R, Wakabayashi K, Tanaka T. A prostaglandin E2 receptor subtype EP1-selective antagonist, ONO-8711, suppresses 4-nitroquinoline 1-oxide-induced rat tongue carcinogenesis. Carcinogenesis. 2007;28:677-684. IF 5.406

12) Nakagawa J, Saio M, Tamakawa N, Suwa T, Frey AB, Nonaka K, Umemura N, Imai H, Ouyang GF, Ohe N, Yano H, Yoshimura S, Iwama T, Takami T. TNF expressed by tumor-associated macropfages, but not microglia, can eliminate glioma. Int J Oncol. 2007;30:803-811. IF 2.295

13) Tanaka K, Mikamo H, Nakao K, Watanabe K. In vitro antianaerobic activity of DX-619, a new des-fluoro(6) quinolone. Antimicrob Agents Chemother. 2006;50:3908-3913. IF 4.390

14) Yura S, Terahara S, Ohga N, Yamashita T. A case of carcinosarcoma arising in the submandibular gland. Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod. 2007;103:820-824. IF 1.597

15) Zhi H, Yamada Y, Hirose Y, Kato K, Sheng HO, Zheng Q, Oyama T, Asano N, Kuno T, Hara A, Mori H. Effect of 2-(carboxyphenyl)retinamide and genistein on the formation of early lesions in 1,2-dimethylhydrazine-induced colon carcinogenesis in rats. Asian Pacific Journal of Cancer Prevention. 2007;8:33-38.

16) Haniffa A.M., Saitoh M, Abiko Y, Takeshima M, Nishimura M, Yamazaki M, Nagayasu H, Sugiura C, Muthumala M, Kaku T, Chiba I, Shibata T. Expression pattern of p63 in oral epithelial lesions and submucous fibrosis associated with betel-quid chewing in Sri Lanka. Med Mol Morphol. 2007;40:203-207. IF 1.338

17) Kato K, Long NK, Makita H, Toida M, Yamashita T, Hatakeyama D, Hara A, Mori H, Shibata T. Effects of green tea polyphenol on methylation status of RECK gene and cancer cell invasion in oral squamous cell carcinoma cells. Br J Cancer. 2008;99:647-654. IF 4.635

18) Long NK, Kato K, Yamashita T, Makita H, Toida M, Hatakeyama D, Hara A, Mori H, Shibata T. Hypermethylation of the RECK gene predicts poor prognosis in oral squamous cell carcinomas. Oral Oncol. 2008;44:1052-1058. IF 2.569

19) Miyazaki Y, Hara A, Kato K, Oyama T, Yamada Y, Mori H, Shibata T. The effect of hypoxic microenvironment on matrix metalloproteinase expression in xenografts of human oral squamous cell carcinoma. Int J Oncol. 2008;32:145-151. IF 2.295

20) Takeda T, Tezuka Y, Horiuchi M, Hosono K, Iida K, Hatakeyama D, Miyaki S, Kunisada T, Shibata T, Tezuka K. Characterization of dental pulp stem cells of human tooth germs. J Dent Res 2008;87:676-681. IF 3.496

21) Takeshima M, Saitoh M, Kusano K, Nagayasu H, Kurashige Y, Malsantha M, Arakawa T, Takuma T, Chiba I, Kaku T, Shibata T, Abiko Y. High frequency of hypermethylation of p14, p15 and p16 in oral pre-cancerous lesions associated with betel-quid chewing in Sri Lanka. J Oral Pathol Med. 2008;37:475-479. IF 1.711

22) Umemura N, Saio M, Suwa T, Kitoh Y, Nonaka K, Ouyang GF, Okada M, Balazs M, Adany R, Shibata T, Takami T. Tumor-infiltrating myeloid-derived suppressor cells are pleiotropic-inflamed monocytes/macrophages that bear M1- and M2-type characteristics. J Leukoc Biol. 2008;83:1136-1144. IF 4.128

## 4. 研究費獲得状況

### 1）競争的資金

1) 研究代表者：柴田敏之，研究分担者：千葉逸朗，土井田誠，石崎明，A. ラシナハ，郭英雄，周振英；科学研究費補助金基盤研究(B)(2)：スリランカ・台湾における口腔がんの分子疫学的比較調査；平成16－19年度；13,000千円(3,500：3,300：3,100：3,100千円)

2) 研究代表者：畠山大二郎，研究分担者：柴田敏之；科学研究費補助金若手研究(B)：骨形成における血管内皮増殖因子(VEGF)誘導機構の解析；平成17－19年度；3,400千円(1,800：800：800千円)

3) 研究代表者：加藤恵三，研究分担者：山下知巳，土井田誠，柴田敏之；科学研究費補助金基盤研究(C)：口腔扁平上皮癌における RECK 遺伝子の関わりと脱メチル化による発癌・浸潤の制御；平成 17－18年度；2,400千円(1,900：500千円)

4) 研究代表者：柴田敏之，研究分担者：畠山大二郎，牧田浩樹，加藤恵三；科学研究費補助金萌芽研究：智歯歯胚からの組織幹細胞の樹立と分化・増殖能の評価；平成18－19年度；3,200千円(1,600：1,600千円)

5) 研究代表者：柴田敏之，研究分担者：山下知巳，土井田誠，加藤恵三；科学研究費補助金基盤研究(B)：ヒト口腔粘膜病変における遺伝子メチル化異常の関与；平成 18－21 年度；13,200 千円(3,200：3,300：3,300：3,400千円)

6) 研究代表者：牧田浩樹，研究分担者：柴田敏之，土井田 誠，加藤恵三；科学研究費補助金基盤研究

(C)：4NQO 誘発ラット舌発癌における遺伝子メチル化異常の解析；平成 19－20 年度；2,200 千円(1,100：1,100 千円)

7) 研究代表者：土井田　誠，研究分担者：加藤恵三，牧田浩樹，山下知巳，柴田敏之；科学研究費補助金基盤研究(C)：口腔扁平上皮癌の頸部リンパ節転移に関する染色体・遺伝子異常の解析；平成 19－21 年度；3,100 千円(1,200：900：1,000 千円)

8) 研究代表者：山下知巳，研究分担者：加藤恵三，牧田浩樹，畠山大二郎，土井田　誠，柴田敏之；科学研究費補助金基盤研究(C)(2)：口腔癌における血漿中のメチル化異常遺伝子断片の検索と臨床病態との相関；平成 20－22 年度；3,500 千円(1,700：900：900 千円)

9) 研究代表者：武田知子；科学研究費補助金若手研究(B)：ヒト歯髄組織幹細胞の樹立効率向上と iPS 細胞化の検討；平成 20－21 年度；2,540 千円(1,360：1,180 千円)

10) 研究代表者：宮崎康雄；科学研究費補助金若手研究(B)：低酸素環境によるヒト口腔がんの EMT 誘導；平成 20－21 年度；2,540 千円(1,340：1,200 千円)

11) 研究代表者：畠山大二郎；科学研究費補助金若手研究(B)：ヒト歯胚組織幹細胞におけるオステオカルシン発現と血管内皮増殖因子誘導機構の解析；平成 20－22 年度；3,100 千円(1,100：1,000：1,000 千円)

12) 研究代表者：浅香雄一郎；科学研究費補助金若手研究(B)：ヒト口腔癌 Bcl-2 ファミリー遺伝子の発現様式と治療効果の検討；平成 20－22 年度；2,800 千円(1,000：900：900 千円)

**2）受託研究**

1) 土井田誠，加藤恵三，米本和弘，牧田浩樹，畠山大二郎，楠幸博，宮本謙，藤塚秀樹，山下知巳，石丸純一，柴田敏之：シェーグレン症候群患者の口腔乾燥症治療における塩酸セビメリン水和物の副作用発現とその予防に関する臨床的研究；平成 18 年度；120 千円(120 千円)：日本化薬(株)

2) 柴田敏之，土井田 誠，山下知巳，牧田浩樹，加藤恵三，畠山大二郎，楠 幸博，米本和弘，浅香雄一郎：イトリゾール内用液 1%使用成績調査；平成 18 年度；200 千円(200 千円)：ヤンセンファーマ(株)

3) 柴田敏之，土井田　誠：口腔乾燥症・舌痛症の研究；平成 20 年度；200 千円(200 千円)：大正富山医薬品(株)

**3）共同研究**

なし

## 5. 発明・特許出願状況

1) 手塚建一・柴田敏之・國貞隆弘・玉置也剛・山中伸弥・高橋和利：ヒト歯胚幹細胞からの人工多能性幹細胞(iPS 細胞)の高効率誘導法；平成 20 年度(特許出願中)

## 6. 学会活動

**1）学会役員**

柴田敏之：

1) 日本口腔外科学会評議員(～現在)
2) 日本口腔外科学会カリキュラム委員会委員(～現在)
3) 日本口腔外科学会タバコ対策委員会委員(～現在)
4) 日本口腔外科学会専門医認定委員会委員(～現在)
5) 日本口腔外科学会雑誌編集査読委員会委員(平成 18 年 9 月～現在)
6) 日本口腔科学会評議員(～現在)
7) 日本口腔腫瘍学会評議員(平成 17 年 9 月～現在)
8) 日本口腔顎顔面外傷学会理事(～現在)
9) 日本口腔ケア学会評議員(平成 19 年 9 月～現在)

土井田 誠：

1) 日本病理学会評議員(～現在)

2）学会開催

柴田敏之：

1） 第 33 回日本口腔外科学会中部地方会(平成 20 年 5 月，岐阜)

3）学術雑誌

柴田敏之：

1） 日本口腔外科学会雑誌：編集査読委員(平成 18 年 9 月～現在)

7．学会招待講演，招待演者，座長

柴田敏之：

1） 第 61 回日本口腔科学会総会(平成 19 年 4 月，神戸，ミニシンポジウム「癌(基礎)6」座長)
2） 日本耳鼻咽喉科医会　第 32 回臨床家フォーラム(平成 19 年 8 月，高山，特別講演「口腔乾燥症と口腔粘膜疾患の診断と治療：高齢化社会をふまえた口腔乾燥症・舌痛症への対応」演者)
3） 岐阜県三師会合同学術講演会–骨粗鬆症治療と歯科診療(平成 20 年 3 月，岐阜，特別講演「ビスホスホネート製剤による顎骨壊死の危険性と医・歯・薬連携の必要性」演者)
4） 第 6 回日本骨粗鬆症研究会学術大会(平成 20 年 3 月，岐阜，教育講演「骨粗鬆症治療薬(ビスホスホネート製剤)と歯科治療—顎骨壊死の危険性と医歯薬連携の必要性」演者)
5） 第 1 回岐阜県口腔ケアフォーラム(平成 20 年 3 月，岐阜，講演「口腔ケアーその新しい可能性について」座長)
6） 第 1 回岐阜県口腔ケアフォーラム(平成 20 年 3 月，岐阜，講演「口腔ケアのいろは—急性期，有病者に対する口腔ケア」座長)
7） 第 11 回岐阜緩和医療研究会(平成 20 年 5 月，岐阜，特別講演・関連講演「緩和医療における口腔ケア」座長)
8） 第 33 回日本口腔外科学会中部地方会(平成 20 年 5 月，岐阜，特別講演「臨床麻酔の進歩と患者の安全性」座長)
9） 第 33 回日本口腔外科学会中部地方会(平成 20 年 5 月，岐阜，ランチョンセミナー「PK-PD 理論に基づく感染症治療薬の適正使用–添付文書どおりでは患者を救えない」座長)
10） 第 33 回日本口腔外科学会中部地方会(平成 20 年 5 月，岐阜，リフレッシュセミナー「リスクマネージメント–予知性の向上」座長)
11） 岐阜県保険医協会 歯科研究会(平成 20 年 9 月，岐阜，講演「病診連携によるインプランと治療の展開–安心・安全のインプランと治療を目指して」演者)

土井田 誠：

1） 第 60 回日本口腔科学会総会(平成 18 年 5 月，名古屋，ミニシンポジウム「心身医学」演者)
2） 第 61 回日本口腔科学会総会(平成 19 年 4 月，神戸，ミニシンポジウム「粘膜(臨床)」演者)
3） 第 18 回日本口腔病理学会総会(平成 19 年 8 月，岐阜，スライドセミナー「口腔病変の肉眼所見」演者)
4） AGORA21—新世代 H2 ブロッカーの進化論(平成 20 年 4 月，大阪，講演「舌痛症(口腔粘膜灼熱感)に対するラフチジンの緩和効果について」演者)
5） 第 33 回日本口腔外科学会中部地方会(平成 20 年 5 月，岐阜，ランチョンセミナー「シェーグレン症候群に伴う口腔乾燥症に対する各種治療成績とその意義」座長)
6） 第 34 回アルカロイド研究会(平成 20 年 6 月，大阪，ワークショップ「日常診療における慢性疼痛の管理」演者)
7） 第 19 回日本臨床口腔病理学会スライドセミナー(平成 20 年 8 月，東京，講演「口腔病変の肉眼所見」演者)

山下知巳：

1） 第 25 回日本口腔腫瘍学会総会(平成 19 年 2 月，名古屋，ミニシンポジウム「口腔癌治療の現状とこれから」演者)
2） 第 61 回日本口腔科学会総会(平成 19 年 4 月，神戸，ミニシンポジウム「癌(臨床)3」演者)

浅香雄一郎：

1） 第 61 回日本口腔科学会総会(平成 19 年 4 月，神戸，ミニシンポジウム「外傷」演者)

諏訪達彦：
1） 第 60 回日本口腔科学会総会(平成 18 年 5 月，名古屋，ミニシンポジウム「癌の免疫 1」演者)

## 8. 学術賞等の受賞状況

1） 加藤恵三：ゴールドリボン賞(平成 19 年 10 月 5 日)

## 9. 社会活動

柴田敏之：
1） 科研費審査委員(平成 18 年 9 月～現在)
2） 国保審査会委員(～現在)
3） 岐阜県歯科技工士試験委員(～現在)

土井田 誠：
1） 岐阜県歯科技工士試験委員(平成 16 年 12 月～現在)

## 10. 報告書

1） 柴田敏之：EGF 受容体・シグナル伝達を分子標的とする口腔がん治療の基礎的検討：平成 15 年度－17 年度科学研究費補助金　研究成果報告書：1－102(2006 年 1 月)
2） 柴田敏之：スリランカ・台湾における口腔がんの分子疫学的比較調査：平成 16 年度－19 年度科学研究費補助金　研究成果報告書：1－50(2008 年 4 月)

## 11. 報道

1） 柴田敏之：DICOM Viewer(ダイコム・ビューワー)とは：岐歯新報(2006 年 4 月 22 日)
2） 土井田 誠，柴田敏之：一般市民の 3 割にドライマウス：Medical Tribune(2006 年 6 月 8 日)
3） 柴田敏之：病院歯科紹介③：岐阜県保険医新聞(2006 年 8 月 10 日)
4） 柴田敏之：ビスファスフォネート製剤と歯科治療—顎骨壊死の危険性と医歯薬連携の必要性：岐歯新報(2007 年 10 月 22 日)
5） 柴田敏之：ビスファスフォネート製剤による顎骨壊死の危険性と医歯薬連携の必要性：岐阜県医師会報(2007 年 11 月 1 日)

## 12. 自己評価

評価

口腔病態学分野としての総合的評価として，概ね目標を達成していると考えている。

現状の問題点及びその対応策

特に活動を推進するために最も必要である資金面は，平成 15 年度以降現在まで連続して科学研究費 1000 万以上の獲得目標を達成して来ている。また，研究材料（臨床材料）の集積も経時的に積み重なって来ている。これらの面では，このままの努力を継続することにより確実に成果が得られると考えられる。しかしながら，科研費はその額・期間ともに研究を大きく展開するには小額かつ短期であり，更なる大型の外部研究資金を獲得する必要性を痛切に感じている。また，現有人員のリサーチマインドを刺激することも非常に重要と考え，2004 年より継続している分野内リサーチカンファランスを強化・発展させるために基礎の各分野との連携も重要と考えている。

今後の展望

現在，ヒト歯胚・歯髄からの組織幹細胞の集積・バンク化と iPS 細胞化を展開中であり，有望な結果を示しつつある。これを成長エンジンの柱の一つとして加え，関連分野との発展を模索している（大変有望な研究資源となる可能性が高く，進捗により多大なる成果を得ると期待している)。